弘前大学医学部保健学科・保健学研究科

自己点検・評価報告書

平成26年10月

は　し　が　き

「弘前大学保健学科・保健学研究科自己点検・評価報告書」は、ここ数年間、毎年作成され保健学科ホームページ（HP）と保健学研究科 HP で公表されております。本報告書を作成するためには、対象者の協力を得て、また相応の時間と労力を投じて実施されております。この角度から想定されるのは、保健学研究科の教職員は、教育・研究等の時間を割きながらも本報告書を作成することは、もはや義務化された業務の一つとして捉えているということになります。

一方、本来の報告書名は、「弘前大学大学院保健学研究科・医学部保健学科自己点検・評価報告書」であっても良いように思います。この思いは私だけではないように想像しております。ある時、本報告書について、自己点検はされているが、評価はなされていないのではないかという意見を頂戴したことがあります。言われてみると、報告書名と内容に差異があり指摘されて至極当然との思いでした。しかし、その後この点について疑義を示されることなく、今回に至っております。都合良く解釈するならば、評価の部分は、報告書を公表することにより、ご覧頂いた方に評価を委ねているとも考えられますが、先のご指摘者は、評価までを自分たちで行う様な報告書名なので、自分たちで評価まで行うべきとの考えで意見を述べられたものと想像しております。

本報告書は、保健学研究科が博士後期課程 2 領域 6 分野、博士前期課程 4 領域 12 分野から構成され、また保健学科が 5 専攻から構成されているため、それぞれ教育・研究・社会貢献という枠をつけて区分し、博士後期課程の各分野別に報告書を作成しております。内容によっては区分が不十分なところがあると思いますが、今後さらに充実していくと考えております。

本報告書をご覧頂き、ご意見、ご感想については、ご連絡頂きますようお願い申し上げます。

2014 年 9 月

保健学研究科長　木田　和幸

目　　次

Ⅰ．機構図 ･･･ 1

Ⅱ．各教育研究分野における教育・研究・社会貢献活動等･････････････････････････ 2

健康支援科学領域･･･ 3

健康増進科学分野･･･ 3

老年保健科学分野･･･ 36

障害保健科学分野･･･ 63

医療生命科学分野･･･ 95

放射線生命科学分野･･･ 95

生体機能科学分野･･･129

病態解析科学分野･･･149

管理運営活動･･･165

Ⅲ．平成 25 年度医学部保健学科学士課程卒業論文題目一覧表･････････････････････171

Ⅳ．平成 25 年度保健学研究科博士（前期・後期）課程学位論文題目一覧表････････180

Ⅰ．機構図

- 大学院 保健学研究科　博士（後期）
  - 健康支援科学領域
    - 健康増進科学分野
    - 老年保健学分野
    - 障害保健学分
  - 医療生命科学領域
    - 放射線生命科学分野
    - 生体機能科学分野
    - 病態解析科学分野

- 大学院 保健学研究科　博士（前期）
  - 看護学領域
    - 基礎看護・看護教育学分野
    - 地域保健看護学分野
  - 生体情報科学領域
    - 生体情報放射線科学分野
    - 放射線生命科学分野
    - 医用放射線機器学分野
  - 生体機能科学領域
    - 細胞機能科学分野
    - 細胞分子生物科学分野
    - 代謝機能科学分野
    - 病態解析科学分野
  - 総合リハビリテーション科学領域
    - 理学療法学分野
    - 作業療法学分野
    - 生活環境保健学分野

- 医学部
  - 医学科（省略）
  - 保健学科
    - 看護学専攻
    - 放射線技術科学専攻
    - 検査技術科学専攻
    - 理学療法学専攻
    - 作業療法学専攻

Ⅱ．各教育研究分野における教育・研究・社会貢献活動等

健康増進科学分野

Department of Health Promotion

１．教員

健康増進科学分野（人）

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
5	5	4	7	1

２．教育活動

1）21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
13 年度	山辺英彰	教授	生活習慣と健康	6
	西沢義子	教授	メンタルヘルス(B)	8
	尾田　敦	教授	運動とリハビリテーション(A)	8
	三崎直子	准教授	人を育む営み(E) 生活習慣と健康(N)	4 6
	小倉能理子	准教授	人を育む営み(B)	4
	北宮千秋	准教授	人を育む営み(B)	6
	冨澤登志子	准教授	放射線防護の基礎 人を育む営み(E) 生活習慣と健康	2 4 6
	佐藤真由美	講師	人を育む営み(I)	6
	漆坂真弓	講師	情報Ⅰ	15
	平川裕一	講師	運動とリハビリテーション(D)	30
	吉田英樹	講師	運動とリハビリテーション(B)	8
	會津桂子	助教	基礎ゼミナール	30
	北島麻衣子	助教	基礎ゼミナール 情報Ⅰ	30 30
	澄川幸志	助教	運動とリハビリテーション(B)	8

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
13 年度				

2) 学部教育

(1) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	山辺英彰	教授	疾病論Ⅰ	1	32
	木田和幸	教授	環境衛生学	2T	16
			衛生学公衆衛生学	2T	32
			衛生学公衆衛生学	3R	16
			地域保健学	1N	14
			保健統計学	2N	32
			検査科学総合演習Ⅰ	4T	2
	西沢義子	教授	コミュニケーション論	1	6
			看護教育方法論	2	24
			看護教育課程論	4	15
			看護科教育法Ⅱ	3	22
			教職実践演習	4	20
			公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	4
	尾田　敦	教授	理学療法学総論演習	1	6
			筋骨格系障害学	2	12
			筋骨格系障害学演習	2	8
			義肢装具学	2	15
			日常生活活動分析学	2	15
			筋骨格系障害義肢装具学演習	2	30
			神経系障害装具学演習	3	30
			理学療法研究演習	3	15
			スポーツ障害理学療法学演習	3	30
			成人看護学演習	3	2
	三崎直子	准教授	助産学概論	3	4
			助産診断・技術学Ⅱ	3	15
			助産診断・技術学Ⅲ	3	15
			助産診断・技術学Ⅳ	3	15
			卒業研究	3	2

13 年度	小倉能理子	准教授	看護技術学演習Ⅱ	2	24
			看護教育学演習	3	12
			看護科教育法Ⅱ	3	32
			教職実践演習	4	32
	北宮千秋	准教授	保健学概論	1	2
			保健学概論演習	4	2
			公衆衛生看護学概論Ⅰ	1	16
			公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	16
			地域看護方法論Ⅱ	3	8
			地域看護学演習	3	30
			卒業研究	3	2
	冨澤登志子	准教授	成人看護方法論Ⅰ	2	30
	佐藤真由美	講師	看護技術学	2	30
			看護技術学演習Ⅰ	2	48
			看護技術学演習Ⅱ	2	24
			看護過程論演習	2	30
	漆坂真弓	講師	成人看護方法論Ⅰ	2	4
	平川裕一	講師	身体障害作業療法学	2	30
			高次脳機能障害作業療法学	2	15
			身体障害作業療法学演習	3	30
			身体疾患別作業療法学	3	30
			研究方法論演習：身体障害分野	3	30
	吉田英樹	講師	物理療法学	2	26
			理学療法管理・運営論	3	8
			地域リハビリテーション論	3	12
			福祉住環境学	3	4
			理学療法学総論演習	1	6
			脳障害理学療法学演習	3	16
			内部障害系理学療法学演習	3	2
			理学療法研究演習	3	46
	赤池あらた	助教	物理療法学	2	4
			内部障害系理学療法学演習	3	4
			成人看護学演習	3	6
			福祉機器適合論	3	16

13 年度	會津桂子	助教	看護技術学	2	15
			看護過程論演習	2	30
			看護科教育法Ⅱ	3	30
			看護教育方法論	2	30
	倉内静香	助教	地域看護学方法論Ⅱ	3	2
			地域保健学	1	4
			公衆衛生看護学方法論Ⅰ	2	2
			地域看護学演習	3	30
	北島麻衣子	助教	成人看護学演習	3	30
			成人看護方法論Ⅱ	3	4
			がん看護	4	4
			成人看護方法論Ⅰ	2	4
	澄川幸志	助教	筋骨格系障害学演習	2	6
			研究方法論演習	3	30
	三上佳澄	助手	成人看護学演習	3	30
			卒業研究	3	12

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	木田和幸	教授	衛生学公衆衛生学実習	3T	45
	西沢義子	教授	教育実習事前事後指導	4	6
	尾田　敦	教授	筋骨格系障害理学療法学実習	2	15
	三崎直子	准教授	助産学演習	3	60
	小倉能理子	准教授	看護技術学演習Ⅰ	2	4
			看護技術学演習Ⅱ	2	30
			教育実習事後指導	4	2
	冨澤登志子	准教授	成人看護学演習	3	15
	佐藤真由美	講師	看護技術学演習Ⅰ	2	48
			看護技術学演習Ⅱ	2	30
	漆坂真弓	講師	成人看護学演習	3	32
	平川裕一	講師	身体障害作業療法評価学実習	3	45
			義肢装具作業療法学実習	3	45
			身体障害作業療法学実習	3	45

13 年度	吉田英樹	講師	物理療法学実習 理学療法評価学実習 神経系障害理学療法学実習 内部障害系障害理学療法学実習	2 2 3 3	39 45 12 3
	赤池あらた	助教	内部障害系理学療法学実習 運動学実習 理学療法評価学実習 物理療法学実習 筋骨格系障害理学療法学実習	3 2 2 2 2	21 48 31 16 9
	會津桂子	助教	看護技術学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅱ	2 2	60 90
	澄川幸志	助教	人体機能学実習 身体障害作業療法学実習 軽作業作業療法学実習 日常生活活動能力学実習	2 3 1 3	45 45 45 45

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
13 年度	尾田　敦	教授	2 3	60 50
	三崎直子	准教授	4 3	225 90
	小倉能理子	准教授	2 3	65 180
	北宮千秋	准教授	4	270
	冨澤登志子	准教授	3	540
	佐藤真由美	講師	2 3	65 180
	漆坂真弓	講師	3	540
	平川裕一	講師	4 4	20 20
	吉田英樹	講師	2 3	45 45
	赤池あらた	助教	2 3	48 48

13 年度	會津桂子	助教	2 3 4	65 180 45
	倉内静香	助教	4 4	270 85
	北島麻衣子	助教	3	540
	澄川幸志	助教	4	40
	三上佳澄	助手	3	540

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
13 年度	山辺英彰	教授	4 2	腎臓内科学（医学科） 臨床医科学（教育学部）	10 32
	小倉能理子	准教授	4	教職実践演習（全学）	6
	北宮千秋	准教授	4	教職実践演習（全学）	6

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
13 年度	3 名	山辺英彰
	2 名	木田和幸
	2 名	西沢義子
	2 名	尾田　敦
	3 名	三崎直子
	3 名	小倉能理子
	3 名	北宮千秋
	3 名	冨澤登志子
	3 名	佐藤真由美
	3 名	漆坂真弓
	2 名	平川裕一
	5 名	吉田英樹
	1 名	赤池あらた
	2 名	會津桂子

13 年度	2 名	倉内静香
	2 名	北島麻衣子
	2 名	澄川幸志
	1 名	三上佳澄

4) 大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	山辺英彰	教授	成人保健看護学特論(M)	1	8
	木田和幸	教授	生活環境疫学特論(M) 基礎生活環境疫学特論(M)	1 1	30 30
	西沢義子	教授	健康科学特論(M) 看護教育学特論(M)	1 1	10 8
	尾田　敦	教授	運動療法学特論(M) 基礎理学療法学特論(M) 健康増進科学特論(D) 教育・研究者育成コースワーク(D)	1 1 1 1	10 30 6 8
	三崎直子	准教授	母性保健看護学特論(M)	1	15
	小倉能理子	准教授	看護教育学特論(M) 看護管理学特論(M)	1 1	6 6
	北宮千秋	准教授	小児保健看護学特論(M)	1	6
	冨澤登志子	准教授	成人保健看護学特論(M)	1	6
	平川裕一	講師	国際保健医療学(M) 身体障害者作業療法学特論(M)	1 1	6 15
	吉田英樹	講師	運動療法学特論(M) 保健学連携セミナー(M) 基礎理学療法学特論(M)	1 1 1	10 14 30

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	木田和幸	教授	生活環境疫学演習(M)	1	30
	西沢義子	教授	基礎看護・看護教育学特別研究(M) 健康増進科学特別研究(D)	2 3	30 30
	吉田英樹	講師	理学療法学特別演習(M)	1	30
	北島麻衣子	助教	医療被ばく演習(M)	1	2

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
13 年度	山辺英彰	教授	Inadequate awareness among chronic kidney disease patients regarding food and drinks containing artificially added phosphate. (D) Relationship between body mass index and course of pregnancy in women. (D) Measurement of estimated glomerular filtration rate is useful in stroke patients. (D)
	西沢義子	教授	意識障害のある患者に対する看護師の観察に関する実態調査(M) 臨床における看護職者の勤務状況と慢性疲労の現状に関する研究(D)

5) その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　称　等
13 年度	木田和幸	教授	H25 弘前大学 FD ワークショップ（第 16 回）
	西沢義子	教授	公開授業への参加（漆坂真弓講師） 公開授業への参加（医学科：PBL 学習）
	三崎直子	准教授	ＦＤ委員長として、公開授業・検討会、ＦＤミニフォーラム、ＦＤ講演会を担当
	漆坂真弓	講師	公開授業の実施
	平川裕一	講師	平成 25 年度公開授業検討会 ＦＤミニフォーラム

13 年度	吉田英樹	講師	科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化
	澄川幸志	助教	平成 25 年度弘前大学ＦＤワークショップ（第 15 回）テーマ「科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化」(H25.6.8) 平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24)
	三上佳澄	助手	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24)

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
13 年度	山辺英彰	教授	疾病論Ⅰ	弘前学院大学	30
	木田和幸	教授	公衆衛生学 公衆衛生学	東北栄養専門学校 厚生病院附属看護学院	30 14
	西沢義子	教授	基礎看護方法論Ⅳ（看護研究） 地域看護学Ⅰ	国立病院機構弘前病院附属看護学校 青森県立保健大学	20 4
	北宮千秋	准教授	公衆衛生学 公衆衛生学 保健医療福祉のしくみ	弘前医療福祉短期大学 黒石高等学校専攻科 医師会看護専門学校	30 30 12
	冨澤登志子	准教授	英語Ⅱ	国立弘前病院附属看護学校	30
	吉田英樹	講師	リハビリテーション医学 理学療法学 健康と運動	弘前医療福祉大学 弘前医療福祉大学 秋田看護福祉大学	16 8 30

13 年度	赤池あらた	助教	在宅看護援助論 2 介護技術論	弘前市医師会看護専門学校 青森歯科衛生士専門学校	10 32
	倉内静香	助教	保健医療論	弘前医師会	14
	澄川幸志	助教	介護職員初任者研修に関する講義	青森県立弘前実業高等学校	2
	三上佳澄	助手	吸引研修会	青森県理学療法士会	2

３．研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Kitamiya C. Responses of Public Health Nurses to the Consultations Following a Nuclear Disaster - Issues Associated with Level of Knowledge. Radiation Emergency Medicine, 2(2). 29-34, 2013.
2. Tomisawa T, Sasa H, Tachibana M, Itaki C, Aizu K, Ohgino A, Kitajima M, Urushizaka M, Kawasaki K, Noto Y, Yamabe H. Changes in the Educational Effects and Radiation Risk Perception by Radiological Education for the Students of School of Health Sciences. Radiation Emergency Medicine, 2. 56-63, 2013.
3. Urushizaka M, Noto Y, Ogura N, Kitajima M, Nishizawa Y, Ichinohe T, Yamabe H. Changes in nurses' impression of radiation after attending education seminars on radiation. Radiation Emergency Medicine, 2(2). 35-42, 2013.
4. Sumigawa K, Koeda S, Koike Y. The effect of difference of paper craft work on psychological effects-The relationship between flow experience during a paper craft work activity and psychological effect-. Med Biol, 157(5). 701-707, 2013.
5. Sumigawa K, Koike Y, Koeda S, Shozushima K. Comparison of external- and internal-focus motor learning. Med Biol, 157(6). 911-915, 2013.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Narita I, Fujita T, Shimada M, Murakami R, Shimaya Y, Nakamura N, Yamabe H,

Okumura K. An adult case of nephrotic syndrome presenting with pulmonary artery thrombosis: a case report. J Med Case Rep, 7. 215, 2013.

2. Shutto Y, Yamabe H, Shimada M, Murakami R, Fujita T, Nakamura N. Lack of awareness of phosphate in processed food and drinks among patients with chronic kidney disease. Progress in Medicine, 33. 201-205, 2013.
3. Nakamura N, Shimada M, Narita I, Shimaya Y, Fujita T, Murakami R, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Effects of Darbepoetin-alpha on oxidative stress marker in patients with chronic renal failure. Open J Nephrol, 4. 8-12, 2014.
4. Kitajima Y, Yamabe H, Yasujima M. Measurement of estimated glomerular filtration rate is useful in stroke patients. The Hirosaki Medical Journal, 65. 65-73, 2014.
5. Matsuo I, Nishizawa Y, Matsuo K, Kagiya A. CERVICAL CANCER SCREENING BEHAVIOR AND FACTORS ASSOCIATED WITH SCREENING BEHAVIOR. Hirosaki Medical Journal, 64. 2(4). 103-118, 2014.
6. Noto Y, Ogura N, Urushizaka M, Kitajima M, Nishizawa Y, Ichinohe T, Yamabe H. Development of the attitude scale on radiation emergency medicine for Japanese nurses and evaluation of its reliability and validity. The Journal of Radiological Nursing Society of Japan, 2(1). 3-11, 2014.
7. Noto Y, Kitamiya C, Itaki C, Urushizaka M, Kidachi R, Yamabe H. Role of nurses in a nuclear disaster: experience in the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident. Int Nurs Rev, 60(2). 196-200, 2013.
8. Ozawa K, Tomisawa T, Endo M, Sakuraba S, Urushizaka M, Kitajima M, Itaki C, Noto Y, Kawasaki K, Yamabe H, Tagami K. Factors related to changes in foot status and foot care in patients with diabetes mellitus participating in an exercise health education program. Journal of Diabetes Mellitus, 4(1). 67-71, 2014.
9. Makino M, Narita S, Yoshida H. Effects of exercise on stress reduction: A study using objective evaluation methods. J Health Sci Res, 4. 25-30, 2014.
10. Sasaki E, Umeda T, Takahashi I, Arata A, Yamamoto Y, Tanabe M, Oyamada K, Hashizume E, Nakaji S. Effect of glutamine supplementation on neutrophil function in male judoists. Luminescence, 28(4). 442-9, 2013.
11. Shutto Y, Shimada M, Kitajima M, Yamabe H, Saitoh Y, Saitoh H, Razzaque MS. Inadequate awareness among chronic kidney disease patients regarding food and drinks containing artificially added phosphate. PLoS One, (11). e78660, doi: 10.1371/journal, 2013.
12. Koike Y, Koeda S, Sumigawa K. Need for, and possibility of, training in seated dressing during toileting in stroke patients with poor standing balance.

Medicine and Biology, 157. 688-695, 2013.

13. Koeda S, Koike Y, Sumigawa K, et al. Factors affecting sleep disorder in convalescent stroke patients. Med Biol, 157(6). 799-804, 2013.
14. Tsuchiya R, Mikami K, Aizu K, Nishizawa Y. Patients with disturbances in consciousness as observed by clinical nurses: Analysis of nursing records. Open Journal of Nursing, 3(7). 467-471, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Satoh A, Kitamiya C, Yaegashi Y, Ohse F, Lee S, Kishi C, Menzawa K, Sasaki H. Influence of smoking on postpartum depression in Japan. health, 5(8). 1254-1260, 2013.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 西沢義子，野戸結花，北宮千秋，會津桂子．看護学生と看護師が受ける放射線防護服のイメージ．日本放射線看護学会誌，2(1)．29-34，2014.
2. 北宮千秋．看護学生のPAC分析による地域イメージー地域アセスメントツールとしての応用ー．日本看護学教育学会誌，23(3)．59-70，2014.
3. 澄川幸志，小枝周平，小池祐士，三橋佑平，村上正和，加藤拓彦．作業活動の心理的効果に対する作業時間の影響．作業療法ジャーナル，48(1)．77-82，2014.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 中村典雄，藤田雄，村上礼一，島田美智子，成田育代，柳町幸，松井淳，大沢弘，山辺英彰，奥村謙，福田真作，五日市敬，今村憲市，梅村芳文，岡本勝博，小倉絵里子，柿坂吉彦，角田秀雄，兼平裕，楠美尚子，工藤隆士，工藤健，沢田美彦，清水将之，白戸研一，田中正彦，玉田友一，千葉博信，宮本誠一．地域における糖尿病性腎症予防の試みー糖尿病性腎症II期の観察研究-．Progress in Medicine，33. 225-231，2013.
2. 野坂大喜，葛西宏介，中野学，藤岡美幸，七島直樹，三浦富智，中村敏也，木田和幸，高見秀樹．臨床検査技師学生教育におけるジグソー学習法とテスト=テイキング=チーム法を用いた協同学習の導入と効果．臨床検査学教育，5(2)．90-98，2013.
3. 堤弥生，西沢義子，野戸結花，小倉能理子，山辺英彰，細川洋一郎，根里明子，丸山恭子，明石真言．重粒子線治療を受ける患者の急性放射線障害とQOLについてー前立腺がんの場合ー．日本放射線看護学会誌，2(1)．19-28，2014.
4. 中田農生，吉田英樹，吉田舞．後頸部への電気刺激が座位バランス課題実施中のヒトの脳賦活状態に及ぼす影響に関する検討．理学療法科学，28(5)．653-656，2013.

5. 川口梨沙，吉田英樹，照井駿明．ストレッチングの前処置としての表在性および深部性温熱療法の有効性に関する検討：ホットパックと極超短波療法に注目して．理学療法科学，28(5)．653-656，2013.
6. 森聡，浦野祥平，吉田英樹，山田将弘．キセノン光の星状神経節近傍照射が自律神経活動動態および上肢末梢血管血流速に及ぼす影響．日本物理療法学会誌，20．64-67，2013.
7. 吉田舞，吉田英樹，中田農生．キセノン光の星状神経節近傍照射後の立位時脳血流動態に関する検討．東北理学療法学，25．29-35，2013.
8. 小枝周平，澄川幸志，小池祐士．回復期脳卒中患者における主観的回復感と脳卒中後抑うつ状態との関連．作業療法，32(2)．123-132，2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 佐藤誠剛，藤林直樹，奈良里美，山田智子，越後谷直樹，若井裕司，佐々木規博，尾田敦．中足骨疲労骨折における足底挿板療法の効果の検討．青森県スポーツ医学研究会誌，22．31-35，2013.
2. 石川大瑛，成田大一，高橋信人，澤田徹平，尾田敦．足関節捻挫受傷後の足関節装具の長期使用が足関節機能に与える影響について．靴の医学，27．39-43，2013.
3. 石渡朝生，成田大一，尾田敦．足関節装具が運動課題に及ぼす影響．靴の医学，27．69-72，2013.
4. 葛西文寿，成田大一，石川大瑛，高橋信人，尾田敦．姿勢変化時の足底接地面積の変化と運動能力との関連について．東北理学療法学，25．91-96，2013.
5. 松田基子，高橋一平，沢田かほり，大久保礼由，三宅良輔，平川裕一，上谷英史，戸塚学，梅田孝，中路重之．健康実践教室が全身の健康度および好中球活性酸素種産生能に及ぼす影響．弘前医学，64．127-135，2014.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1．北宮千秋．放射線による健康影響と住民教育　住民と向き合う保健師としての活動．日本地域看護学会誌，16(2)．81-85，2013．

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1．島田美智子，山辺英彰．肝炎ウィルス関連腎症．腎と透析，76．341-344，2014．

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1．山辺英彰：肝疾患と腎障害．悪性腫瘍と腎障害．感染症と腎障害．矢崎義雄総編集．内科学．第 10 版．pp1479-1486，朝倉書店，東京，2013．

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1．北宮千秋，他 7 名監修：保健師国家試験のためのデータマニュアル保健師 2014．メディックメディカ，東京，2013．

4）その他

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 医療情報科学研究所編，北宮千秋，他著：クエスチョン・バンク保健師国家試験問題解説 2014．メディックメディカ，東京，2013.
2. 安尾将法，久保惠嗣，漆坂真弓，冨澤登志子．疾患と看護がわかる看護過程ナーシングプロセス　COPD(慢性閉塞性肺疾患)．クリニカルスタディ，34(5)．361-383，2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

A.特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. Tomisawa T. ”Introduction to Advanced Human Resources Development Projects for Radiation Emergency Medicine”（チュラロンコン大学，Thailand）(2014.3.24-26)

C.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Nishizawa Y, Noto Y, Kitamiya C, Aizu K. Study of hazmat suit impression: A comparison between office workers and nurses. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
2. Noto Y, Nishizawa Y, Kitamiya C, Aizu K. Study on functionality of radiation-protective equipment. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
3. Kitamiya C. Attitudes of public health nurses in relation to radiation screening after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. The 5th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, Aomori, 2013.
4. Kitamiya C, Nishizawa Y, Noto Y, Aizu K. Improvements in the GM Survey meter for human measurement. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
5. Tomisawa T, Kamata C, Kitajima M, Urushizaka M, Tazawa A, Iida T. Effects on Relaxation by Active Video Game: Analyze by Stress Level and Autonomic Nervous Activity. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
6. Yoshida H, Maeda T, Terui S, et al. Effects of near-infrared irradiation around the stellate ganglion on sympathetic activity and peripheral circulation. WCPT-AWP & ACPT Congress 2013, Taichung, 2013.
7. Terui S, Yoshida H, Maeda T, et al. Near-infrared irradiation around the stellate ganglion improves post-stroke complex regional pain syndrome: A preliminary study. WCPT-AWP & ACPT Congress 2013, Taichung, 2013.
8. Maeda T, Yoshida H, Terui S, et al. Near-infrared irradiation around the stellate ganglion increases skeletal muscle blood flow of the upper extremity. WCPT-AWP & ACPT Congress 2013, Taichung, 2013.
9. Aizu K, Itaki C, Tomisawa T, Ohgino A. Changes in health sciences student's perceptions about radiation during their 4-year education. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
10. Aizu K, Nishizawa Y, Noto Y, Kitamiya C. Awareness regarding improvement of radiation protective equipment from the perspective of staff who engage in emergency radiation medicine and training. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
11. Kitajima M, Noto Y, Ogura N, Urushizaka M, Nishizawa Y, Ichinohe T, Yamabe H. THE EFFECTS OF THE WORKSHOP ABOUT RADIATION EMERGENCY FOR NURSES. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.

12. Kitajima M,, Urushizaka M, Sugawara A, Saito S, Kudo S. The psychological effects of foot massage using essential oil. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
13. Takamagi S, Kitajima M, Urushizaka M, Kasai A, Kudo S, Saito K, Saito M, Noto Y, Yonaiyama C, Aizu K, Akimoto Y, Tamakake T. Survey of awareness of, and efforts toward, English education among nursing teachers: comparison of teacher's English proficiency. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
14. Noto Y, Kitajima M, Asari M, Tazawa T. Changes in interface pressure during exercise in postoperative cancer patients with arm lymphedema wearing elastic sleeves. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
15. Fukushi Y, Itaki C, Kitajima M, Noto Y, Mariya Y. A STUDY ON CHANGES IN ERYTHEMA AND SKIN SURFACE TEMPERATURE DURING AND AFTER RADIOTHERAPY FOR BREAST CANCER PATIENTS. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
16. Mikami K, Tsuchiya R, Aizu K, Nishizawa Y. A study of the thinking process in the nursing assessment to perioperative patient. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.
17. Tsuchiya R, Mikami M, Aizu K, Nishizawa Y. The actual condition of observation of patients with consciousness disturbance by clinical nurses. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, 2014.

2) 全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

なし

C．一般演題（ポスター発表を含む）　67 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

Ｖ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1.　西沢義子

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名:緊急被ばく医療におけるサーベイメータアラーム音と防護服の改良に関する研究

配分額：900（千円）

2.　佐藤真由美

研究種目：基盤研究(C)

研究課題名：新卒看護師の職場定着をめざした社会化支援プログラムの開発

配分額：4,550（千円）

3．漆坂真弓

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名:慢性閉塞性肺疾患患者のセルフモニタリングによる運動療法支援プログラムの開発

配分額：3,510　（千円）

4.　平川裕一

研究種目：若手研究（B）

研究課題名：身体組成が呼吸機能に及ぼす影響についての大規模疫学研究

配分額：1,100（千円）

5．吉田英樹

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：キセノン光線の星状神経節近傍照射を用いた新しい睡眠改善法の開発

配分額：700（千円）

6．會津桂子

研究種目：若手研究（B）

研究課題名：看護学生の思考・判断力の定量的評価結果に基づく思考・判断力育成プログラムの構築

配分額：700（千円）

7．北島麻衣子

研究種目：若手研究（B）

研究課題名：精油を用いた看護ケアによるがん患者のストレス緩和効果の検証

配分額：　　1170（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.　冨澤登志子

研究種目：基盤研究Ｃ

研究課題名：糖尿病セルフマネジメント支援に関する学生教育プログラムの開発

研究代表者名：井瀧千恵子

配分額：3,900（千円）

2.　漆坂真弓

研究種目：基盤研究（C）（一般）

研究課題名：糖尿病セルフマネジメント支援に関する学生教育プログラムの開発

研究代表者：井瀧千恵子

配分額：5,070　（千円）

3. 吉田英樹

研究種目：基盤研究（Ｃ）

研究課題名:脳転移放射線治療患者における脳有害事象および脳機能変化の新たな評価法

研究代表者名：真里谷靖

配分額：50（千円）

4. 北島麻衣子

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：糖尿病セルフマネジメント支援に関する学生教育プログラムの開発

研究代表者名：井瀧千恵子

配分額：1,300（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1.　西沢義子

助成名：学術振興会受託研究

研究課題名：基礎看護学・学校保健分野にかかる学術研究動向に関する調査研究

配分額：1,300（千円）

他研究単位との研究分担者として

なし

3）学内の研究助成

研究代表者として

1.　西沢義子

助成名：研究科長裁量経費

研究課題名：看護職者の教育力開発支援センター・現職者支援部門

配分額：500（千円）

2. 山辺英彰

助成名：特定プロジェクト教育研究センター　研究経費

研究課題名：生活習慣病の療養に関する教育、研究、地域支援事業

配分額：740（千円）

3.　北宮千秋

助成名：被ばく医療人材育成研究支援事業

研究課題名：原子力災害を想定した地方自治体及び保健所保健師の取り組みと認識

配分額：300（千円）

4. 冨澤登志子

助成名:保健学研究科高度実践被ばく医療人材育成研究支援事業緊急被ばく医療人材育成事業

研究課題名:放射線被ばくに関連した看護診断概念の分析および看護診断用語の開発

配分額：300（千円）

5. 會津桂子

助成名：保健学研究科　被ばく医療人材育成支援事業

研究課題名：放射線医療教育における放射線リスク認知と系統的学習に関する研究

配分額：300（千円）

6. 北島麻衣子

助成名：平成 25 年度　保健学研究科　被ばく医療人材育成研究支援事業

研究課題名：放射線療法を受けるがん患者の放射線皮膚炎に関する研究

配分額：300（千円）

他研究単位との研究分担者として

なし

4）民間の研究助成

研究代表者として

なし

他研究単位との研究分担者として

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察、研究参加（3ヵ月未満）状況

1. 冨澤登志子

大学視察：University of Maryland School of Nursing

（ボルチモア、USA）（2013.9.17）

2. 冨澤登志子

大学視察：Johns Hopkins University School of Nursing

（ボルチモア，USA)(2013.9.17)

3. 西沢義子，小倉能理子，北宮千秋，冨澤登志子，會津桂子，北島麻衣子，三上佳澄

大学視察：University of Philippines, Manila, College of Nursing.

(Manila, Philippines)(2014.2.19)

4. 西沢義子，小倉能理子，北宮千秋，冨澤登志子，會津桂子，北島麻衣子，三上佳澄

医療施設視察：United Doctors Medical Center

(Manila, Philippines)(2014.2.19)

5.冨澤登志子

教育施設視察：University of Hawaii Translational Health Sciences Simulation Center(Honolulu, Hawaii, U.S.)(2014.3.3)

6.冨澤登志子

医療施設視察: Chulaborn Hospital（バンコク，タイ）(2014.3.24)

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

1. 冨澤登志子，會津桂子

University of Hawaii, John A. Burns School of Medicine, SimTiki Simulation Center FunSim D 2日間コース　受講（2014.3.4-5）

2）国内、地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

研究に関連した記事等があれば、添付すること。

４．社会貢献活動

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
山辺英彰	日本腎臓学会	評議員
木田和幸	日本衛生学会	評議員
	日本臨床検査学教育学会	評議員
	日本産業衛生学会	代議員
西沢義子	日本看護研究学会	評議員
	東北学校保健学会	世話人
	日本放射線看護学会	理事
	日本看護系学会協議会	指名理事
	日本ヒューマンケア学会	評議員

尾田　敦	青森県スポーツ医学研究会 青森県アスレティックトレーナーの会 メタボリック症候群対策事業化研究会	世話人 副会長 副会長
北宮千秋	日本放射線看護学会	選挙管理委員
冨澤登志子	日本放射線看護学会	理事
佐藤真由美	日本看護技術学会	評議員
平川裕一	一般社団法人青森県作業療法士会	全県理事 事務局長
倉内静香	青森継続看護研究会	書記

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
倉内静香	第 15 回青森継続看護研究集会	企画委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
山辺英彰	日本腎臓学会雑誌 The scientific world Journal	査読委員 査読委員
西沢義子	日本看護研究学会	査読委員
尾田　敦	理学療法研究	査読員
小倉能理子	保健科学研究	査読員
佐藤真由美	日本看護技術学会	専任査読委員
平川裕一	青森県作業療法研究	論文査読委員 症例査読委員
吉田英樹	日本理学療法士協会東北ブロック協議会学術機関誌「東北理学療法学」	論文査読委員
澄川幸志	青森県作業療法研究	論文査読委員 症例査読委員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
尾田　敦	日本理学療法学術大会	査読員
佐藤真由美	日本看護技術学会第 12 回学術集会	査読 座長
平川裕一	世界作業療法士連盟大会・日本作業療法学会	演題審査委員
吉田英樹	第 49 回日本理学療法学術大会演題査読委員（領域：物理療法，基礎理学療法）	演題査読委員
澄川幸志	第 24 回東北作業療法学会 世界作業療法士連盟大会・日本作業療法学会	座長 演題審査委員

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	現職者支援部門セミナー ①タブレット型パソコンを活用した患者指導教材の開発とその有効性の検討とワークショップ開催（1 回） ②「患者・家族指導で困難を感じている事例」に関する事例検討会（2 回） ③iPad で活用できる教材作りに関するワークショップ（2 回）	代表
三崎直子	青年講座「イクメン講座」 青年講座「大人の保健体育」 公民館活動(よろず相談)	講師
平川裕一	弘前大学大学院医学研究科健康・スポーツ医科学センター 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト　プロジェクト健診」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト　運動教室（岩木地区)」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト　運動教室（駒越地区)」 弘前大学「相馬健康増進プロジェクト　運動教室」	講師 身体機能計測員 運動指導講師 運動指導講師 運動指導講師

吉田英樹	社会福祉法人西寿会 特別養護老人ホームはまなす荘園内研修会「拘縮予防のためのストレッチングの基礎」	講師
赤池あらた	平成 25 年度青森県退職校長会東青支部総会・講演会「元気で笑顔の日々をピンピンコロリ」 宮城県ゆずり葉の会講習会「ポジショニングから考える拘縮・床ずれ予防ケア」 全国パーキンソン病友の会・青森県支部　勉強会「パーキンソン症状のリハビリの秘訣」 平成 25 年度目からウロコ！知って得する介護講座 平成 25 年度第 2 回障害者家庭教育学級「やさしい介護の仕方：災害時に覚えておきたいポイント～移乗、移動の方法、食事、入浴について～」 全国パーキンソン病友の会 2013 年度北海道・東北ブロック交流集会分科会「快適な日常生活のために」 平成 25 年度第 28 回青森県退職公務員連盟上十三支部女性部研修会　講演会「元気で笑顔の日々をピンピンコロリ！」 平成 25 年度　重訪部　家庭教育学習会「ポジショニングについて」 七ヶ浜地域住民講演会「健康から考える筋肉と運動　～拘縮予防ケア～」 特別講習会「こころの理解とそのかかわり方　～初老期・老年期からの精神病～」	講師
會津桂子	看護職者の教育力開発支援センターセミナー 「患者・家族指導で困難を感じている事例」に関する事例検討会 iPadで活用できる教材作りに関するワークショップ 看護診断セミナー	センター員 企画・運営
北島麻衣子	山野いきいきウォーキング（すこやかコミュニティセンター生活習慣病フォローアップ部門） がんサロン勉強会「リンパ浮腫について学ぼう」	企画・運営 講師
澄川幸志	弘前大学「岩木健康増進プロジェクトプロジェクト健診」	アンケート調査員
三上佳澄	すこやかコミュニティー支援センター生活習慣病フォローアップ公開講座「山野いきいきウォーキング」	運営

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	学術システム研究センター 新規採用養護教諭研修校外研修Ⅰ（青森県総合学校教育センター） 青森県養護教諭5・10年経験者研修Ⅱ（青森県総合学校教育センター）	専門研究員 講師 講師
三崎直子	青森県周産期医療協議会	委員
平川裕一	青森県介護実習・普及センター活動事業運営委員会 青森県介護実習・普及センター介護機器普及事業運営協議会	委員 副会長

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職
赤池あらた	厚生労働省・公益(財)テクノエイド協会委託事業平成25年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業「床走行リフトミクニマイティライト2」 厚生労働省・公益(財)テクノエイド協会委託事業平成25年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業「特殊尿器　ヒューマニー」 厚生労働省・公益(財)テクノエイド協会委託事業平成25年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業「床走行リフトミクニマイティライト2」 厚生労働省・公益(財)テクノエイド協会委託事業平成25年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業「スカイリフト」	講師

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
山辺英彰	第 3 回徳島腎臓病を考える会	講師
西沢義子	日本看護系学会協議会講演会　看護学領域における科研費申請のために	講師
尾田　敦	平成 25 年度青森県理学療法士会津軽支部研修会「足底挿板療法（基礎編）」 平成 25 年度青森県理学療法士会西北五支部第 7 回特別研修会「足部機能評価方法について」 平成 25 年度一般社団法人青森県鍼灸マッサージ師会健康セミナー市民公開講座「足と体バランス」 青森慈恵会病院院内研修会「足部運動からみた運動連鎖―足底挿板作製時の観察ポイント―」 青森県アスレティックトレーナーの会公認トレーナー養成講座平成 25 年度第 1 回研修会「動作分析とバイオメカニクス」「検査・測定と評価」 青森県アスレティックトレーナーの会公認トレーナー養成講座平成 25 年度第 3 回研修会「基本的な徒手療法（関節モビライゼーション，PNF）」	講師
北宮千秋	弘前大学生涯学習教育センター・七戸町教育委員会 家庭教育学級講座「障がい児や長期疾患、気になる児童の対応に関する機関連携」 浪江町役場職員への健康講話および健康相談(5 回/3 日) 「浪江町役場の皆さんの健康維持に向けて」	講師
平川裕一	青森県介護実習・普及センター　出張家庭介護講座 in 田子町「介護予防教室～ゆたかな生活・あじわい深い生活は健康から～」 青森県介護実習・普及センター　出張家庭介護講座 in 弘前市「介護予防教室～ゆたかな生活・あじわい深い生活は健康から～」 青森県介護実習・普及センター　出張家庭介護講座 in 青森市「お手伝いが必要なかたへのおもてなし」	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
木田和幸	日本臨床検査学教育協議会	理事
西沢義子	弘前大学看護職キャリア支援センター	副センター長
尾田　敦	医療法人整友会弘前記念病院 公立七戸病院 なかざわスポーツクリニック 青森慈恵会病院	非常勤理学療法士
小倉能理子	国立函館病院看護研究の指導・助言 弘前大学医学部附属病院看護部研究委員会 弘前大学医学部附属病院看護部臨床指導者研修会	講師 委員 講師
冨澤登志子	看護部 3 年目研修（看護過程と看護診断）	講師
平川裕一	一般社団法人青森県作業療法士会 一般社団法人青森県作業療法士会	全県理事 事務局長
吉田英樹	医療法人元秀会　弘前小野病院 社会福祉法人西寿会 特別養護老人ホームはまなす荘	非常勤理学療法士 リハビリ指導講師
赤池あらた	公益財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院 社会福祉法人抱民社 社会福祉法人浪岡あすなろ会 社会福祉法人ハ晃園 青森県重症心身障害児者を守る会平成 25 年度交流セミナー保護者研修会「障害児者の身体について」 平成 25 年度青森県国民健康保険団体連合会中南支部管内国保運営協議会委員及び国保主管課長合同研修会「素朴な疑問、最近の話題～食事と運動と排泄の関係～」 平成 25 年度 青森県特別支援学校教頭・副校長会冬期研修会「生き生きと働ける職場づくりとメンタルヘルス～自己分析とエクササイズ～」 青森県重症心身障害児者を守る会　北分会研修会　「身体障害児者の食事についての研修会」	非常勤理学療法士 講師

赤池あらた	青森県重症心身障害児者を守る会　東分会研修会　「身体障害児者ケアの最新情報と介助についての研修会」	講師

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
西沢義子	社団法人青森県看護協会　教育方法、教育課程 社団法人青森県看護協会　ファーストレベル教育課程	講師 講師
尾田　敦	青森県理学療法士会津軽支部	相談役
三崎直子	青森県看護協会研究指導　2 件 弘前大学医学部附属病院看護部研究指導　2 件	講師
小倉能理子	社団法人青森県看護協会　ファーストレベル教育課程	講師
冨澤登志子	看護診断セミナー 緊急被ばく医療人材育成事業現職者研修	企画運営委員 企画運営委員
平川裕一	一般社団法人青森県作業療法士会基礎研修会「症例検討概論」 一般社団法人青森県作業療法士会現職者共通研修「事例検討方法論」	講師
赤池あらた	正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護職員基礎力アップ研修「認知症予防ケア」 平成 25 年度ひなた宮川特別講習会「福祉用具における進行性特定疾病へのアプローチ」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護職員基礎力アップ研修「介護職のための苦情対応実践」 中弘南黒地区認知症グループホーム協会総会・研修会「認知症ケアの基礎」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護職員基礎力アップ研修「介護展開の過程」 ひなた宮川　特別講習会「認知症予防ケア～適切なアセスメントとケア提供の工夫～」	講師
	正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護員職員基礎力アップ研修「介護現場におけるエイジフルケア」	

赤池あらた	平成 25 年度介護スキルアップ研修ステップアップコース「片麻痺・拘縮ケア」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護員職員基礎力アップ研修「介護現場におけるエイジフルケア」 つくしヘルパーステーション研修会「拘縮ケア」 ひなた宮川　特別講習会「認知症事例と福祉用具～地域ケアシステムに向けて～」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護職員基礎力アップ研修（訓練コース B)「介護職のための苦情対応実践」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度中堅幹部職員スキルアップ研修「介護におけるレクリエーション活動支援」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業平成 25 年度介護員職員基礎力アップ研修「高齢者の医療とケア」 平成 25 年度福祉施設就労支援・体験講習会「介護技術の理解」 平成 25 年度福祉用具・住宅改修研修会「疾患の理解、身体特性をふまえた福祉用具活用の実際」	講師
	正規雇用労働者育成支援事業　訓練コース B 平成 25 年度介護員職員実務アップ研修　「介護におけるレクリエーション」 平成 25 年度社会福祉法人浪岡あすなろ会職員研修会　「老人疑似体験と転倒予防　～老化とパーキンソン症状～」 正規雇用労働者育成支援奨励金　対応型研修事業　平成 25 年度介護職員基礎力アップ研修「介護のためのレクリエーション　～治療的リハビリテーション～」	講師

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
尾田　敦	弘前大学ドリーム講座「理学療法とスポーツ傷害について」 FM アップルウェーブ「りんご王国こうぎょくカレッジ」出演.「あなたのお子さんの足のサイズ，ちゃんとご存じですか？」 第 59 回全日本中学校通信陸上競技大会青森大会 第 64 回青森県中学校体育大会夏季大会陸上競技 第 68 回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会 第 38 回青森県高校新人陸上競技対校選手権兼第 18 回東北高等学校新人陸上競技選手権大会青森県予選会 平成 25 年度青森県秋季陸上競技選手権大会・第 32 回青森県小学生交流陸上競技記録会 第 23 回青森県中学校新人陸上競技選手権大会 第 95 回全国高等学校野球選手権記念青森大会 スポーツ選手のメディカルチェック ①青森北高校ハンドボール選手メディカルチェック ②高等学校野球選手メディカルチェック（弘前地区）	講師 解説者 トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー トレーナー ボランティア
三崎直子	教育職員免許状更新講習「母子保健から今日の若者の健康を考える」	講師
小倉能理子	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業（3 回開催） 弘前大学看護職教育キャリア支援センター 教員免許状更新講習「放射線の基礎と放射線看護」 弘前大学医学部附属病院看護研究支援「こん sa ルーム」	運営 センター員 講師 相談員
佐藤真由美	臨床看護アセスメント能力研究会「看護診断セミナー」事業；初級・中級・上級 ドリーム講座(八戸西高校) 弘前大学看護職教育キャリア支援センター	企画・運営 講師 指導者育成部門責任者
漆坂真弓	2013 年度公開講座弘前大学「黒森山いきいきウォーキング」事業 八戸サテライト事業「看護わくわく・どきどき体験」 緊急被ばく医療人材育成プロジェクト　現職者研修 看護診断セミナーin 青森	主催・企画 主催・企画 主催・企画 運営

漆坂真弓	弘前大学看護職教育キャリア支援センター 原子力防災訓練（緊急被ばく医療訓練）	指導者育成部門担当 問診担当
平川裕一	平成 26 年 2 月 9 日陸奥新報 2 面「健康増進に向けてー岩木プロジェクトから見えたものー⑰ 気になるおなかと呼吸の関係」	執筆者
赤池あらた	高校生のための学習講座「大学で『学ぶことのおもしろさ』を体験しよう」6 回目「介護問題を考えてみよう」 進路指導会模擬講義「理学療法で学ぶヒトの体」 平成 25 年度青森県福祉機器展　介護講座　「排泄ケアと福祉用具」 進路指導会模擬講義「理学療法であそぼう　ヒトの体について」	講師
北島麻衣子	看護診断セミナー 糖尿病患者のための健康教室（すこやかコミュニティセンター生活習慣病フォローアップ部門）	企画・運営
澄川幸志	弘前大学生協	総代
三上佳澄	弘前大学臨床看護アセスメント能力研究会　看護診断セミナー	運営

H26.2.9 陸奥新報

気になるおなかと呼吸の関係

健康増進に向けて
―岩木プロジェクトから見えたもの―
17

「いっぱい吸って～！もっと吸って～!!」「はい、そこから一気に吐いて～！フゥ～～!!」「最後まで吐ききって～!!」・・・

岩木プロジェクトではこのように、呼吸についての測定をしています。今回は呼吸とおなか回りの筋肉や脂肪との関係のお話です。

「いっぱい吸う→最後まで吐ききる」ことから、肺の大きさ（肺活量）を、「一気に吐く」ことから、最初の1秒間に吐き出すことができる息の量（1秒率）を測っています。

1秒率は息の通り道が細くなると低下します。これらの呼吸機能は、病気がなくても歳を重ねることで徐々に低下していました。このほか、体幹部の筋肉量、腹部肥満度（ウエスト・ヒップ比）も測っています。歳を重ねると、体幹部筋肉量は徐々に減少し、腹部肥満度は徐々に高くなっていました。さらに、これらのおなか回りの様子が呼吸機能にどんな影響を及ぼしているかを調べてみました。

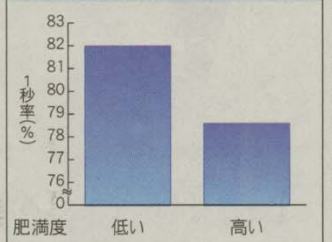
その結果です。女性や60歳未満の男性では、体幹部筋肉量が少ない人は肺活量が少ないことがわかりました。また、60歳未満の男性では、ウエスト・ヒップ比が高い（腹部肥満度が高い）と1秒率が低いことがわかりました（図参照）。若年・中年男性の腹部肥満といえば、そうです、メタボ（メタボリックシンドローム）が思い浮かびますね。メタボが呼吸機能にも悪さをしているようです。これらのことは呼吸器の病気がなく、息苦しさなどの症状がない人たちの結果です。病気がなくても、体幹部の筋肉が少ないことや腹部肥満であることで、その機能は低下しているのです。そこに病気が加わったら、息苦しさなどの症状が出やすくなります。

さて、それではどうしたらいいでしょう？

呼吸機能の維持・向上のためには、肥満を解消すること、体幹部の筋肉を落とさないことが大切です。これまでの連載の中でも、肥満を解消することや筋力を高めるために運動習慣を身につけることの大切さ、また、これらのことが身体のほかの機能に対してもいい影響を及ぼすこと、を訴えてきましたが、呼吸機能にもあてはまります。腹筋や背筋、肋骨（ろっこつ）を動かす筋肉、腕のつけ根の筋肉をよく使うような「胴体を動かす」「腕を大きく動かす」運動が効果的です。運動習慣が身につけば肥満解消にもつながりますね。

（弘前大学大学院保健学研究科　平川裕一）

腹部肥満度と息の通りやすさ(1秒率)との関係 ～60歳未満男性～



肥満度	低い	高い
ウエスト・ヒップ比	0.85未満	0.85以上

※1秒率の数字が高いと息が通りやすい

老年保健学分野

Department of Development and Aging

１．教員

健康増進科学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
5	2	3	3	1

２.教育活動

1) 21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
13 年度	野田美保子	教授	運動とリハビリテーション (C)	8
	齋藤久美子	教授	人を育む営み (B)	4
	若山佐一	教授	放射線防護の基礎 運動とリハビリテーション (C) 基礎ゼミナール	2 8 30
	木立るり子	教授	メンタルヘルス (B) 基礎ゼミナール	6 30
	對馬栄輝	准教授	統計学の基礎	15
	大津美香	講師 准教授	基礎ゼミナール	30
	米内山千賀子	講師	メンタルヘルス (B)	6
	上谷英史	講師	基礎ゼミナール	30
	小枝周平	助教	運動とリハビリテーション(A)	8

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
13 年度				

2）学部教育

(1) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	對馬　均	教授	保健学概論	1	2
			リスクマネジメント論	1	2
			理学療法学総論	1	15
			運動学	1	30
			理学療法学英語	2	15
			臨床判断分析学	3	15
			小児理学療法学演習	3	30
	野田美保子	教授	作業療法総論	1	32
			保健学概論	1	2
			発達期作業療法学	1	16
			老年期作業療法学	1	16
			発達期疾患別作業療法	2	16
			老年期疾患別作業療法	2	16
			発達期・老年期作業療法学演習	3	30
			リスクマネジメント	3	2
			研究方法論	3	30
	齋藤久美子	教授	保健学概論	1	2
			看護学概論	1	32
			看護対象論	2	16
			看護管理学	4	32
	若山佐一	教授	老年期障害学	2	16
			神経系障害学Ⅰ	2	16
			神経系障害学演習	2	30
			神経筋障害理学療法学演習	3	26
			理学療法評価学演習	3	30
			理学療法管理・運営論	3	6
			理学療法研究演習	3	30
			保健学概論演習	4	2

13 年度	木立るり子	教授	コミュニケーション論	1	8
			在宅看護学概論	2	12
			在宅看護方法論	2	8
			在宅看護学演習	3	26
			家族看護学	4	15
	對馬栄輝	准教授	理学療法研究方法論	3	16
			筋骨格系障害学	2	16
			運動学実習	2	45
			筋骨格系障害学演習	2	10
			筋骨格系障害理学療法学実習	2	15
			理学療法概論	1	6
	大津美香	講師 准教授	老年看護学概論	2	8
			老年看護方法論	2	8
			老年看護学演習	3	20
			在宅看護学概論	2	6
			在宅看護方法論	2	6
			在宅看護学演習	3	24
	米内山千賀子	講師	老年看護学概論	2	10
			老年看護学方法論	2	8
			老年看護学演習	3	20
			在宅看護学演習	3	4
	上谷英史	講師	日常生活活動能力学	1	30
			生活支援作業療法学	3	30
			身体障害地域作業療法学	3	15
			基礎作業学	1	30
			基礎作業学演習	3	30
			研究方法論演習：身体障害分野	3	30
			身体障害地域作業療法学	2	15
	成田大一	助教	神経系障害装具学演習	3	30
			地域リハビリテーション論	3	2
			成人看護学演習	2	2
			理学療法研究演習	3	15
	北嶋結	助教	老年看護方法論	2	2
			在宅看護方法論	2	4
			老年看護学演習	3	18
			在宅看護学演習	3	12

13 年度	小枝周平	助教	筋骨格系障害学 研究方法論演習：身体障害分野 筋骨格系障害学演習	2 3 2	4 30 4
	小川真理子	助手	助産診断技術学Ⅲ 助産診断技術学演習 母性看護学演習	3 3 3	30 60 60

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	對馬　均	教授	神経系障害理学療法学実習	3	27
	野田美保子	教授	発達期・老年期作業療法評価学実習	3	90
	若山佐一	教授	神経系障害理学療法学実習	3	10
	上谷英史	講師	日常生活活動能力学実習 作業分析学実習	3 3	45 45
	成田大一	助教	人体形態学実習 物理療法学実習 筋骨格系障害理学療法学実習	2 2 2	90 15 6
	小枝周平	助教	人体機能学実習 発達期・老年期作業療法評価学実習	2 3	45 45

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
13 年度	野田美保子	教授	2 4 4	90 20 20
	齋藤久美子	教授	2 3	65 180
	若山佐一	教授	2 3 4	45 45+15 20
	木立るり子	教授	2 4 4	45 240 90

13 年度	對馬栄輝	准教授	2 3	36 36
	大津美香	講師 准教授	4 4 2	410 210 100
	米内山千賀子	講師	2 4	30 340
	上谷英史	講師	4 4	20 20
	成田大一	助教	2	45
	北嶋結	助教	2 4 4	100 350 100
	小枝周平	助教	2 4 4	90 20 20
	小川真理子	助手	3 4	90 225

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
13 年度	對馬栄輝	准教授	2	医用統計学	30
	成田大一	助教	2	解剖学実習	229

3) 卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
13 年度	2 名	對馬　均
	3 名	野田美保子
	4 名	齋藤久美子
	4 名	若山佐一
	3 名	木立るり子
	3 名	對馬栄輝
	3 名	大津美香
	3 名	米内山千賀子

13 年度	2 名	上谷英史
	1 名	成田大一
	2 名	北嶋結
	1 名	小枝周平
	1 名	小川真理子

4) 大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	對馬　均	教授	臨床理学療法学特論（M） 基礎理学療法学特論（M） 老年保健学特講（D）	1 1 1	30 30 6
	野田美保子	教授	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ作業療法学特論（M） 老年保健学特別研究（D）	1 3	30 60
	若山佐一	教授	理学療法臨床推論特論（M） 基礎理学療法学特論（M） 老年保健学特講（D） インタープロフェッショナルワーク論（D）	1 1 1 1	30 30 6 16
	齋藤久美子	教授	医療マネジメント（M） 看護管理学特論（M） 健康科学特論（M） 基礎看護・看護教育学特論（M）	1 1 1 1	18 32 10 30
	木立るり子	教授	老年保健看護学特論（M） 被ばく医療看護学特論（M） インタープロフェッショナルワーク論（D） 老年保健学特講（D）	1 1 1 1	10 4 16 6
	對馬栄輝	准教授	運動療法学特論（M） 保健疫学特論（M）	1 1	10 30

13 年度	大津美香	講師 准教授	国際保健医療学（M） 老年保健看護学特論（M）	1 1	8 10
	米内山千賀子	講師	老年保健看護学特論（M）	1	10
	小枝周平	助教	基礎作業療法学特論（M）	1	30

(2) 演習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	對馬　均	教授	理学療法学特別演習（M） 老年保健学特講演習（D）	1 2	30 30
	野田美保子	教授	老年保健学特講演習（D）	2	30
	若山佐一	教授	理学療法学特別演習（M） 被ばく医療演習（M）	1 1	30 2
	對馬栄輝	准教授	生活環境保健学特別演習（M） 老年保健学特講演習（D）	1 2	30 30
	上谷英史	講師	身体障害者作業療法学特論（M）	1	15
	小枝周平	助教	作業療法学特別演習（M）	1	30

(3) 学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
13 年度	對馬　　均	教授	高齢女性の転倒骨折予防のためのエプロン式ヒッププロテクターの開発とその受入効果に関する研究（M） 頚肩腕症候群に対するスリング・サスペンション療法の有効性（M） 在宅パーキンソン病患者における活動量および姿勢動態への効果的理学療法介入の検討（D） 高齢者における示指と足部の 3 分間セルフペース・タッピング運動の特性（D）
	野田美保子	教授	Study on the factors relating to the low walking ability among the healthy elderly living in a farming area with heavy snowfalls.（D）

13 年度	若山佐一	教授	注意の向けたかによる運動学習への影響（M） 脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定に関する研究（D）
	木立るり子	教授	原子力災害時における訪問系サービス事業所職員の経験（M） 仲間とともに参加するウォーキング・プログラムが高齢者の介護予防行動の継続にもたらす影響（M）
	對馬栄輝	准教授	人工股関節全置換術後の身体機能と健康関連 QOL の関係（D） 大腿四頭筋における電気力学的遅延と荷重動作時の反応の関連について（M） 静的ストレッチングと筋収縮後ストレッチングの臨床治療効果（M） 脳卒中患者に対する歩行観察の有効性（M）

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　　称　　等
13 年度	對馬　均	教授	2014/1/8 FD 講演会「血小板による新しい肝疾患治療法の開発　－基礎から臨床へ－」
	若山佐一	教授	弘前大学ＦＤ講演会　アクティブラーニングの環境整備(H25.6.26) 公開授業　神経系障害学Ⅰ(H25.7.3) 公開授業　理学療法評価学演習(H25.12.3) 医学科保健学科合同公開授業検討会(H26.1.24)
	木立るり子	教授	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24) ＦＤ講演会　「血小板のよる新しい肝疾患治療法の開発　－基礎から臨床へ－」(H26.1.8)
	大津美香	准教授	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」
	米内山千賀子	講師	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24) ＦＤ講演会「血小板のよる新しい肝疾患治療法の開発－基礎から臨床へ－」(H26.1.8)

13 年度	上谷英史	講師	平成 25 年度公開授業検討会・ＦＤミニフォーラム
	成田大一	助教	平成 25 年度弘前大学ＦＤワークショップ（第 15 回）テーマ「科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化」 公開授業　神経系障害学Ⅰ　若山佐一教授 公開授業　内科学演習　丹藤雄介教授 平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」
	北嶋　結	助教	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24)
	小枝周平	助教	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24)

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
13 年度	野田美保子	教授	人間発達学	東北メディカル学院	30
			肢体不自由者の心理・生理・病理	弘前学院大学	30
			虚弱者の心理・生理・病理	弘前学院大学	30
	若山佐一	教授	人間工学	弘前市医師会看護専門学校看護学科	4
		教授	神経系障害理学療法学Ⅱ	秋田大学医学部保健学科理学療法学専攻	16
	木立るり子	教授	家族看護論	秋田看護福祉大学	16
			成人期から高齢期のメンタルヘルス	弘前大学教員免許状更新講習	3

13 年度	對馬栄輝	准教授	理学療法特論 理学療法発展領域論 実験的研究法 研究法 統計学 リハビリテーション論 人間工学	京都大学大学院医学系研究科 山形県立保健医療大学 聖隷クリストファー大学大学院 上尾中央医療専門学校 弘前医療福祉大学 弘前厚生学院 弘前市医師会看護専門学校	4 8 8 10 30 30 4
13 年度	大津美香	非常勤講師	認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント） 家庭看護学	日本赤十字秋田看護大学 東北女子大学	14 30
13 年度	成田大一	助教	人間工学	医師会看護専門学校	6
13 年度	北嶋　結	助手	成人臨床看護Ⅰ（循環器）	厚生病院附属看護専門学校	8

３．　研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Haruka Otsu and Michiko Moriyama: 36-month follow-up study of post-intervention chronic heart failure patients. Health, 6(7):559-575, 2014.
2. Haruka Otsu, Michiko Moriyama, Yuka Yuasa and Toyonori Omori: Assessment of a portfolio as an effective tool to promote self-management among patients with ischemic heart diseases: A preliminary trial. Health, 6(5): 364-373, 2014.

3. Yu Kitajima, Hideaki Yamabe, and Minoru Yasujima. Measurement of Estimated Glomerular Filtration Rate is Useful in Stroke Patients. Hirosaki Med. J., 65: 65-73, 2014.
4. Shuhei Koeda, Yuji Koike, Koshi Sumigawa, Chihiro Sato, Eri Osanai, Kazushige Kizukizawa, Takao Osanai: Factors affecting sleep disorder in convalescent stroke patients. Med Biol 157(6): 799-804, 2013.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Hideki SUZUKI and Hitoshi TSUSHIMA: Effectiveness of Long-term Intervention for Fall Prevention Focusing on Fall Prevention Behavior in Elderly in a Cold and Snowy Region, Measured on Changes in Physical Function, Self-efficacy, and Visual Search Patterns. Med Biol 157: 319-327, 2013
2. Akihiro SATO, Kenichi FUJIWARA, Masahiro YUKAWA, Hitoshi TSUSHIMA: Factors affecting scores on the symptom severity subscale of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Carpal Tunnel Syndrome Instrument. Med Biol 157: 626-631, 2013
3. Akihiro SATO, Kenichi FUJIWARA, Masahiro YUKAWA, Hitoshi TSUSHIMA: Index for Functional Disorder in Patients with Carpal Tunnel Syndrome. Med Biol 157: 632-637, 2013
4. Kenichi FUJIWARA, Akihiro SATO, Hitoshi TSUSHIMA: Relationship among Oral Function, Posture, and Respiratory Function in Healthy Adults. Med Biol 157: 732-741, 2013
5. Hideyuki NAKAE, Hitoshi TSUSHIMA: Research on exercise therapy in home-care patients with Parkinson's disease: Results of home-visit survey on the use of domiciliary service and the implementation of self-practice. Med Biol 157:742-753, 2013
6. Tomomi HARATA, Mihoko NODA, Kumiko SAITO, Terumi KOGAWA, Chiaki KITAMIYA, Kazuyuki KIDA, Ruriko KIDACHI, Eiki THUSHIMA, Chikako YONAIYAMA, Miya NISHIMURA, Shizuka KURAUCHI, Haruka Otu, Yu KITAJIMA, Misato MAKINO, Arata AKAIKE, Shuhei KOEDA, Yuji KOIKE, Tukaki NARITA, Reizo MITA. The relationship between bone density and walking speed of the elderly people attending the Kotobuki college of T town in Aomori prefecture. Ｊ. Health. Sci. Res. 3:61-69, 2013
7. Noto Y, Kitamiya C, Itaki C, Urushizaka M, Kidachi R, Yamabe H. Role of nurses in a nuclear disaster: experience in the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident. Int Nurs Rev, 60(2). 196-200, 2013.

8. Ieiri A, Tsushima E, Ishida K, Abe S, Inoue M, Masuda T : What Predicts 36-Item Health Survey Version 2 After Total Hip Arthroplasty. Arch Phys Med Rehabil, 94.902-909, 2013.
9. Koshi Sumigawa, Shuhei Koeda, Yuji Koike: The effect of difference of paper craft work on psychological effects-The relationship between flow experience during a paper craft work activity and psychological effect-. Med Biol 157(5):701-707, 2013.
10. Koshi Sumigawa, Yuji Koike, Shuhei Koeda, Koichi Shozushima: Comparison of external- and internal-focus motor learning. Med Biol 157(6):911-915, 2013.
11. Yuji Koike, Shuhei Koeda, Koshi Sumigawa, Yuta Imaizumi, Chisaya Hara, Hitoshi Tsushima: Need for, and possibility of, training in seated dressing during toileting in stroke patients with poor standing balance. Medicine and Biology157 : 688-695, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 大津美香, 森山美知子, 中谷隆: MacNew Heart Disease Health-Related Quality of Life Questionnaire日本語版の信頼性・妥当性の再検討–心筋梗塞患者による再検討ー. 日本循環器看護学会誌, 9(1): 100-108, 2013.
2. 大津美香: 介護老人福祉施設において認知症を合併する高齢慢性心不全療養者に対して実施されている疾病管理支援の実態. 日本循環器看護学会誌, 9(1): 109-116, 2013.
3. 大津美香: 外来看護師が感じる認知症を有する高齢心不全患者の対応困難と支援の実態. 日本認知症ケア学会誌, 12(3): 619-630, 2013.
4. 大津美香: 介護老人福祉施設の認知症を合併する高齢慢性心不全療養者の看護支援の際に看護職員が抱く困難と支援の実態. 日本循環器看護学会誌, 9(2): 30-38, 2014.
5. 小枝周平, 澄川幸志, 小池祐士, 浅利絢,今井寛人: 回復期脳卒中患者における主観的回復感と脳卒中後抑うつ状態との関連.作業療法 32(2): 123-132, 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 横田ひろみ、齋藤久美子：臨床経験 2.3 年目看護師の勤務帯リーダーの自信につながる要因－6 年目看護師との比較からー、日本看護管理学会誌、17 (1) 15-27、2013.

2. 家入章，対馬栄輝，石田和宏：徒手筋力測定器を用いた股関節外転筋力測定の検討. Hip Joint，39.222-225，2013.
3. 家入章，対馬栄輝，石田和宏：人工股関節全置換術後の身体機能の関係～術後6 ヶ月までの縦断的研究～. Hip Joint，39：121-124，2013.
4. 宮城島一史，対馬栄輝，石田和宏：腰椎後方手術の術後にみられる遺残下肢症状に対する初回電気療法の即時効果. Journal of Spine Research，４:1019-1023,2013.
5. 宮城島一史，対馬栄輝，石田和宏：腰椎椎間板ヘルニアに対するHamstrings の柔軟性評価としての膝窩角の有用性―ヘルニア摘出術周術期における検討―北海道理学療法，30:13-18,2013.
6. 渡辺陽子，高山成子，大津美香: アルツハイマー型認知症と血管性認知症にみられる収集行動の比較と援助方法の検討. 日本認知症ケア学会誌，12(2): 510-521，2013.
7. 後藤麻利子，七尾恵，太田陽子，土屋涼子,鳴海絵里奈，大津美香，山下智恵美: インフォームドコンセントにおける看護師の役割に関する実態調査. 保健科学研究，4: 41-49，2014.
8. 澄川幸志，小枝周平，小池祐士，三橋佑平,村上正和,加藤拓彦:作業活動の心理的効果に対する作業時間の影響. 作業療法ジャーナル 48(1):77-82,2014.
9. 小池祐士，小枝周平，澄川幸志，對馬均：脳卒中患者に対する排泄動作障害の軽減に向けた改善策についてー文献レビューによる検討ー. 医学と生物学 157(5)：1017-1021，2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 松田基子，高橋一平，沢田かほり，大久保礼由，三宅良輔，平川裕一，上谷英史，戸　塚学，梅田孝，中路重之. 健康実践教室が全身の健康度および好中球活性酸素種産生能に及ぼす影響. 弘前医学，64. 127-135，2014.
2. 石渡朝生,成田大一,尾田敦:足関節装具が運動課題に及ぼす影響.靴の医学，27：69-72，2014.
3. 石川大瑛，成田大一，高橋信人，澤田徹平，尾田敦：足関節捻挫受傷後の足関節装具の長期使用が足関節機能に与える影響について.靴の医学，27：39-43，2014.
4. 葛西文寿，成田大一，石川大瑛，高橋信人，尾田敦：姿勢変化時の足底接地面積の変化と運動能力の関係について. 東北理学療法学，25：91-96，2013.
5. 外村真央，今井寛人，清水寛己，小椋泉紀，小枝周平: 軽度脳卒中片麻痺患者の身体的健康度と精神的健康度に関連する要因の検討. 青森県作業療法研究 22(1): 5 -10 2014.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 対馬栄輝:理学療法研究におけるデータ解析の誤り.理学療法学 40:549-552,2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1.対馬栄輝:標準理学療法学 専門分野「理学療法研究法」, 内山靖他編, pp.150-156,

pp.240-252, 医学書院, 2013.

2. 対馬栄輝：新人・若手理学療法士のための最近知見の臨床応用ガイダンス. 嶋田智明他編, 1-8, 文光堂, 2013.
3. 対馬栄輝：第5 章プロフェッショナルを目指す新人に必要な知識・技術・管理. 第2節骨・関節.「プロフェッショナルを目指す！！PT 卒後ハンドブック 1 年目に習得したい基本スキル」. 斉藤秀之他編, pp.108-116, 文光堂, 2013.
4. 高山成子 編集, 大津美香/渡辺陽子 編集協力, 大津美香, 加藤泰子, 久保田真美, 久米真代, 菅谷清美, 高山成子, 西山みどり, 萩野悦子, 山田律子, 渡辺陽子, 総勢10名（1番目）：認知症の人の生活行動を支える看護. 医歯薬出版株式会社, 東京, 129頁,（分担）28-33頁, 98-103頁.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

4）その他

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Shuhei Koeda, Hirokazu Narita, Koichi Ito, Kyoko Ito, Haruhiko Yoshioka, Hitoshi Tsushima: The effects of high-dose radiation on rats' skin and muscle: developing an animal model of local radiation damage to the hind limbs (2nd report). The proceedings of the 5th international symposium on radiation emergency medicine at Hirosaki university, 27-30, 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 大津美香: 在宅療養中の認知症を合併する高齢慢性心不全療養者の疾病管理の支援の実態. 保健科学研究, 4: 31-39, 2014.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 髙見彰淑、唐布和、安藤道晴、丸山翔、若山佐一：中国内モンゴル自治区のリハビリテーション医療の実態に関する報告．保健科学研究４：51-57､2014.

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

Ａ.特別（招待）講演

なし

Ｂ．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

なし

Ｃ.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Yoshimasa Matsushima, Toshiya Urushihata, Toshihumi Takao, Hitoshi Tsushima: Age group differences in tapping tasks: variability in intervals while tapping using index fingers and feet. The 12th International congress of Asian Confederation for Physical Therapy, Taichung, Taiwan, September 5-9, 2013
2. Junpei Takahashi, Akiyoshi Takami, Saichi Wakayama: Clinical reasoning by physical therapists to ascertain whether patients with hemiplegia can walk independently in a ward, ACPT2013、Sep.5-9t h ,Taichung, Taiwan
3. Ruriko Kidachi, Saichi Wakayama, Chiaki Kitamiya, Teruko Takeo, Kazuya Norikane, Ikuo Kawazoe, Makoto Tanaka, Arata Akaike,Megumi Tsushima: Summary of Activity of Related to The Education Program on Radiation Risk Communication at Hirosaki University in Japan, 17th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS,MANILA, Phillippines
4. Reiko Narita, Ruriko Kidachi: The situation regarding evacuation after a nuclear accident as seen from newspaper articles, 17th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, MANILA, Phillippines
5. Shigeko Takayama, Haruka Otsu, and Yoko Watanabe: Clinical application of a nursing protocol for the elderly with dementia classified as cases “difficult-to-assist in bathing”．第28回アルツハイマー国際会議(台北)，2013年４月 18 日 ～4 月 20 日.

6. Shuhei Koeda, Hirokazu Narita, Koichi Ito, Kyoko Ito, Haruhiko Yoshioka, Hitoshi Tsushima: The effects of high-dose radiation on rats' skin and muscle: developing an animal model of local radiation damage to the hind limbs (2nd report). The 5th international symposium on radiation emergency medicine in Hirosaki university, 2013.

2）全国学術集会

Ａ．特別（招待）講演

なし

Ｂ．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. 対馬栄輝：精神科薬理遺伝－多因子関連の治療反応予測において乗り越えるべき壁－，第 23 回日本臨床精神神経薬理学会・第 43 回日本神経精神薬理学会合同年会，沖縄県宜野湾市，2013 年 10 月 18 日-19 日
2. 対馬栄輝：セミナー「理学療法研究におけるデータ解析の誤り～その解析法は正しいか？」，第 48 回日本理学療法学術大会，名古屋市，2013 年 5 月 26 日

Ｃ．一般演題（ポスター発表を含む） 48 件

Ⅲ．学術賞

1. 優秀演題賞，大津美香，認知症を合併する高齢慢性心不全療養者の心不全の悪化予防に向けて介護老人福祉施設において実施されている疾病管理の実態.（第 10 回日本循環器看護学術集会において）

Ⅳ．共同研究

なし

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1.對馬均

研究種目：平成２５年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）

課題番号：22390099

研究課題名：エプロン型ヒッププロテクターは虚弱女性高齢者を転倒骨折から救う

配分額：800（千円）（うち間接経費分　240 千円）

2. 野田美保子

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：移動能力が異なる高齢者における日常生活活動水準の横断的、縦断的評価方法の開発

配分額：1,690（千円）

3. 木立るり子

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：元気高齢者への看護・リハビリの協働的介入による継続的介護予防・評価システムの開発

配分額：780（千円）

4. 大津美香

研究種目：若手研究(B)

研究課題名：認知症を有する高齢慢性心不全患者の疾病管理における支援方法の検討

配分額：910（千円）

5. 成田大一

研究種目：若手研究(B)

研究課題名：皮膚および筋の高線量放射線障害に対してリハビリテーションは有効か？

配分額：650（千円）（うち間接経費分 150）

他研究単位との研究分担者として

1. 木立るり子

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：次期学習指導要領改訂に向けた衣生活に関する学習内容の検討

研究代表者名：日景　弥生

配分額：　280／1,545（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

なし

他研究単位との研究分担者として

なし

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 米内山千賀子

助成名:特定プロジェクト教育研究センターすこやかコミュニティ支援センター継続ケア研究部門

研究課題名：①第 15 回青森継続看護研究集会の共催、②原子力災害を含む災害時の訪問看護ステーションにおけるケアに着目した研究、③地域の高齢者支援システムの検討、④慢性疾患患児の保護者による相互支援システムに関する検討、⑤地域で生活する統合失調症の困難と支援のあり方に関する研究

配分額：180（千円）

2. 成田大一

助成名：平成 25 年度弘前大学若手研究者支援事業

研究課題名：高線量放射線被ばく後の筋周膜・筋内膜のコラーゲン量の変化と関節拘縮との関連の検討

配分額：500（千円）

3. 北嶋結

助成名：平成２５年度弘前大学と弘前市との連携調査研究委託モデル事業

研究課題名:津軽地域における高齢がん患者を対象とした地域医療連携システムの構築

配分額：840（千円）

4. 小枝周平

助成名：平成 25 年度科研費獲得支援事業

研究課題名：高線量局所被ばくによる皮膚障害に超音波治療は有効か？

配分額：500（千円）

他研究単位との研究分担者として

なし

4）民間の研究助成

研究代表者として

1. 北嶋結

助成名：平成２５年度　安田記念医学財団癌看護研究助成

研究課題名：津軽地域における高齢がん患者を対象とした地域医療連携システムの構築

配分額：1,000　（千円）

他研究単位との研究分担者として

なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

2）国内、地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

４．社会貢献活動

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	日本体力医学会東北地方会 全国障害者問題研究会青森県支部 全国障害者問題研究会全国大会準備委員会 全国リハビリテーション学校協会 全国リハビリテーション学校協会東北ブロック	監事 理事 副委員長 理事 副委員長
若山佐一	文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター	専門調査員
木立るり子	日本放射線看護学会 青森継続看護研究会	理事 会長
大津美香	青森継続看護研究会	編集委員
米内山千賀子	青森継続看護研究会	役員
上谷英史	一般社団法人青森県作業療法士会	全県理事
成田大一	一般社団法人青森県理学療法士会	生涯学習部長
北嶋　結	青森継続看護研究会	会計
小枝周平	一般社団法人青森県作業療法士会	福利部長

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	全国障害者問題研究会全国大会 2013	副委員長
木立るり子	第 15 回青森継続看護研究集会	会長
大津美香	第 15 回青森継続看護研究集会	編集委員
米内山千賀子	第 15 回青森継続看護研究集会	実行委員
北嶋　結	第 15 回青森継続看護研究集会	実行委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
對馬　均	Member of editorial board in Physical Therapy Review	編集委員
野田美保子	日本作業療法士協会学術部 青森県作業療法士会論文査読・症例査読	部員 委員
齋藤久美子	保健学研究科『保健科学研究』	査読
若山佐一	保健科学研究(弘前大学保健学研究科) Radiation Emergency Medicine	査読委員 査読委員
木立るり子	日本放射線看護学会誌	査読
對馬栄輝	日本理学療法士協会学術誌「理学療法学」	編集委員
大津美香	日本循環器看護学会学術雑誌の論文の査読	査読委員
上谷英史	青森県作業療法士会論文査読・症例査読	委員
小枝周平	青森県作業療法士会論文査読・症例査読	委員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
對馬　均	第 49 回日本理学療法学術大会演題査読委員	委員
野田美保子	第 48 回日本作業療法協会演題査読 第 16 回世界作業療法士連盟大会演題査読	委員 委員
若山佐一	第 49 回日本理学療法学術大会の演題審査	審査員
對馬栄輝	第 48 回日本理学療法学術大会	査読
小枝周平	第 48 回日本作業療法学会演題査読 第 16 回世界作業療法士連盟大会演題査読	委員 委員

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかｺﾐｭﾆﾃｨ支援センターの活動 世界自閉症啓発デー記念イベント	代表 構成員 主催者
齋藤久美子	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動	構成員
木立るり子	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかｺﾐｭﾆﾃｨ支援センターの活動 鰺ヶ沢町での生活とからだのお元気度チェック	構成員 構成員 代表

米内山千賀子	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかｺﾐｭﾆﾃｨ支援センターの活動 鰺ヶ沢町での生活とからだのお元気度チェック	構成員 構成員 構成員
北嶋結	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかｺﾐｭﾆﾃｨ支援センターの活動 鰺ヶ沢町での生活とからだのお元気度チェック	構成員 構成員 構成員
小枝周平	鶴田町での健康体力増進啓蒙活動 すこやかｺﾐｭﾆﾃｨ支援センターの活動	構成員 構成員
小川真理子	青年講座「大人の保健体育」 青年講座「イクメン講座」	講師 講師

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
齋藤久美子	青森県看護師等確保推進会議	委員
木立るり子	弘前市地域包括支援センター運営協議会 弘前市地域密着型サービス運営委員会	委員 委員
上谷英史	弘前大学大学院医学研究科健康・スポーツ医科学センター 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト健診」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト運動教室（岩木地区）」 弘前大学「岩木健康増進プロジェクト運動教室（駒越地区）」 弘前大学「相馬健康増進プロジェクト運動教室」	講師 身体機能計測員 運動指導講師 運動指導講師 運動指導講師

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
對馬　均	北のくらしと地域ケア研究所（キタライフ）主催研修会での特別講演「弘前大学における地域リハビリテーション教育」　平成 25 年 5 月 18 日(札幌市)	講師
野田美保子	青森県子育て団体活動支援事業研修会「発達障害・感覚統合を理解し長所を伸ばすサポートの方法」主催：青森発達課題研究室るーむ・リソース、2013 年 11 月 9 日（青森市）	講師
野田美保子	（運動）を育てるリハビリテーション」主催：青森県作業療法士会、2013 年 11 月 23 日（弘前市） 青森県作業療法士会公開講座「発達が気になる子どもの心と体 感覚統合療法セミナー「感覚統合とその実践」主催：発達支援センターおおしみず、2013 年 4 月 10 日、5 月 29 日、10 月 9 日、11 月 13 日（弘前市）	講師 講師
對馬栄輝	平成25 年度上尾中央医科グループ研修会「臨床研究の意義と実際」，主催：上尾中央医療専門学校，於：上尾中央医療専門学校，2013年4 月20 日 慶友整形外科病院研修会「医学研究における統計解析の解釈」，主催：慶友整形外科病院，於：群馬県館林市，2013年5 月1 2 日 鹿児島県理学療法士会研修会「股関節疾患の理学療法」，主催：鹿児島県理学療法士会，於：鹿児島大学医学部 鶴稜会館，2013年6 月9 日 SPSS トレーニングコース「医療統計：入門」，主催：IBM，於：IBM箱崎本社．2013年6月17日，10月29日，平成261月27日 SPSS トレーニングコース「医療統計：多変量解析」，主催：IBM，於：IBM 箱崎本社．2013年6月18 日，10 月30 日，2014年1 月28 日 SPSS トレーニングコース「医学論文を読む」，主催：IBM，於：IBM 箱崎本社．平成25年12 月24日 えにわ病院主催研修会「人工股関節全置換術の理学療法」，主催：えにわ病院，於：えにわ病院．平成25 年7 月6 日 北海道道南支部研修会「臨床で必要な統計解析法について．多変量解析編」，主催：北海道理学療法士会，於：えにわ病院．2013年7 月6 日	講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師

對馬栄輝	人工股関節・膝関節全置換術患者に対する評価と理学療法「変形性股・膝関節の評価」，主催：日本理学療法士協会，於：金沢医科大学，2013年7 月13 日～14 日	講師
	平成 25 年度専門領域運動器理学療法研究部会主催研修会「運動機能障害に対する機能診断とクリニカルリーズニング」，主催：日本理学療法士協会，於：札幌市，2013 年 11 月 2 日	講師
	京都大学運動機能セミナー2013「下肢関節疾患の理学療法」．主催：京都大学運動機能研究会，於：京都大学大学院医学系研究科，2013 年 11 月 17 日	講師
	日本理学療法士協会講習会：人工関節の理学療法「変形性股・膝関節症の評価」，主催：日本理学療法士協会，於：静岡県静岡市，2014 年 1 月 11・12 日	講師
	香川県理学療法士会「臨床研究で必要な統計解析法」，主催：香川県理学療法士会,於:かがわ国際会議場,2014 年 3 月 16 日	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	弘前大清水学園 東北メディカル学院 弘前学院大学	非常勤作業療法士 非常勤講師 非常勤講師
齋藤久美子	看護管理者ファーストレベル修了審査協議会委員 弘前大学病院看護部平成 25 年度院内研修看護研究(2) 弘前大学看護職教育キャリア支援センター	委員長 講師 運営委員
若山佐一	近江整形外科 森岳温泉病院	非常勤理学療法士 非常勤理学療法士
木立るり子	弘前大学医学部附属病院看護部院内研修看護研究Ⅱ	講師
成田大一	鶴田町社会福祉協議会デイサービスセンター 弘前市医師会看護専門学校	非常勤機能訓練士 非常勤講師
小枝周平	ケアセンター弘前	非常勤作業療法士

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	青森県作業療法士会現職者共通研修会	講師
齋藤久美子	平成 25 年度青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会 看護職者の教育力開発支援センター研究・開発部門セミナー　「―日常の患者指導を見直してみませんか―　患者指導技術尺度の紹介」	講師 企画
木立るり子	青森県看護協会平成 25 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師
上谷英史	一般社団法人青森県作業療法士会現職者共通研修	講師
北嶋 結	青森県看護協会中弘南黒支部看護研究発表会	委員

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
大津美香	平成 25 年 10 月 24～10 月 25 日高度実践被ばく医療検討委員会グローバル人材育成部門企画「第 3 回グローバル人材育成セミナー」講師 Min-su Cho 博士および Sun-sil Kim 博士（KIRAMS：Korea Institute of Radiological and Medical Sciences, 韓国原子力医学院）の附属病院見学案内、接待等 平成 25 年 9 月 16 日高度実践被ばく医療検討委員会グローバル人材育成部門企画の講演会、セミナーの講師 Siamak Haghdoost 博士（スウェーデン王国・ストックホルム大学放射線防護研究センター）の接待	委員 委員

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
野田美保子	ダウン症児のための療育相談活動 地域療育支援ｾﾝﾀｰおおしみずでの発達支援活動 発達サポートセンターでの発達支援活動 弘前市内小学校での発達支援活動	ボランティア ボランティア ボランティア ボランティア

上谷英史	平成 26 年 2 月 2 日陸奥新報 2 面「健康増進に向けて－岩木プロジェクトから見えたもの－⑯ 脱寝たきり」執筆	
北嶋 結	平成 25 年度緊急被ばく医療現職者研修　企画運営 平成 25 年度青森県国民保護協働実動訓練　企画運営 平成 25 年度原子力防災訓練（東通原子力発電所）	助教 助教 助教
小枝周平	弘前大学医学部保健学科同窓会（さくら会） 全国障害者問題研究会全国大会 弘前大学生活協同組合	事務局長 ボランティア 理事

障害保健学分野

Department of Disability and Health

１．教員

障害保健学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
7	4	3	4	4

２．教育活動

1) 21 世紀教育

(1)講義の担当者名,職名,授業科目名,年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
13 年度	米坂　勧	教授	基礎ゼミナール	30
	工藤せい子	教授	人を育む営み(I)	26
	樋口　毅	教授	生活習慣と病気	4
	野戸結花	教授	運動とリハビリテーション（A) 生活習慣と健康（N)	6 6
	和田一丸	教授	メンタルヘルス（A)	12
	井瀧千恵子	教授	基礎ゼミナール 統計学の基礎 運動とリハビリテーション 生活習慣と健康	6 16 8 6
	五十嵐世津子	准教授	人を育む営みＥ 基礎ゼミナール	8 30
	小山内隆生	准教授	人間の尊厳 放射線防護の基礎 メンタルヘルスＡ	32 2 4
	加藤拓彦	准教授	基礎ゼミナール	30
	髙見彰淑	准教授	運動とリハビリテーションＢ	6
	川崎くみ子	講師	・基礎ゼミナール ・人間の尊厳（Ｂ）	32 12
	川添郁夫	講師	メンタルヘルスＢ 人間の尊厳	6 4

13 年度	則包和也	講師	人間の尊厳 B メンタルヘルス B	10 6
	藤田俊文	助教	運動とリハビリテーション（C）	8

(2)実習の担当者名,職名,授業科目名,年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
13 年度				

2) 学部教育

(3) 講義の担当者名,職名,授業科目,対象学年,年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	米坂　勧	教授	人体形態機能学演習	1	10
			疾病論 IV	2	15
			救急蘇生学	4	15
			小児看護方法論	2	7
			小児看護学概論	2	4
			小児科学	3	15
	工藤せい子	教授	セルフケア論	2	16
			看護倫理学	4	10
		教授	看護技術学演習 I	2	18
			看護技術学演習 II	2	24
	石川　玲	教授	理学療法学総論演習	1	6
			運動療法学	2	30
			歩行解析セミナー	2	16
			内部障害系理学療法学演習	3	30
			神経筋障害理学療法学演習	3	6
			理学療法研究演習	3	30
			がんリハビリテーション科学	2	8
			成人看護学演習	3	4
	樋口　毅	教授	母性看護方法論	2	16
	野戸結花		成人看護学概論	2	12
			成人看護方法論 II	3	10
			成人看護学演習	3	32
			がん看護論	4	8

13 年度	野戸結花		医療リスクマネジメント	3	2
			がんリハビリテーション科学	2	4
	和田一丸	教授	疾病論Ⅲ	2	12
			精神医学	1	32
			精神障害作業療法疾患学	2	32
			精神障害作業療法疾患学演習	3	30
			研究方法論演習（精神障害分野）	3	30
	井瀧千恵子	教授	成人看護方法論Ⅰ	2	12
			成人看護学演習	3	30
			がん看護論	4	6
	五十嵐世津子	准教授	母性看護学概論	2	16
			母性看護方法論	3	16
			母性看護学演習	3	24
			セクシュアリティ論	4	16
	小山内隆生	准教授	精神機能障害作業療法学	1	16
			精神機能障害作業療法学演習	3	30
			精神能力障害作業療法学	1.2	15
			精神疾患別作業療法学	2	15
			研究方法論	3	20
			作業療法英語	3	32
	加藤拓彦	准教授	精神疾患別作業療法学	2	15
			精神能力障害作業療法学	1	15
			精神能力障害作業療法学演習	3	30
			精神障害地域作業療法学	3	15
			研究方法論演習（精神障害分野）	3	30
	髙見彰淑	准教授	理学療法評価学Ⅰ	1	16
			理学療法評価学Ⅱ	1	16
			理学療法総論演習	1	6
			リハビリテーション医学	2	16
			リハビリテーション医学演習	2	32
			脳損傷理学療法学演習	3	32
			理学療法評価学演習	3	32

13 年度	川崎くみ子	講師	成人看護学概論	2	6
			成人看護方法論Ⅱ	3	22
			成人看護学演習	3	30
			保健医療福祉倫理学	3	16
			看護倫理学	4	10
			クリティカルケア論	4	10
	川添郁夫	講師	精神看護学方法論	2	8
			精神看護学概論	2	8
			精神看護学演習	3	46
	則包和也	講師	精神看護学概論	2	16
			精神看護方法論	2	12
			精神看護学演習	3	30
			人間発達論	1	16
	田中　真	助教	精神能力障害作業療法学	1	6
			精神疾患別作業療法学	2	6
	藤田俊文	助教	運動療法学	2	16
			物理療法学	2	2
			福祉住環境学	3	14
			理学療法研究演習	3	30
			スポーツ障害理学療法演習	4	16
			成人看護学演習	3	2
	高間木静香	助教	母性看護学演習	3	20
	牧野美里	助手	小児理学療法学演習	3	14
			成人看護学演習	3	2
	横田ひろみ	助手	看護技術学演習Ⅰ	2	60
			看護過程論	2	30
			看護技術学演習Ⅱ	2	90
	早狩瑶子	助手	助産診断技術学Ⅲ	3	30
			助産診断技術学演習	3	60
			母性看護学演習	3	60

(2)実習の担当者名,職名,授業科目,対象学年,年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13年度	工藤せい子	教授	基礎看護学実習Ⅰ	2	65
			基礎看護学実習Ⅱ	3	140
	石川　玲	教授	運動療法学実習	2	45
			内部障害系理学療法学実習	3	45
	樋口　毅	教授	人体機能・構造演習	1	10
	井瀧千恵子	教授	成人看護学実習	3	540
	五十嵐世津子	准教授	母性看護学実習	3	360
	小山内隆生	准教授	精神障害評価治療学実習	3	45
	加藤拓彦	准教授	軽作業作業療法学実習	1	45
			臨床実習Ⅲセミナー	4	20
			臨床実習Ⅳセミナー	4	20
			重作業作業療法学実習	3	45
	髙見彰淑	准教授	理学療法評価学実習	2	48
	則包和也	講師	精神看護学実習	4	360
	田中真	助教	精神障害作業療法評価学実習	3	45
			研究方法論演習	3	45
			臨床実習Ⅲセミナー	4	20
			臨床実習Ⅳセミナー	4	20
			重作業療法学実習	3	150
	扇野綾子	助教	小児看護学実習	3	610
	藤田俊文	助教	運動学実習	2	45
			運動療法学実習	2	45
			物理療法学実習	2	6
			筋骨格系障害理学療法学実習	2	6
	高間木静香	助教	母性看護学実習	3	450
	牧野美里	助手	運動療法学	2	10
			運動療法学実習	2	30
			運動学実習	2	45
			理学療法評価学Ⅱ	1	16

13 年度	横田ひろみ	助手	基礎看護学実習Ⅰ	2	65
			基礎看護学実習Ⅱ	3	140
	小池祐士	助手	人体形態学実習	2	90
			人体機能学実習	2	45
			作業分析学実習	3	45
			研究方法論演習	4	30

(3)臨地・臨床実習の担当者名,職名,対象学年,年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
13 年度	米坂　勧	教授	3,4	135
	工藤せい子	教授	2	45
			3	90
	石川　玲	教授	2	45
			3	45
			3	6
			4	6
	野戸結花	教授	3	520
	和田一丸	教授	4	40
	井瀧千恵子	教授	3	540
	五十嵐世津子	准教授	3	360
			3	80
	小山内隆生	准教授	3	90
			4	40
	加藤拓彦	准教授	3	90
	髙見彰淑	准教授	2	48
			3	48
	川崎くみ子	講師	3	540
	川添郁夫	講師	4	360
	田中　真	助教	3	45
	藤田俊文	助教	2	45
			3	45
			3	4
			4	8
	高間木静香	助教	3	450

13 年度	牧野美里	助手	2 3	20 20
	早狩瑶子	助手	3 4	90 225

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名,職名,対象学年,科目名,年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
13 年度	樋口　毅	教授	4 3	周産期医学 婦人科学	2 2

3) 卒業研究指導人数,指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
13 年度	3 名	米坂勧
	4 名	工藤せい子
	3 名	石川　玲
	3 名	樋口　毅
	3 名	野戸結花
	6 名	井瀧千恵子
	4 名	五十嵐世津子
	3 名	小山内隆生
	4 名	加藤拓彦
	2 名	髙見彰淑
	2 名	川崎くみ子
	4 名	川添郁夫
	3 名	則包　和也
	2 名	田中　真
	1 名	藤田俊文
	1 名	高間木静香
	1 名	牧野美里
	1 名	横田ひろみ
	1 名	小池祐士
	2 名	早狩瑶子

4) 大学院

(1)講義の担当者名,職名,授業科目(M または D),対象学年,年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	米坂勧	教授	小児保健学特論 (M)	1	20
	工藤せい子	教授	看護倫理学特論 (M)	1	8
			看護技術学特論 (M)	1	16
			基礎看護・看護教育学特講研究 (M)	2	300
			障害保健学特講(D)	1	5
			障害保健学特別研究(D)	3	180
	石川　玲	教授	リハビリテーション医学特論 (M)	1	15
			基礎理学療法学特論 (M)	1	30
			障害保健学特講(D)	1	6
	樋口　毅	教授	教育研究者育成コースワーク(D)	1	4
	野戸結花	教授	成人保健看護学特論 (M)	1	8
			被ばく医療看護学特論 (M)	1	4
	和田一丸	教授	精神障害者作業療法学特論 (M)	1	6
			障害保健学特講(D)	1	6
	井瀧千恵子	教授	成人保健看護特論 (M)	1	6
			被ばく医療看護学特論 (M)	1	22
			地域保健看護学特論 (M)	1	30
			障害保健学特講(D)	1	6
	五十嵐世津子	准教授	保健学連携セミナー (M)	1	12
	小山内隆生	准教授	医療マネジメント (M)	1	6
			基礎作業療法学特論 (M)	2	30
	加藤拓彦	准教授	精神障害者作業療法学特論 (M)	1	10
			基礎作業療法学特論 (M)	1	30
	髙見彰淑	准教授	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学特論 (M)	1	14
			基礎理学療法学特論 (M)	2	30
			保健学研究セミナー (M)	2	24
			障害保健学特講(D)	1	6

13 年度	川崎くみ子	講師	看護倫理学特論（M）	1	14
	藤田俊文	助教	臨床理学療法学特論（M）	1	2

(2)演習の担当者名,職名,授業科目(M または D),対象学年,年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	米坂勧	教授	地域看護学演習（M）	1	7
	工藤せい子	教授	基礎看護・看護教育学演習（M）	1	30
	石川　玲	教授	理学療法学特別演習（M）	1	30
	野戸結花	教授	被ばく医療演習（M）	1	60
			地域保健看護学特別演習（M）	1	60
	小山内隆生	准教授	作業療法学特別演習（M）	1	30
	髙見彰淑	准教授	理学療法学特別演習（M）	1	30

(3)学位論文の作成指導者名,職名,指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
13 年度	米坂　勧	教授	妊婦の飲酒実態と飲酒行動要因の分析（M）
	工藤せい子	教授	・ベッドからポータブルトイレへの移乗介助動作の分析(M) ・妊産婦ケアに生起する“庇護性”に関する研究(D)
	野戸結花	教授	放射線を用いた検査を受ける患者の思い（M）
	小山内隆生	准教授	脳卒中患者における運動麻痺の重症度と抑うつ状態の発生率との関係(M)

5）その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名,職名,名称等

	参　加　者　名	職名	名　　称　　等
13 年度	石川　玲	教授	科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化 学生相談を考える会
	井瀧千恵子	教授	平成 25 年度看護学教育ワークショップ

13 年度	五十嵐世津子	准教授	「公開授業」 神経系障害学Ⅰ　若山佐一教授 内科学演習　丹藤雄介教授 ＦＤミニフォーラム
	小山内隆生	准教授	京都大学高等教育開発センター高等教育研究会
	髙見彰淑	准教授	公開授業　神経系障害学Ⅰ若山佐一教授 公開授業　内科学演習　丹藤雄介教授 公開授業　理学療法評価学演習　高見彰淑准教授, 若山佐一教授 FD ミニフォーラム
	高間木静香	助教	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」 課題解決型学習と主体的な学びー大学生のチャレンジ 2013－ 中間報告会

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
13 年度	工藤せい子	教授	医療倫理学,看護倫理学 ゼミ担当:「看護倫理の基礎となるケアリング」・「看護倫理学について」,学習相談	秋田大学大学院 放送大学学院	8 58
	石川　玲	教授	リハビリテーション論 基礎看護援助論Ⅰ	弘前学院大学 弘前市医師会看護専門学校	15 4
	樋口　毅	教授	周産期・婦人科	弘前医療福祉大学	30
	野戸結花	教授	がん看護学特論 吸引研修会 災害看護学特論	秋田大学大学院医学系研究科 青森県理学療法士会 福井大学	6 4 4
	和田一丸	教授	精神医学 A・B	弘前学院大学	60
	井瀧千恵子	教授	がん看護援助論Ⅰ	秋田大学大学院医学研究科	4

13 年度	五十嵐世津子	准教授	弘前大学教員免許更新講習会	弘前大学	2
	小山内隆生	准教授	精神科リハビリテーション学	弘前学院大学	60
			作業学Ⅰ	山形医療保健大学	6
			作業療法評価技術学Ⅱ	弘前医療福祉大学	30
			人間の尊厳	秋田大学	30
	加藤拓彦	准教授	作業学Ⅰ	山形県立保健医療大学	12
			統合失調症作業療法治療学	弘前医療福祉大学	15
	髙見彰淑	准教授	神経系理学療法学Ⅱ	秋田大学	16
			生活技術支援Ⅱ	秋田福祉専門学校	32
	川崎くみ子	講師	看護倫理学	弘前医療福祉大学	16
	川添郁夫	講師	精神看護学概論	弘前学院大	30
			心の健康をおびやかす障害とケア	放送大学	16
	則包和也	講師	精神看護学	黒石高校看護	20
			精神保健	黒石高校看護	14
			人間関係論	秋田看護福祉大	30
			人間関係論	弘前学院大学	16
	横田ひろみ	助手	成人臨床看護Ⅰ	厚生病院附属看護専門学校	10

３．研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Y. Noto, C. Kitamiya, C. Itaki, M.Urushizaka, R. Kidachi & H. Yamabe. Role of nurses in a nuclear disaster: experience in the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident. International Nursing Review. 60. 196-200, 2013.
2. Yuka NOTO, Noriko OGURA, Mayumi URUSHIZAKA ,Maiko KITAJIMA, Yoshiko NISHIZAWA, Tomoko ICHINOHE, Hideaki YAMABE. Development of the Attitude Scale on Radiation Emergency Medicine for Japanese nurses and evaluation of its reliability and validity. The Journal of Radiological Nursing Society of Japan, 2(1). 3-11, 2014.
3. Shizuka Takamagi, Hideaki Yamabe: Relationship between body mass index and course of pregnancy in women. Health, 5(12), 1976-1982, 2013.
4. Misato Makino, Soko Narita, Hideki Yoshida: Effects of exercise on stress reduction: A study using objective evaluation methods. J.Health Sci.Res.4: 25-30, 2014.
5. Yuji KOIKE, Shuhei KOEDA, Koshi SUMIGAWA, Yuta IMAIZUMI, Chisaya HARA, Hitoshi TSUSHIMA. Need for, and possibility of, training in seated dressing during toileting in stroke patients with poor standing balance. Medicine and Biology, 157. 688-695, 2013.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Ootani, Katsuki; Shimada, Jun; Kitagawa, Yosuke; Konno, Yuki; Miura, Fumitake; Takahashi, Toru; Ito, Etsuro; Ichinose, Kouta; Yonesaka, Susum : Congenital left ventricular aneurysm coexisting with left ventricular noncompaction in a newborn.u. Pediatrics International:57 (4) ,2014.
2. Koshi SUMIGAWA, Yuji KOIKE, Shuhei KOEDA, Koichi SHOZUSHIMA. Comparison of external- and internal-focus motor learning.Medicine and Biology,157.911-916, 2013.
3. Mayumi Urushizaka, Yuka Noto , Noriko Ogura , Maiko Kitajima, Yoshiko Nishizawa , Tomoko Ichinohe and Hideaki Yamabe. Changes in Nurses'Impression of Radiation after Attending Educational Seminars on Radiation. Radiation Emergency Medicine, 2(2). 35-42, 2013.
4. Noriko Ogura, Yuka Noto, Yoshiko Nishizawa, Hideaki Yamabe, Eriko Kudo, Yumiko

Sato, Yoichiro Hosokawa and Masahiko Aoki. Correlation between the symptoms and the quality of life in prostate cancer patients underwent radiotherapy. Radiation Emergency Medicine, 2(2). 23-28, 2013.

5. Koshi SUMIGAWA, Shuhei KOEDA, Yuji KOIKE. The effect of difference of paper craft work on psychological effects -The relationship between flow experience during a paper craft work activity and psychological effect-. Medicine and Biology, 157. 701-707, 2013.
6. Shuhei KOEDA, Yuji KOIKE, Koshi SUMIGAWA, Chihiro SATO, Kazushige KIZUKIZAWA, Takao OSANAI. Factors affecting sleep disorder in convalescent stroke patients. Medicine and Biology, 157. 799-804, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Mori Y, Kanemoto K, Onuma T, Tanaka M, Oshima T, Kato H, Tachimori H, Wada K, Kikuchi T, Tomita T, Chen L, Fang L, Yoshida S, Kato M, Kaneko S: Anger is a distinctive feature of epilepsy patients with depression. Tohoku J Exp Med, 232(2): 123-128, 2014.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 川添郁夫，伊藤誠一，精神科病院における転倒に関する要因の分析―片足保持時間との関連の分析―．第44回日本看護学会論文集―精神保健―，54-57，2014.
2. 川添郁夫，則包和也，倉内静香，小野志麻子．看護学を学ぶ大学生に対する包括的暴力防止プログラム（CVPPP）の教育効果．保健科学研究(4)1-10，2014.
3. 則包和也：幻聴が及ぼす影響を多角的に評価する面接マニュアル「ホットチャート」の実践 ー認知療法の視点を取り入れた幻聴のアセスメントー，日本精神保健看護学会誌，22(1)．21-28．2013.
4. 小池祐士，小枝周平，澄川幸志，對馬均．脳卒中患者に対する排泄動作障害の軽減に向けた改善策についてー文献レビューによる検討ー．医学と生物学,(157)1017-1021，2013.
5. 則包和也，白石裕子：統合失調症患者が行っている幻聴への対処，認知療法研究，7（1），66-74，2014.
6. 横田ひろみ，齋藤久美子．臨床経験 2・3 年目看護師の勤務帯リーダーの自信につな　がる要因―6年目以上看護師との比較から―．日本看護管理学会誌,17(1),15-27,2013.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 鈴木保之，大徳和之，福井康三，福田幾夫，今野夕貴，北川陽介，大谷勝紀，高橋徹，米坂 勧．成人期 Fontan 手術の検討．日本小児循環器学会誌．29(5)，218-224，2013.
2. 澄川幸志，小枝周平，小池祐士，三橋佑平，村上正和，加藤拓彦．作業活動の心理的効果に対する作業時間の影響．作業療法ジャーナル，48．77-82，2013.
3. 西沢義子，野戸結花，北宮千秋，會津桂子．看護学生と看護師が受ける放射線防護服のイメージ．日本放射線看護学会誌，2(1)．29-34，2014
4. 佐藤香吏，原田久美子，千葉直，長内理愛，後藤明教，北澤淳一，牧野美里，藤田俊文，石川玲：呼吸器疾患を有する乳幼児の呼吸音解析の試み.東北理学療法学，(26),152-158，2013.
5. 藤林直樹，奈良里美，佐藤誠剛，山田智子，長谷川至，越後谷直樹，藤田俊文，対馬栄輝，石川玲：ダイナミックストレッチングの即時効果に関する検討.東北理学療法学，26：84-89，2013.
6. 中田農生，安原教子，石川 玲：危険予知トレーニング（ＫＹＴ）による転倒予防対策の取り組み．理学療法研究(31)：15-19，2014.
7. 林　真子，安原教子，廣瀬美幸，小笠原佑介，石川　玲：起立性低血圧と運動器疾患がみられた高齢な急性心筋梗塞患者に対する理学療法の経験．理学療法研究(31)24-28，2014.
8. 小枝周平，澄川幸志，小池祐士，浅利絢，今井寛人．回復期脳卒中患者における主観的回復感と脳卒中後抑うつ状態との関連．作業療法，32，123-132，2013.

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 飯野香理，柞木田礼子，阿部和弘，谷口綾亮，三崎直子，樋口 毅，中路重之，水沼英樹，FRAX®の骨粗鬆症一次スクリーニングの有用性に関する検討，日本女性医学学会雑誌，20，386-390，2013.
2. 大石舞香，田中幹二，石原佳奈，松村由紀子,飯野香理，湯澤 映，重藤龍比古，水沼英樹，樋口 毅，阿部和弘,部分胞状奇胎が疑われ当科紹介となった間葉性異形成胎盤（PMD）の一例，青森県臨床産婦人科医会誌,28，31-35，2013.
3. 横山良仁，福井淳史，福原理恵，樋口 毅，水沼英樹，ロボット支援下子宮体癌根治手術の現状と患者満足度，青森骨盤外科研究会誌，19，11，2013.
4. 飯野香理，樋口 毅，田中幹二，水沼英樹,妊娠時の血圧値とその後の生活習慣病発症との関連性,産婦人科の実際，63，199-201，2013.
5. 鴨井舞衣，田中幹二，小林麻美，伊東麻美，谷口綾亮，樋口 毅，水沼英樹,３番染色体短腕腕内モノソミーに先天性横隔膜ヘルニアを合併した１例,青森県臨床産婦人科医会誌,28,38-42,2013.

6. 堤 弥生，西沢義子，野戸結花，小倉能理子，山辺英彰，細川洋一郎，根里明子，丸山恭子，明石真言．重粒子線治療を受ける患者の急性放射線障害と QOL について－前立腺がんの場合－．日本放射線看護学会誌，2(1)．19-28，2014.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 澄川 幸志，小枝 周平，小池 祐士，三橋 佑平，村上 正和，加藤 拓彦:作業活動の心理的効果に対する作業時間の影響．作業療法ジャーナル 48．77-82，2014

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 樋口毅,骨粗鬆症 Q&A 「SERM の骨外作用について教えて下さい」,骨粗鬆症治療,12,71-75,2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 石垣琢麿,則包和也,川添郁夫,丹野義彦,細野正人．個人用メタ認知トレーニング（Metacognitve Training plus；MCT+）日本語版の開発．精神医学，56（1）．65-74，2014.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 樋口　毅：うつ・不安神経症.吉川史隆，倉智博久，平松祐司.産科婦人科疾患最新の治療 2013-2015.267-269,南江堂,東京,2013.
2. 樋口　毅:骨粗鬆症の治療薬の種類とその使い分けは？．杉山徹,苛原稔,原田省,鈴木直，川名敬．婦人科疾患の治療 2013-2014.198-205,中外医学社,東京,2013.
3. 樋口　毅,三崎直子,水沼英樹:更年期障害に対する HRT と漢方療法の使い分けは？.水沼英樹，髙松潔．今日からできるホルモン補充療法-HRT 実践マニュアル-.48-56,中外医学社,東京,2013.
4. 樋口 毅：SERM のエストロゲン様作用．太田博明 杉本利嗣 田中栄．ファーマナビゲーター　SERM 編.110-119,メディカルレビュー社,大阪,2013.
5. 樋口 毅,飯野香理,阿部和弘,水沼英樹：Turner 症候群．「産科と婦人科」編集部編.ホルモン療法実践マニュアル.288-293,診断と治療社,東京,2013.
6. 髙見彰淑：脳卒中理学療法の理論と技術,原寛美・吉尾雅春編集,メジカルビュー社,2013.（担当部分：「Ⅲ評価の知識－運動機能検査」の執筆）

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 弘前大学大学院保健学研究科現職者研修実行委員会：被ばく患者対応トレーニングマニュアル，弘前大学出版会，弘前，2014

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

4）その他

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 髙見彰淑,唐布和,安藤道晴,丸山翔,若山佐一：中国内モンゴル自治区のリハビリテーション医療の実態に関する報告．保健科学研究 4：51-57,2014.
2. 五十嵐世津子，赤石恵子，阿部浩江，井瀧千恵子，一戸厚子，工藤優子，今敏子，齊藤史恵，鈴木光子，高橋桂子，高間木静香，田中純子，仁木雪子，野呂修子，山形祐子：母性グループのこれまでの活動と今後について－平成 25 年度－．青森県看護教育研究会誌，42．25-26，2014.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 白石裕子,岡田佳詠　國方弘子,則包和也,北野誠,石川博康：看護師が実践する CBT における多職種連携を考える「CBT において看護補助者を多職種として認知する-治療的な雰囲気を整えるために-」　　認知療法研究 6（2）,136-137　2013
2. 漆坂真弓，高間木静香，北島麻衣子，工藤せい子，齋藤久美子，齋藤美紀子，野戸結花，米内山千賀子，會津桂子，秋元安子，葛西敦子：看護職者の英語教育に対する意識．青森県看護教育研究会誌，42．1-5，2014.

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ．学会,研究会等の発表

1）国際学術集会

Ａ.特別（招待）講演

1. Higuchi T, Trials to Objective Assessment of Kamishoyosan(Japanese herbal medicine)for climacteric disorders, The 5th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation,Tokyo(proceeding あり)

Ｂ．シンポジウム,パネルディスカッション,ワークショップでの講演

なし

C.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Susumu Yonesaka, Toru Takahashi, Takumi Sato, Tomomi Ueda, Yosuke Kitagawa, Yuki Konno, Jun shimada, Shuji Eto, Akira Sato, Katuki Otani, Kota Ichinose, Manabu Kinjo:Clinicopathological investigation on cardiomyopathy with special reference to fatal cardiomyopathy in childhood using pathophysiological parameters: The impact of noncompaction cardiomyopathy on pediatric cardiomyopathy. AEPC (Association for European Pediatric Cardiology) 47th Annual Meeting. 2013, May 22-24, London, England.
2. Maiko Kitajima ,Mayumi Urushizaka, Akiho Sugawara, Shini Saito, Seiko Kudo : The Psychological Effects of Foot Massage Using Essential Oil , 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb 20-21, 2014 (Manila, Philippines).
3. Higuchi T, Iino K, Tarakida A, Abe K, Taniguchi R, Mizunuma H, The role of Anti-Mullerian Hormone, Inhibin B, FSH and Estradiol as a tool of menopausal marker, The 5th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation, Tokyo, 2013(proceeding あり)
4. Iino K, Oishi M, Abe K, Taniguchi R, Higuchi T, Mizunuma H, The relationship between blood pressure during pregnancy and life style-related diseases in later life:a retrospective study from 148 maternity health record books, The 5th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation, Tokyo, 2013 (proceeding あり)
5. Abe K, Iino K, Tarakida A, Taniguchi R, Higuchi T, Mizunuma H, Does Proteoglycan protect bone fragility caused by castration? The 5th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation, Tokyo, 2013 (proceeding あり)
6. Yuka Noto, Maiko Kitajima, Miwako Asari, Tokue Tazawa. Changes in interface pressure during exercise in postoperative cancer patients with arm lymphedema wearing elastic sleeves. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
7. Yuka Noto, Yoshiko Nishizawa, Chiaki Kitamiya, Keiko Aizu. STUDY ON FUNCTIONALITY OF RADIATION-PROTECTIVE EQUIPMENT The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
8. Yoshiko Nishizawa, Yuka Noto, Chiaki Kitamiya, Keiko Aizu. STUDY OF HAZMAT SUIT IMPRESSION: A COMPARISON BETWEEN OFFICE WORKERS AND NURSES. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
9. Maiko Kitajima, Yuka Noto, Noriko Ogura, Mayumi Urushizaka, Yoshiko Nishizawa, Tomoko Ichinohe, Hideaki Yamabe. THE EFFECTS OF THE WORKSHOP

ABOUT RADIATION EMERGENCY FOR NURSES. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014

10. Keiko Aizu, Yoshiko Nishizawa, Yuka Noto, Chiaki Kitamiya. AWARENESS REGARDING IMPROVEMENT OF RADIATION PROTECTIVE EQUIPMENT FROM THE PERSPECTIVE OF STAFF WHO ENGAGE IN EMERGENCY RADIATION MEDICINE AND TRAINING. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
11. Chiaki Kitamiya, Yoshiko Nishizawa, Yuka Noto, Keiko Aizu. IMPROVEMENTS IN THE GM SURVEY METER FOR HUMAN MEASURMENT The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
12. Hikaru Sasatake, Yuka Noto. Awareness of radiation patients undergoing computed tomography (CT). The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
13. Yasuyo Fukushi, Chieko Itaki, Maiko kitajima, Yuka Noto, Yasushi Mariya. A STUDY ON CHANGES IN ERYTHEMA AND SKIN SURFACE TEMPERATURE DURING AND AFTER RADIOTHERAPY FOR BREAST CANCER PATIENTS. The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines, 2014
14. Chieko I, Maiko K, Toshiko T, Mayumi U, & Kyoko T, THE EFFECT OF NURSING EDUCATION ON THE RISK MANAGEMENT OF PHYSICAL ACTIVITIES IN PATIENTS WITH DIABETES, 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Philippines (Maynila), 2014
15. Jumpei Takahashi, Akiyoshi Takami, Saichi Wakayama：CLINICAL REASONING BY PHYSICAL THERAPISTS TO ASCERTAIN WHETHER PATIENTS WITH HEMIPLEGIA CAN WALK INDEPENDENTLY. WCPT-AWP & ACPT Congress 2013. Sep Taiwan
16. Ruriko Kidachi, Saichi Wakayama, Chiaki Kitamiya, Teruko Takeo, Kazuya Norikane, Ikuo Kawazoe, et al., SUMMARY OF ACTIVITIES OF RELATED TO THE EDUCATION PROGRAM ON RADIATION RISK COMMUNICATION AT HIROSAKI UNIVERSITY IN JAPAN, EAFONS, , Philippines, 2014.
17. Kazuya Norikane, Ikuo Kawazoe, Shizuka Kurauchi Shimako Ono ：Evaluation of new recording form designed to help students to focus on patients' cognition and emotion on clinical training in psychiatric nursing 7 th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies Lima. Peru 2013
18. Shizuka Takamagi, Maiko Kitajima, Mayumi Urushizaka, Atsuko Kasai, Seiko Kudo, Kumiko Saito, Mikiko Saito, Yuka Noto, Chikako Yonaiyama, Keiko Aizu, Yasuko Akimoto, Taeko Tamakake: Survey of awareness of, and effects toward, English education among nursing teachers: comparison of teachers' English proficiency. 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb 20, 2014.

19. Shizuka Takamagi: Prenatal yoga and its perceived effects on pregnant women, 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb 20, 2014.

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム,パネルディスカッション,ワークショップでの講演

1. 工藤せい子：チーム医療に関わる各職種の役割と提言－ある患者会を通じて，北海道・東北地区リウマチの治療とケア研修会，青森市）．2013（

2. 樋口毅,骨粗鬆症診療における SERM の臨床経験-SERM に適した患者層とは-,第 9 回 SERM 学術研究会学術集会,東京,2013

3. 西沢義子,野戸結花,木立るり子,井瀧千恵子,冨澤登志子,北宮千秋,一戸とも子：放射線看護の高度化・専門化に向けた IPE による教育システムの構築
― 被ばく医療人材育成プロジェクトの経験から ― ,第 39 回日本看護研究学会，秋田県秋田市，2013

C．一般演題（ポスター発表を含む）　47 件

Ⅲ．学術賞

なし

Ⅳ．共同研究

なし

V．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1. 野戸結花

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：リンパ浮腫に対する運動療法プログラムの開発と効果の検証

配分額：650（千円）

2. 井瀧千恵子

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：糖尿病セルフマネジメント支援に関する学生教育プログラムの開発
配分額：1300（千円）

3.五十嵐世津子
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究課題名：乳児の離乳に関する母親の意識と実態－食は人をつくる根源－
配分額：650　　（千円）

4.則包和也
研究種目：挑戦的萌芽
研究課題名：統合失調症患者の認知機能を改善するソフト“ＭＣＴ”の効果検討に関する研究
配分額：1,060（千円）:

5.藤田俊文
研究種目：科学研究費補助金　若手研究Ｂ
研究課題名：全身振動刺激が筋循環・代謝機能に与える影響の解明
配分額：4,420 千円（内,間接経費 1,020 千円）

6.高間木静香
研究種目：　若手研究（B）
研究課題名：マタニティヨーガが妊婦の心臓自律神経系調節および感情に及ぼす効果
配分額：　650（千円）

7.横田ひろみ
研究種目：若手（B）
研究課題名：放射線,被ばくに関する看護職のリスク認知の実態
配分額：900（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.　工藤せい子
研究種目：基盤研究（C）
研究課題名:直腸がん手術患者の排便状態アセスメントシートの作成と排便障害改善の看護介入
研究代表者名：藤田あけみ
配分額：　100（千円）

2.川添郁夫
研究種目：挑戦的萌芽
研究課題名：統合失調症患者の認知機能を改善するソフト“MCT”の効果検討に関する研究

研究代表者名：則包和也
配分額：　150　（千円）

3. 則包和也
研究種目：基盤研究（C）
研究課題名:精神科病院における社会的入院患者数減少に向けた退院支援評価指標の開発と実証
研究代表者名：石﨑智子
配分額：200　（千円）

2）その他の省庁からの研究費
研究代表者として
なし

他研究単位との研究分担者として
なし

3）学内の研究助成
研究代表者として
1. 井瀧千恵子
助成名：平成２５年度高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト研究支援事業
研究課題名:乳がん患者の放射線皮膚炎に対するセルフケア支援プログラム開発のための基礎的研究
配分額：300（千円）

2. 高間木静香
助成名：平成 25 年度高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト研究支援事業
研究課題名： 浪江町初期被ばく線量検査実施による不安軽減への寄与に関する調査
配分額：300（千円）

3. 小池祐士
助成名：平成 25 年度　保健学研究科　科研費採択奨励事業
研究課題名：新たな排泄動作自立戦略は排泄動作障害を有する脳卒中患者を救う
配分額：30（千円）

他研究単位との研究分担者として
1. 井瀧千恵子
助成名：平成２５年度高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト研究支援事業
研究課題名：放射線療法を受けるがん患者の放射線皮膚炎に関する研究

研究代表者名：北島　麻衣子
配分額：300（千円）

4）民間の研究助成
研究代表者として
1.川添郁夫
助成名：青森医学振興会
研究課題名：青森継続看護研究会
配分額：　550　（千円）
2. 藤田俊文
助成名：日本カシス協会　平成 25 年度「カシス研究」助成
研究課題名:カシスアントシアニン摂取が運動時の循環動態および代謝機能に及ぼす影響
配分額：300（千円）

他研究単位との研究分担者として
なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動
なし

1）国際交流,国際的活動
a）国際学術集会の主催
なし

b）外国人研究者の招聘,受け入れ状況
なし

c）外国人からの留学生,研究生の受け入れ状況
なし

d）外国研究機関の視察,研究参加（3 ヵ月未満）状況
なし

e）外国研究機関への留学（3 ヵ月以上）状況
なし

f）その他

なし

2）国内,地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

４．社会貢献活動

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	日本小児循環器学会 日本小児科学会 青森県小児保健学会 青森臨床循環器研究会 東北小児循環器研究会 東北小児循環器懇話会	評議員 代議員 幹事 幹事 幹事 幹事
工藤せい子	・日本看護研究学会 ・日本ヒューマンケア科学学会	理事・評議員 評議員

樋口　毅	日本女性医学学会 日本女性医学学会 青森県臨床産婦人科医会 婦人科骨粗鬆症研究会 青森県骨粗鬆症研究会 青森県 STI 研究会 Female LUTS and Pelvic Floor Meeting 日本産科婦人科学会 　　専攻医試験作成委員 　　女性ﾍﾙｽｹｱ委員協力員 日本女性医学学会 　　早期卵巣機能不全診療指針作成委員 　　ﾎﾙﾓﾝ補充療法ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ作成委員 　　女性医療ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ・更年期診療偏作成委員	評議員 幹　事 理　事 世話人 世話人 世話人 世話人 代議員 委員 協力員 委員 委員 委員
野戸結花	日本放射線看護学会	理事
和田一丸	日本てんかん学会 日本てんかん学会東北地方会 東北てんかん談話会 東北精神保健福祉学会	評議員 幹事 幹事 理事
井瀧千恵子	日本放射線看護学会	理事
小山内隆生	東北精神保健福祉学会	副会長
加藤拓彦	青森県作業療法士会	監事
川添郁夫	青森継続看護研究会	会計
則包和也	青森継続看護研究会　第 14 回研究集会	編集
藤田俊文	一般社団法人青森県理学療法士会広報局ﾆｭｰｽ編集部・財務部 一般社団法人青森県理学療法士会 公益社団法人日本理学療法士協会東北ブロック学術局 一般社団法人青森県理学療法士会学術局	部員 理事 副局長 局長
高間木静香	青森県看護教育研究会	連絡員
横田ひろみ	自然放射線被ばくと低線量放射線影響に関する国際シンポジウム	実行委員
小池祐士	青森県作業療法士会　広報部	部員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	青森臨川崎病研究会 弘前小児心臓勉強会 青森小児心臓病懇話会	代表世話人
工藤せい子	【セミナー】患者・家族指導スキルアップセミナー 日時：平成 25 年 10 月 7 日 17 時 20 分～19 時 20 分 場所：弘前大学大学院保健学研究科３階１８講義室 講師：がん化学療法看護認定看護師粟津朱美氏 参加者：30	企画・運営
川添郁夫	第 14 回青森継続看護研究集会	実行員
則包和也	青森継続看護研究会　第 15 回研究集会	企画・運営員
横田ひろみ	看護診断セミナー初級コース 看護診断セミナー中級コース 看護診断セミナー上級コース 第１回　日本放射線看護学会学術集会	実行委員 企画委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
石川　玲	「保健学研究」での論文査読	査読
工藤せい子	日本看護倫理学会 一般社団法人日本看護研究学会 日本ヒューマンケア科学学会	編集・査読員 査読員 査読員
樋口　毅	日本産科婦人科学会 日本女性医学学会	査読委員 査読委員
井瀧千恵子	保健科学研究 日本放射線看護学会誌	査読 査読
小山内隆生	青森県作業療法研究	査読委員

加藤拓彦	日本作業療法士協会 青森県作業療法士会	機関誌編集協力者 査読委員
髙見彰淑	理学療法 理学療法学 理学療法研究	査読員 査読員 査読員
則包和也	日本精神科看護技術協会	査読
田中　真	青森県作業療法士会	査読員
藤田俊文	東北理学療法学	査読員

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
工藤せい子	一般社団法人日本看護研究学会	審査員
石川　玲	第 49 回日本理学療法学術大会	査読員
小山内隆生	日本作業療法学会演題審査委員	委員
加藤拓彦	世界作業療法士連盟	学会演題審査委員
髙見彰淑	第 49 回日本理学療法学術大会	審査
川添　郁夫	（財）日本精神看護技術学会	査読委員
田中　真	世界作業療法士連盟	学会演題査読委員
藤田俊文	日本理学療法学術大会 東北理学療法学術大会	査読員 査読員
高間木静香	第 15 回日本母性看護学会学術集会一般演題査読	査読員

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
工藤せい子	放送大学青森学習センター公開講演会(放送大学創立30周年,青森学習センター開設20周年),「健康な日常生活を送るための知恵」 リウマチ患者会「のぞみの会」4・7・10・1月に参加 4・7・10月の三階については,季刊リーフレットへ「ケアリングコラム,ケアリングフォト」投稿	講師 世話人
野戸結花	がんサロン勉強会「ﾘﾝﾊﾟ浮腫について学ぼう」7回開催	講師
田中　真	傾聴ボランティア養成講座継続研修（鶴田町） 傾聴ボランティア養成講座継続研修（五所川原市） 傾聴ボランティアスキルアップ研修（平川市）	講師
早狩瑶子	青年講座「大人の保健体育」 青年講座「イクメン講座」	講師

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
和田一丸	青森県国民健康保険診療報酬審査委員会 青森県立精神福祉保健センター通院医療費等判定会	委員 委員
小山内隆生	医療審議会 青森県精神保健福祉協会	委員 理事

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加,技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	東北小児循環器懇話会教育講演	教育講演演者
工藤せい子	・北海道・東北地区リウマチの治療とケア研修会，テーマ：チーム医療に関わる各職種の役割と提言－あるリウマチ患者会を通じて(30 分間)，平成 25 年 8 月 5 日	一般講演講師
石川　玲	弘前大清水ホーム	講師
樋口　毅	上十三医師会学術講演会-ウイメンズ講演会- 第 528 回北上医師会医学集談会 東津軽郡学術講演会	講師 講師 講師
和田一丸	公立学校共済組合青森支部メンタルヘルスセミナー	講師
髙見彰淑	日本理学療法士協会主催　理学療法講習会基本編 日本理学療法士協会 神経系理学療法士必須研修会 青森県理学療法士会青森支部特別研修会	講師 講師 講師
則包和也	高松医師会看護専門学校同窓会　総会記念講演	講師
田中　真	秋季学校教員研修会（鰺ヶ沢市） 保健福祉セミナー（十和田市）	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	大館市立病院小児心臓外来診療 金城公立病院小児科外来診療	非常勤医師
石川　玲	芙蓉会村上病院での理学療法技術指導 弘前大清水ホームｓｗのリハビリ園内研修 弘前学院大学での授業 弘前市医師会看護学校での授業	非常勤講師
樋口　毅	青森県マンモグラフィー読影委員会 青森県骨密度判定委員会 弘前市マンモグラフィー読影委員会	委員 委員 委員

和田一丸	弘前大学医学部附属病院 青森県障害者相談センター 青森市立浪岡病院 つがる西北五広域連合西北中央病院 東北電力（株）東通原子力発電所 青森県警察本部交通部運転免許課	医師 嘱託医 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 認定医
井瀧千恵子	第 4 回緊急被ばく医療現職者研修	講師
小山内隆生	みちのく記念病院 芙蓉会病院	非常勤講師 非常勤講師
加藤拓彦	社会福祉法人みやぎ会	講師
髙見彰淑	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 青森慈恵会病院 ときわ会病院 ひかり荘	非常勤理学療法士
藤田　俊文	介護老人保健施設つがる 長慶苑デイサービスセンター 弘前静光園デイサービスセンター	非常勤理学療療法士
小池　祐士	平川市介護予防事業（運動器の機能向上事業）	講師
高間木静香	研修浪江町初期被ばく線量検査における業務（浪江町からの派遣依頼により 13 回（のべ 16 日間）実施）	業務担当

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
米坂　勧	弘前大学教員免許状更新講習	講師
石川玲	青森県理学療法士会表彰委員会	委員長

工藤せい子	弘前大学医学部附属病院看護部「看護倫理研修会」2013年9月4・5日,参加者,2014年2月21日 弘前市立病院看護職員研修,「看護研究を楽しむ－看護研究入門編」2013年5月31日,参加者30名 弘前市立病院医療安全管理研修会,「倫理への意識を高め,医療野室の向上を図る」2013年7月12日 国立大学保健医療系代表者協議会看護分科会	講師 講師 講師 大学院検討委員
樋口　毅	アステラス株式会社社員研修会	講師
野戸結花	独立行政法人国立病院機構弘前病院 緩和ケア研修「リンパ浮腫について」4回開催	講師
井瀧千恵子	コンサルティングナースの研修会	講師
五十嵐世津子	1．弘前大学医学部附属病院看護部 平成25年度院内研修（看護研究Ⅰエビデンスリサーチ） 2．弘前大学医学部附属病院看護部 平成25年度院内研修　報告会 （看護研究Ⅰエビデンスリサーチ）	講師 講師
小山内隆生	青森県作業療法士会基礎研修会	講師
加藤拓彦	日本作業療法士協会	教育部部員
川崎くみ子	青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会 弘前大学医学部付属病院看護部研修 自己育成：看護倫理（1）（2）	講師 講師
川添　郁夫	青森県看護協会	講師
則包和也	実習指導者講習会（青森県看護協会主催） ・精神看護学実習指導の方法	講師

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動,国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職

13）その他（ボランティア,マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
樋口　毅	ドリーム講義（五所川原高校）	講師
五十嵐世津子	弘前大学大学院保健学研究科附属すこやかコミュニティ支援センター「女性のためのよろず健康相談」 ドリーム講座　（五所川原高校） 弘前大学進学相談会（五所川原農林高等学校）	講師 講師 講師
井瀧千恵子	浪江町ストレスマーカー測定後の書面による生活指導	指導員
小山内隆生	東北精神保健福祉協議会会長表彰	委員
川崎くみ子	女性のためのよろず健康相談	相談員
則包和也	ドリーム講座（東奥義塾高校８月２日）	講師
田中　真	あおもりいのちの電話	相談員及び研修委員長
藤田俊文	第 96 回全国高等学校野球選手権大会青森大会	救護班
高間木静香	弘前大学進学相談会（函館陵北高等学校） 平成 25 年度緊急被ばく医療人材育成プロジェクト現職者研修 FM アップルウェーブ「りんご王国こうぎょくカレッジ」	相談員 実行委員 講師

放射線生命科学分野

Department of Radiological Life Sciences

１．教員

放射線生命科学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
5	2	4	6	0

２．教育活動

1) 21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
13 年度	中川公一	教授	化学 IB(3)	16
	細川洋一郎	教授	環境と生活 D 生物の科学、技術（A）①生物の環境適応と進化 芸術世界 D 基礎ゼミナール	16 10 14 32
	真里谷靖	教授	基礎ゼミナール	32
	祐川幸一	准教授	科学技術の発達（D）	32
	廣田淳一	准教授	数学の基礎 統計学の基礎	30 30
	樽澤孝悦	講師	科学・技術の発達(J) ―放射線の利用と防護―	32
	工藤幸清	講師	テーマ科目「環境と生活（D)」	16
	中原岳久	講師	物理学の基礎Ⅱ（D）（放射線） 物理学の基礎Ⅱ（D）（検査） 生物学の基礎Ⅱ（A）④ 基礎ゼミナール	32 32 12 32
	細田正洋	講師	基礎ゼミナール	32
	寺島真悟	助教	放射線防護の基礎	4

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
13 年度	細田正洋	講師	基礎科学実験	108

2) 学部教育

(1) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	柏倉幾郎	教授	放射化学 I	2	30
			放射化学 II	2	16
			医療情報学	3	16
			医用情報学演習	3	30
			総合演習 II	4	16
	中川公一	教授	放射線計測学	2	32
			放射線計測学演習	3	32
			総合演習 II	4	8
	細川洋一郎	教授	放射線治療技術学	2	30
			放射線治療線量評価学演習	3	20
			放射線治療技術学演習	3	30
			放射線治療物理学演習	4	30
			医学英語	3	10
			卒業研究	4	180
			総合演習 III	4	10
			保健学概論演習	4	6
	真里谷靖	教授	画像解剖学	2	16
			画像解剖学演習	2	32
			臨床医学概論演習	2	32
			医学英語演習	3	10
			核医学検査技術学（T)	3	16
			医療リスクマネージメント	3	4
			核医学検査技術学	3	32
			核医学検査技術学演習	3	32
			核医学検査技術学 I	2	32
			総合演習 II	4	10
			総合演習 V	4	10

13 年度	齋藤陽子	教授	保健学概論	1	2
			量子撮影技術学	2	64
			診療画像技術学Ⅰ	2	32
			診療画像技術学Ⅱ	3	32
			診療画像技術学演習	3	32
			医学英語演習	3	10
			総合演習Ⅳ	4	16
			総合演習Ⅴ	4	10
			理学療法特殊講義	3	6
			神経・筋・感覚機能検査学	3	7
			疾病論Ⅱ	2	4
	祐川幸一	准教授	人体形態学	1	64
			人体形態学演習	1	32
			総合演習Ⅴ	4	4
	廣田淳一	准教授	X 線 CT 工学演習	3	30
			波動応用機器工学	2	15
			放射線治療機器工学	3	15
			放射線治療線量評価学演習	3	6
			医用工学	2	30
			解析学	1	15
			X 線 CT 工学演習	2	30
			総合演習Ⅰ	4	8
			放射線治療機器工学	2	30
	樽澤孝悦	講師	放射線安全管理学	3	30
			放射線安全管理学演習	4	30
			総合演習Ⅲ	4	8
	工藤幸清	講師	量子撮影技術学	2	8
			X 線機器工学	2	32
			医用工学演習	2	32
			X 線機器工学	3	32
			総合演習Ⅰ	4	10
			総合演習Ⅳ	4	14
	中原岳久	講師	放射線生物学	2	28
			総合演習Ⅲ	4	8

13 年度	細田正洋	講師	放射線画像形成学	2	32
			放射線物理学	2	32
			放射線物理学演習	2	32
			医用画像情報学	2	25
			核医学検査技術学Ⅰ	2	6
			医用画像情報学演習	3	20
			医療情報学演習	3	6
			総合演習Ⅰ	4	10
	久保田護	助教	総合演習Ⅲ	4	6
	對馬　惠	助教	核医学検査技術学Ⅰ	2	12
			核医学検査技術学Ⅱ	3	12
			核医学検査技術学演習	3	26
			医用情報学演習	3	8
			画像解剖学演習	2	10
			デジタル処理演習	3	30
			総合演習Ⅱ	4	6
			総合演習Ⅳ	4	6
	門前　暁	助教	医用画像情報学	2	10
			医用情報学演習	3	14
	寺島真悟	助教	放射線生物学	2	6
			放射線治療線量評価学演習	3	6
			総合演習Ⅲ	4	4

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	柏倉幾郎	教授	放射線科学実験	3	48
	中川公一	教授	放射線計測学実験	3	45
	細川洋一郎	教授	放射線計測学実験	3	45
	祐川幸一	准教授	人体形態学実習	1	45
	廣田淳一	准教授	放射線機器工学実験	3	45
			医用工学実験	2	45
	樽澤孝悦	講師	放射線安全管理学実験	4	45
	工藤幸清	講師	医用工学実験	2	45
			放射線機器工学実験	3	45

13 年度	中原岳久	講師	医用物理学実験（放射線）	1	45
			医用物理学実験（検査）	1	45
			放射線科学実験	3	21
			放射線安全管理学実験	4	45
	細田正洋	講師	医用画像情報学実験	3	45
	久保田護	助教	放射線機器工学実験	3	45
			放射線管理学実験	4	45
			放射線計測学実験	3	45
			医用画像情報学実験	3	45
	對馬　惠	助教	放射線安全管理学実験	4	45
			放射線計測学実験	3	45
			医用画像情報学実験	3	45
			放射線機器工学実験	3	45
	門前　暁	助教	放射線科学実験	3	21
			医用物理学実験	1	45
			放射線計測学実験	3	45
	寺島真悟	助教	医用物理学実験	1(R)	42
			医用物理学実験	1(T)	42
			放射線機器工学実験	3	42
			放射線計測学実験	3	45
	吉野浩教	助教	放射線科学実験	3	45
			医用物理学実験	1(T)	45
			医用工学実験	2	45

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
13 年度	細川洋一郎	教授	3	60
			4	60
	真里谷　靖	教授	3	60
			4	60
	齋藤陽子	教授	3	45
			4	45
			3 (T)	21

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
13 年度					

3) 卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
13 年度	5 名	柏倉幾郎、門前　暁、吉野浩教
	2 名	中川公一
	5 名	細川洋一郎、門前暁、吉野浩教、寺島真吾
	4 名	真里谷　靖、對馬恵、門前暁
	4 名	齋藤陽子
	3 名	祐川幸一
	2 名	廣田淳一
	1 名	樽澤孝悦
	4 名	工藤幸清
	2 名	中原岳久
	3 名	細田正洋

4) 大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	柏倉幾郎	教授	放射薬品学持論 (M)	1	30
			基礎生体情報放射線科学特論 (M)	1	30
			生体情報放射線科学特別研究 (M)	2	30
			放射線防護総論 (M)	1	30
			放射線薬品学特論 (M)	1	30
			放射線影響学特論 (M)	1	30
			放射線生命科学特講 (D)	2	30
			放射線生命科学特別研究 (D)	3	180

13 年度	中川公一	教授	放射線防護総論（M） 保健学研究セミナー（M）	1 1，2	8 約 10
13 年度	細川洋一郎	教授	保健学連携セミナー（M） 放射線防護総論（M） 放射線治療技術学特論（M）	1 1 1	6 8 30
13 年度	真里谷　靖	教授	医療マネジメント（M） 基礎生体画像情報解析学特論（M）	1 1	24 30
13 年度	齋藤陽子	教授	画像診断技術学演習・特講（M） 被ばく医療総論（M）	2 1	30 8
13 年度	祐川幸一	准教授	脳機能画像解析学（M）	1	30
13 年度	廣田淳一	准教授	IPW（D）	1	15
13 年度	工藤幸清	講師	放射線防護総論（M） 保健学連携セミナー（M）	1 1	8 30
13 年度	中原岳久	講師	放射線防護総論（M）	1	8
13 年度	細田正洋	講師	放射線防護総論（M） 診療放射線基礎科学（M）	1 1	6 30
13 年度	門前暁	助教	生体情報放射線科学特別研究（M） 基礎生体画像情報解析学特論（M）	2 1	150 60

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	柏倉幾郎	教授	生体情報放射線科学特別演習（M） 放射線生命科学特講演習（D）	1 2	30 30
13 年度	真里谷　靖	教授	生体画像情報解析学特別演習	1	60
13 年度	齋藤陽子	教授	被ばく医療演習（M） 生体画像情報学演習（D）	1 1	30 8

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
13 年度	柏倉幾郎	教授	「ヒト造血幹/前駆細胞における放射線感受性遺伝子の発現解析」(M) 「アルツハイマー型認知症における局所脳血流低下と Mini-Mental State Examination Score の関連性」(M) 「臍帯血中に放出される DNA 酸化損傷マーカー 8-hydroxy-2’-deoxyguanosine と母子因子との関連性」(D)
13 年度	細川洋一郎	教授	IMRT 臨床プランにおける Tongue & Groove 効果誘発誤差の事前評価法の開発 (M)
13 年度	齋藤陽子	教授	頭部 CT 撮影における放射線防護材の水晶体被曝低減―放射線治療計画装置を用いた被曝線量分布シミュレーションによる評価― (M)

5) その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　称　等
13 年度	中川公一	教授	弘前大学公開授業　１回参加 FD 参加　4 回
13 年度	工藤幸清	講師	平成 25 年度弘前大学ＦＤワークショップ（第 15 回）テーマ「科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化」(H25.6.8) 平成 25 年度弘前大学ＦＤワークショップ（第 16 回）テーマ「学生のアクティブ・ラーニングを評価し，彼らの学習成果の測定に用いる」(H25.12.4) 平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24) 平成 25 年度公開授業（神経系障害学Ⅰ，若山佐一教授） 平成 25 年度ＦＤ講演会「血小板のよる新しい肝疾患治療法の開発－基礎から臨床へ－」(H26.1.8)

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
13 年度	細川洋一郎	教授	歯科放射線学 放射化学	岩手医科大学 青森大学	2 10
	真里谷　靖	教授	病態治療学Ⅰ（放射線科）	秋田看護福祉大学	10
	祐川幸一	准教授	人体の構造と機能Ⅰ 人体のしくみと働き 人体の構造と機能Ⅱ	秋田看護福祉大 弘前市医師会看護専門学校 国立病院機構弘前病院附属看護学校	30 140 30
	細田正洋	講師	放射化学	青森大学	8
	久保田　護	助教	成人看護(放射線診療と看護)	八戸准看護学院	6
	對馬　惠	助教	放射線科学	青森県立黒石高等学校専攻科看護科	10

３．研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. K. Nakagawa, S. Minakawa, and D. Sawamura. Stratum corneum structure of *psoriasis vulgaris* investigated by EPR spin-probe method. Appl. Magn. Reson., 44, 941-948 (2013).
2. K. Nakagawa, S. Minakawa, and D. Sawamura. EPR spectroscopic investigation of psoriatic finger nails. Skin Research and Technology, 19, 450-453 (2013).

3. M. Hosoda, Y. Fukui, C. Pornnumpa, A. Sorimachi, T. Ishikawa, M. Yachi, A. Nara, H. Yokota, S. Tokonami. Absorbed Dose Rate in Air at the Bunkyo-cho Campus of Hirosaki University. Radiation Emergency Medicine. 3(1): 59-62 (2014).
4. M. Hosoda, S. Tokonami, S. Akiba, O. Kurihara, A. Sorimachi, T. Ishikawa, T. Momose, T. Nakano, Y. Mariya, I. Kashiwakura. Estimation of internal exposure of the thyroid to ^{131}I on the basis of ^{134}Cs accumulated in the body among evacuees of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident. Environment International. 61: 73-76 (2013).
5. M. Hosoda, S. Tokonami, H. Tazoe, A. Sorimachi, S. Monzen, M. Osanai, N. Akata, H. Kakiuchi, Y. Omori, T. Ishikawa, S. K. Sahoo, T. Kovács, M. Yamada, A. Nakata, M. Yoshida, H. Yoshino, Y. Mariya, I. Kashiwakura. Activity concentrations of environmental samples collected in Fukushima Prefecture immediately after the Fukushima nuclear accident. Scientific Reports. 3:2283 (2013).
6. S. Monzen, H. Yoshino, K. Kasai-Eguchi, I. Kashiwakura. Characteristics of myeloid differentiation and maturation pathway derived from human hematopoietic stem cells exposed to different linear energy transfer radiation types. PLoS ONE, 8(3): e59385 (2013).
7. S. Monzen, K. Takimura, I. Kashiwakura, Y. Hosokawa. Acute promyelocytic leukemia mutated to radioresistance suppressed monocyte lineage differentiation by phorbol 12-myristate 13-acetate. Leuk. Res., 37(9):1162-1169 (2013).
8. M. Osanai, Y. Saito, K. Oyu, J. Ishida, M. Sato, T. Sasaki. Image Quality and Radiation Dose with Low Tube Voltage in Coronary CT Angiography: An Experimental Study with Normal Type and Soft Plaque Phantom. Hirosaki Med. J. 64: 15-28 (2013).
9. S. Terashima, Y. Hosokawa, H. Yoshino, M. Yamaguchi, T. Nakamura. Effect of ascorbic acid and X-irradiation on HL-60 human leukemia cells: the kinetics of reactive oxygen species. Oncology Reports, 30(6): 2653-2658 (2013).
10. H. Yoshino, H. Obara, T. Maeda, A. Yamada, K. Watanabe, M. Hosoda, A. Sorimachi, T. Ishikawa, S. Tokonami. An Investigation of Gamma-ray Dose Rate in the Central Area of Hirosaki City, Japan. Radiation Emergency Medicine. 2(2): 72-76 (2013).
11. Yoshino H, Kiminarita T, Matsushita Y, Kashiwakura I. Mitochondrial superoxide production and redox status in human monocytic cells after ionizing irradiation. Radiation Emergency Medicine, 2(2): 43-48 (2013).

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. S. Ebina, M. Yamaguchi and I. Kashiwakura. Optimum time to cell separation from collection of human placental/umbilical cord blood on the yield of mononuclear cells and $CD34^+$ cells. J. Health Sci. Res., 3: 71-77 (2013).
2. T. Wakasaya, H. Yoshino, Y. Fukushi, A. Yoshizawa, I. Kashiwakura. A liquid crystal-related compou*nd induces cell* cycle arrest at the G2/M phase and apoptosis in a human non-small cell lung cancer A549 cell line. Int. J. Oncol., 42(4), 1205-1211 (2013).
3. M. Yamaguchi, I. Kashiwakura. Role of reactive oxygen species in the radiation response of human hematopoietic stem/progenitor cells. PLoS One, 8(7), e70503 (2013).
4. M. Yamaguchi, S. Ebina, I. Kashiwakura. Proliferation and differentiation and maturation pathway derived from human hematopoietic stem/progenitor cells exposed to low-dose irradiation. Radiat. Emerg. Med., 2(2), 56-62 (2013).
5. T. Chiba, S. Ebina, I. Kashiwakura. Influence of maternal body mass index on gestational weight gain and birth weight: A comparison of parity. Exp. Ther. Med., 6(2), 293-298 (2013).
6. T. Kogawa, I. Kashiwakura. Relationship between obesity and serum reactive oxygen metabolites in adolescents. Environ. Health Prev. Med., 18(6), 451-457 (2013).
7. S. Ebina and I. Kashiwakura. Relationship between feeding modes and neonatal weight gain in the first month after birth. Exp. Ther. Med., 5(1): 28-32 (2013).
8. K. Kato, A. Omori and I. Kashiwakura. Radiosensitivity of human hematopoietic stem/progenitor cells. J. Radiat. Prot., 33(1): 71-80 (2013).
9. N. Ogura, Y. Noto, Y. Nishizawa, H. Yamabe, E. Kudo, Y. Sato, Y. Hosokawa, M. Aoki. Correlation between the Symptoms and the Quality of Life in Prostate Cancer Patients Underent Radiotherapy. Radiation Emergency Medicine. 2(2): 23-28(2013).
10. K. Hirose, S. Monzen, H. Yoshino, H. Sato, M. Aoki, Y. Hatayama, H. Kawaguchi, M. Sato, Y. Narita, Y. Takai, I. Kashiwakura. Effects of radiation on the maturation of megakaryocytes. J. Radiat. Res., 54(3), 447-452 (2013).

11. K. Hirose, H. Sato, S. Monzen, M. Aoki, Y. Hatayama, H. Kawaguchi, M. Sato, Y. Narita, Y. Takai, I. Kashiwakura. Megakaryocytic differentiation in human chronic myelogenous leukemia K562 cells induced by ionizing radiation in combination with phorbol 12-myristate 13-acetate. J. Radiat. Res., 54(3):438-446 (2013).
12. Yamaguchi M, Hirouchi T, Nakano M, Monzen S, Yoshino H, Chiba M, Ishikawa J, Nishiyama A, Murakami S, Ito K, Kashiwakura I. Longlasting radioprotective effects of a combination of pharmaceutical drugs on the survival of mice exposed to lethal ionizing radiation. Radiation Emergency Medicine, 3(1): 50-55 (2014).
13. Fukushi Y, Yoshino H, Ishikawa J, Sagisaka M, Yoshizawa A, Kashiwakura I. Synthesis and anticancer properties of phenyl benzoate derivatives possessing a terminal hydroxyl group. Journal of Materials Chemistry B, 2: 1335 (2014).

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. T. Ishikawa, A. Sorimachi, H. Arae, S. K. Sahoo, M. Janik, M. Hosoda, S. Tokonami. Simultaneous sampling of indoor and outdoor airborne radioactivity after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Environmental Science & Technology. 48(4): 2430-2435 (2014).
2. K. Inoue, M. Hosoda, S. Tokonami, T. Ishikawa, M. Fukushi. Investigation of radon and thoron concentrations in a landmark skyscraper in Tokyo. Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry. 298(3): 2009-2015 (2013).
3. S. K. Sahoo, M. Hosoda, G. Prasad, H. Takahashi, A. Sorimachi, T. Ishikawa, S. Tokonami, S. Uchida. Naturally occurring radionuclides and rare earth elements in weathered Japanese soil samples. Acta Geophysica. 61(4): 876-885 (2013).

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 門前暁、松谷秀哉、柏倉幾郎. 医学部保健学科における医療情報リテラシーの理解度調査―4 年間の継続調査から見た考察―. 日本放射線技術学会雑誌, 69(1): 33-40 (2013)
2. 寺島真悟, 細川洋一郎, 藤元晋, 青木昌彦, 高井良尋. On-Bord Imager を用いたセットアップエラーならびに上肢固定具の固定精度の検証.弘前医学. 64(2-4): 170-175 (2014).

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 黒島碩人，緒方裕子，大河内博，床次眞司，反町篤行，細田正洋．福島県浪江町の里山に大気沈着した放射性セシウムの森林内分布と挙動．大気環境学会誌．49(2)：93-100（2014）．
2. 吉田浩子，細田正洋，齋藤順子，小林育夫，平澤典保．福島第一原発事故後の住家の空間線量率低減を目的とした遮蔽材の効果．RADIOISOTOPES．62(4)：203-210（2013）．
3. 下瀬川正幸，細田正洋．広域定点における福島第一原子力発電所事故由来の空間線量率の継時変化．群馬県立県民健康科学大学紀要．8：1-8（2013）．

2）総説

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

Ｃ．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. K. Nakagawa and D. Sawamura, ”Psoriasis vulgaris investigated by electron paramagnetic resonance,” Psoriasis: Types, Triggers and Treatment Strategies, Chapter 5, Phillip B. Smith and Nathan C. Johnson Eds, Nova Science Publishers, Inc., New York, Chapter 5, 143-164 (2013). ISBN 978-1-62618-584-5

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. S. Ebina, A. Omori, Y. Mariya and I. Kashiwakura. Relationship between radiosensitivity of human neonatal hematopoietic stem/progenitor cells and individual maternal/neonatal obstetric factors. Springer, Stem Cells and Cancer Stem Cells, Volume 9, 2013, pp 163-173.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 日本歯科放射線学会編　細川洋一郎 他．第 1 版 4 刷 歯科臨床における画像診断アトラス．医歯薬出版株式会社（2013）.
2. 考える CT 撮像技術　編集：齋藤陽子、市川勝弘．　文光堂（東京）2014.4.8 発行.
   佐藤和宏、後藤光範、藤田尚利、寺澤和晶、松原孝祐、小暮陽介、小川正人、興梠征典、渡邉啓太、掛田伸吾、菊池正次、森　剛、南　敏広、岡本孝英、豊田圭子、古井滋、原口貴史、松迫正樹、能條茂樹、藤岡知加子、石風呂実、粟井和夫、飯田　慎、永洞秀文、西村裕子、壷井匡浩、石橋忠司、能登善幸、堀　祐郎、吉村宣彦、小山内暢、神　寿宏、齋藤陽子、松本純一、吉川達生.
   執筆章（齋藤分）:
   第 2 部　臨床編　7.脊椎・脊髄の CT 撮像.　②疾患・病期から考える CT 撮像.
   齋藤陽子、小山内暢．232-250.
   8.四肢・関節の CT 撮像.　②疾患・病期から考える CT 撮像.
   齋藤陽子、小山内暢．258-277.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 細田正洋，南一幸・他．改定第２版　若葉マークの画像解剖学　「検査と被ばく」．メジカルビュー社（2014）．
2. 床次眞司，細田正洋．産業安全保健ハンドブック　「4.2.7 電離性放射線」．公益財団法人労働科学研究所（2013）．
3. 井瀧千恵子，漆坂真弓，扇野綾子，小山内暢，北島麻衣子，北嶋結，工藤幸清，齋藤陽子，高間木静香，寺島真悟，冨澤登志子，中野学，中村敏也，野戸結花，則包和也，細川洋一郎，細田正洋，真里谷靖，門前暁，横田ひろみ，吉野浩教．被ばく患者対応トレーニングマニュアル．弘前大学出版会（2014）．

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

4）その他

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. M. Chiba, T. Miura, K. Kasai, S. Monzen, N. Nanashima, T. Ishikawa, T. Takeo, I. Kashiwakura, T. Nakamura. Gene expression analyses of messenger RNA and non-coding RNA in the human lymphoblastic cells by X-ray irradiation. The 5th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, October 19, 2013, Aomori, Japan.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 中川公一，関東支部 第 2 回油化学セミナー弘前，*オレオサイエンス*，13(10)，502-503（2013）．
2. 齋藤陽子．「放射線専門看護師」の役割等に関する放射線科医と診療放射線技師の意識調査．日本放射線看護学会誌．2：35-43（2014）．
3. 細田正洋，柏倉幾郎，反町篤行，中村敏也，真里谷靖，門前暁，吉野浩教，廣内篤久．チェルノブイリ原子力発電所及びベラルーシ共和国ゴメリ州への訪問記．

保健物理. 48(1): 7-14 (2013).

4. 對馬惠, 真里谷靖, 高井良尋, 高橋大樹. 放射線治療前後の脳血流機能画像および認知機能を評価できた転移性脳腫瘍の 2 例. *臨床放射線*. 58(10): 1363-1368 (2013).

B. 当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C. 当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ. 学会、研究会等の発表

1) 国際学術集会

A. 特別（招待）講演

なし

B. シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. Y. Saito. Education Program of Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University. KIRAMS-Hirosaki Univ. Joint Education & Drill & The 6th National Drill for Radiation Terrorism in Jeju Island. 2013.11.12-15. KIRAMS and Jeju Wonder Resort, Korea.

C. 一般演題（ポスター発表を含む）

1. K. Nakagawa, S. Minakawa, D. Sawamura, "9 GHz EPR Investigation of skin structure of psoriasis vulga*ris*," 2013 Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia, Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia, Program Book p142, 10/16-19, Tao-Yuan, Taiwan, 2013 (10/17) Poster
2. Y. Sato, T. Takahashi, K. Kobukai, and K. Nakagawa, "Low dose dependence of sucrose radical generation," The 5th International Symposium on Radiation Emergency, p. 16, 10/19/2013, Aomori, Japan. Poster
3. K. Nakagawa, K. Kobukai, Y. Sato, T. Takhashi, "ESR Investigation of Sucrose Radicals Produced by Low Dose X-ray Irradiation," International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, p 273, 9/28～30, Sendai, Japan. 2013. (9/28) Poster
4. K. Nakagawa, K. Kobukai, Y. Sato, T. Takahashi, "Sucrose Radicals Induced

by Low Dose Irradiation with X-ray," 55th Annual rocky mountain conference on magnetic resonance, Denver, Colorado, USA. 55th Annual rocky mountain conference on magnetic resonance, FINAL program and abstracts p49, 7/28-8/1, 2013. (7/31) Poster

5. K. Nakagawa, S. Minakawa, D. Sawamura, "Skin Structure of Psoriasis Vulgaris Investigated by EPR Spin-Probe Method," 55th Annual rocky mountain conference on magnetic resonance, Denver, Colorado, USA. 55th Annual rocky mountain conference on magnetic resonance, FINAL program and abstracts p33, 7/28-8/1, 2013. (8/1) Oral.
6. K. Nakagawa, S. Minakawa, and D. Sawamura, "9 GHz EPR Investigation of Skin Surface," 3AM-4, p. 30, The 1st Awaji International Workshop on Electron Spin Science and Technology: Biological and Material Science oriented Application (1st AWEST 2013) 6/18-19, 2013. Awaji Island, Kobe, Japan. Oral
7. Y. Fukushi, C. Itaki, M. Kitajima, Y. Noto and Y. Mariya. A Study on Changes in Erythema and Skin Surface Temperature during and after Radiotherapy for Breast Cancer. East Asian Forum of Nursing Scholars 17th International Conference. 2014.2.20-21 Manila, Philippines, ORAL CSIV-D-01
8. Y. Mariya, I. Kashiwakura, S. Monzen. The Influence of Fractionated X-irradiation on The Nuclear Damages of Human Hematopoietic Stem/progenitor Cells. Global Conference on Radiation Topics. 20th Nuclear Medical Defence Conference, May 13-16, 2013, Muenchen, Germany, POS27-1.
9. S. Mishra, A. Sorimachi, M. Hosoda, S. Tokonami, T. Ishikawa, S.K. Sahoo. Effect of Soil Parameters on Sorption Properties of Actinides and Fission Products: Depth Profile Distribution of Fallout Radionuclides in Soils Affected by Fukushima Nuclear Power Plant Accident. Migration 2013, September 8 - 13, 2013, The Brighton Centre, UK, FS-3
10. H. Yoshida, M. Hosoda, J. Saito, N. Hirasawa, I. Kobayashi. Indoor and Outdoor Gamma-ray Spectra Measurements for Wooden Houses after the Fukushima Nuclear Accident. 17th Solid State Dosimetry Conference, September 22-27, 2013, Recife, Brazil, S30
11. M. Hosoda, A. Sorimachi, T. Ishikawa, S. K. Sahoo, Y. Omori, Y. Shiroma, M. Furukawa, S. Tokonami, Radon and thoron atoms generated in soil as the radioactive aerosol particles source. 8th Asian Aerosol Conference, December 2-5, 2013, Sydney, Australia, P-21

12. S. Mishra, H. Arae, A. Sorimachi, M. Hosoda, S. Tokonami, T. Ishikawa, S.K.Sahoo. Distribution and Retention of Cs Radioisotopes in Soil Affected by Fukushima Nuclear Plant Accident. DAE-BRNS Fifth Symposium on Nuclear Analytical Chemistry, January 20-24, 2014, Mumbai, India, H-51
13. Yoshino H, Kashiwakura I: Beneficial effects of ionizing radiation to enhance anti-cancer effects of RIG-like receptor stimulus. 55th ASH annual meeting and exposition, New Orleans, 2013.

2) 全国学術集会

A．特別（招待）講演

1. 細川洋一郎．高齢者放射線治療の基礎と臨床：高齢者における酸化ストレスと放射線治療．日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会市民講演会．2011 年 10 月 20 日．青森市．
2. 真里谷　靖．高齢者がん治療における放射線治療の有用性と地域医療からみた新たな展開．　日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会市民講演会．2011 年 10 月 20 日．青森市．

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. 齋藤陽子．役に立つ血管の画像診断．ランチョンセミナー講師．第 19 回日本血管内治療学会総会．2013.7.19-20．ホテル青森．

C．一般演題（ポスター発表を含む）　32 件

Ⅲ．学術賞

1. 柏倉幾郎、真里谷靖
   平成 25 年度武見記念賞
   被ばく医療総合研究所（研究所所長　柏倉幾郎）
2. 門前暁
   平成 25 年度　弘前大学学術特別賞
   若手優秀論文賞
   受賞論文「Characteristics of myeloid differentiation and maturation pathway derived from human hematopoietic stem cells exposed to different linear energy transfer radiation types」

Ⅳ．共同研究

1.　柏倉幾郎

富山大学、北海道大学．研究課題名「放射線の非がん影響の解明」

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1.　柏倉幾郎

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：国内承認医薬品に新たな急性放射線障害治療プロトコールを見出す！

配分額：1,600 千円

2.　柏倉幾郎

研究種目：基盤研究（B）

研究課題名：トロンポポエチン受容体作動薬による放射線曝露個体の救命効果と作用機序解明

配分額：2,300 千円

3.　中川公一

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：皮膚疾患に見られる角層の機能異常の検出とその識別化

配分額：950（千円）

4.　中川公一

研究種目：基盤研究(B)

研究課題名：皮膚疾患に見られる角層の機能異常の検出とその識別化

配分額：5,000（千円）

5.　細川洋一郎

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：癌転移防止を目指した 4－メチルウンベリフェロン併用放射線治療の研究

配分額：1,400（千円）

6.　真里谷靖

研究種目：基盤研究（C）一般

研究課題名：脳転移放射線治療患者における脳有害事象および脳機能変化の新たな評価法

配分額：5,070（千円）（平成 25－27 年度総額）

7.　樽澤孝悦

研究種目：平成 24 年度科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)

研究課題名：被ばく歴を考慮した実効線量制限値設定システムの開発に関する研究

配分額：1,400（千円）

8.　門前暁

研究種目：若手研究（B）　平成 25 年度～27 年度

研究課題名：がんラジオアイソトープ内用療法開始患者の治療予備能力を予測する因子の解明

配分額：1,300（千円）

9.　吉野浩教

研究種目：科学研究費補助金　若手研究（B）

研究課題名：パターン認識受容体に着目したがん放射線治療の有効性向上

配分額：1,820（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.　柏倉　幾郎

研究種目：基盤研究（C）

研究課題名：臍帯血中のストレス関連分子と胎児の発育との関連性

研究代表者名：蝦名智子

配分額：1,000 千円

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1.　柏倉幾郎

助成名：文部科学省科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成

研究課題名：「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」

代表者氏名：弘前大学学長　佐藤敬

配分額：2,000（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.　柏倉幾郎

助成名：平成 25 年度原子力災害影響調査等事業

研究課題名：放射線の非がん影響の解明

研究代表者名：富山大学教授　近藤隆

配分額：4,285（千円）

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 柏倉幾郎

助成名：弘前大学機関研究

研究課題名：「東日本大震災対応放射線科学研究プログラム」

配分額：5,950 千円

2. 工藤幸清

助成名：平成 25 年度　保健学研究科　科研費採択奨励事業　採択課題

研究課題名：胸部 X 線撮影による肺がん早期発見の新しい撮影法の開発

配分額：30（千円）

3. 細田正洋

助成名：平成 25 年度弘前大学若手研究者支援事業

研究課題名：屋内環境における放射性核種からの被ばく線量評価手法の検討

配分額：500（千円）

4. 門前暁

助成名：平成 25 度弘前大学若手研究者支援事業

研究課題名：末梢血ストレスマーカーに基づく転移性骨腫瘍患者における疼痛緩和放射線療法の最適化

配分額：500（千円）

5. 寺島　真悟

助成名：平成 25 年度　保健学研究科　被ばく医療人材育成研究支援事業

研究課題名：モンテカルロ法による高原子番号物質に対する高エネルギーX 線スペクトルの検証

配分額：260（千円）

6. 吉野浩教

助成名：平成 25 年度弘前大学若手研究者支援事業

研究課題名：がん細胞におけるアポトーシスとネクローシスの選択決定機構の解明とがん治療への応用

配分額：500（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 門前 暁

助成名：平成 25 度弘前大学若手機関研究

研究課題名：疾患エキソソームエンサイクロペディアー新規疾患マーカー探索戦略と総合的機能解析ー

研究代表者名：千葉満

配分額：500（千円）

2. 吉野浩教

助成名：若手学長指定重点研究

研究課題名：退行性病変の集学的解析による共通分子基盤の解明

研究代表者名：松宮朋穂

配分額：150（千円）

4）民間の研究助成

研究代表者として

1. 門前　暁

助成名：公益財団法人武田科学振興財団「2013 年度医学系研究奨励」

研究課題名：非小細胞肺癌治療におけるメタストロン投与のための予備能力評価ツールの開発

配分額：2,000（千円）（平成 25～26 年度）

2. 門前　暁

助成名：研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム A-STEP　フィージビリティスタディステージ　探索タイプ

研究課題名：放射線作業従事者を対象とした放射線感受性を検査する実用化技術開発

配分額：1,700（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 真里谷 靖

助成名： 平成 25 年度弘前大学と弘前市との連携調査研究委託モデル事業

研究課題名：津軽地域における高齢がん患者を対象とした地域医療連携システムの構築

研究代表者名：北嶋　結

配分額：840（千円）

2. 真里谷靖

助成名： 平成 25 年度安田記念医学財団癌看護研究助成

研究課題名：津軽地域における高齢がん患者を対象とした地域医療連携システムの構築

研究代表者名：北嶋　結

配分額：1,000（千円）

VI. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

1. 真里谷　靖. 部局間協定締結校であるストックホルム大学・CRPR の A. Wojcik センター長との共同研究計画打ち合わせ（医療被ばくにおけるバイオドシメトリー）および同氏による学部学生講義

d）外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況

1. 柏倉幾郎，延辺大学・長白山生物資源及び機能分子、教育部重点研究所訪問（2013 年 6 月 11 日～14 日，中華人民共和国）
2. 柏倉幾郎，門前　暁，パンノニア大学・工学部放射化学・放射生態学研究所及びチェコ：ラドン保養施設調査訪問（2013 年 10 月 31～7 日，Hungary）
3. 柏倉幾郎，真里谷　靖，コンケン大学・弘前大学事務所、チュラーロンコーン大学 工学部原子力工学科及びベトナム原子力研究所 原子力科学技術研究所訪問 （2013 年 11 月 18～23 日，Thailand，Vietnam）
4. 真里谷　靖,ドイツ・Klinikum rechts der Isar,Technische Universität München 視察
5. 齋藤陽子，井瀧千恵子，冨澤志子，會津桂子，高間木静香. University of Hawaii Translational Health Sciences Simulation Center 視察. Hawaii，USA（2014 年 3 月 3 日）
6. 細田正洋，インド・ケララ州の高自然放射線地域における環境放射線・放射能調査（2013 年 9 月 20 日～30 日）
7. 細田正洋，ハンガリー・パンノニア大学工学部放射化学および放射生態学研究所における共同実験（2013 年 10 月 3～7 日）
8. 細田正洋，中国輻射線防護研究所訪問（2014 年 2 月 10 日～12 日）
9. 細田正洋，アイルランド国立大学ダブリン校理学部物理学科およびアイルランド放射線防護研究所訪問（2014 年 3 月 1 日～6 日）
10. 細田正洋，タイ・チュラロンコン大学とのアユタヤ地区における環境放射線調査（2014 年 3 月 21 日～25 日）

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

なし

2）国内、地域活動

a）全国レベルの学会の主催

1.　柏倉幾郎（大会長）、細川洋一郎、真里谷靖、細田正洋、門前暁、吉野浩教
日本放射線影響学会第56回大会

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

【生体応答科学研究センター長として：柏倉幾郎】

1. 第25回 生体応答科学研究セミナーの開催

開催日：2013年5月2日

演題：「放射線がエキソソームの取り込み過程に与える影響～エキソソームを利用した放射線傷害治療に向けて～」

講師：（独）放射線医学総合研究所緊急被ばく研究センター　羽澤勝治 先生

2. 第26回 生体応答科学研究セミナーの開催

開催日：2013年5月14日（火）

演題：「物理・化学的ストレスによる細胞死―アポートシスの増強を目指して」

講師：富山大学大学院医学薬学研究部　教授　近藤隆 先生

3. 第27回 生体応答科学研究セミナーの開催

開催日：2013年7月25日

演題：「外部放射線治療のための水吸収線量標準計測法」

講師：首都大学東京大学院人間健康科学研究科　教授　齋藤秀敏 先生

4. 第 28 回 生体応答科学研究セミナーの開催
開催日：2013 年 7 月 11 日（木）
演題：「第 4 のリンパ球，ＮＫＴ細胞の生体防御と免疫システム制御における役割」
講師：インタープロテイン株式会社　研究開発部長　肥塚靖彦 先生
5. 第 29 回 生体応答科学研究セミナーの開催
開催日：2013 年 9 月 26 日（木）
演題：「食餌誘導性肥満におけるＮＫＴ細胞の役割」
講師：北里大学医学部　助教　佐藤雅 先生
6. 第 30 回 生体応答科学研究セミナーの開催
日時：2013 年 11 月 28 日（木）
演題：「ヘパラン硫酸とヘパリン―その構造と生物学的機能」
講師：弘前大学大学院 医学研究科 附属高度先進医学研究センター　特任助教　小林孝 先生
7. 第 31 回 生体応答科学研究セミナーの開催
開催日：2014 年 2 月 3 日
演題：「一般公衆との対話をスムースに行うには
～福島原発事故に関わる自然放射線と測定器および様々な質問に接して～」
講師：藤田保健衛生大学客員教授　　下道國　先生
8. 第 32 回 生体応答科学研究セミナーの開催
開催日：2014 年 3 月 10 日
演題：「Fucci を用いた放射線照射後の腫瘍細胞周期動態解析」
講師：東京医科歯科大学　口腔放射線腫瘍学分野　教授　三浦雅彦　先生

【被ばく医療総合研究所所長として：柏倉幾郎】
1. 被ばく医療研究所　特別講演会の開催
開催日：2013 年 5 月 24 日
演題：「放射線研究と社会」
講師：鹿児島大学大学院　医歯学総合研究科　疫学・予防医学分野　教授　秋葉澄伯 先生

2. 被ばく医療研究所　特別講演会の開催
開催日：2013 年 6 月 20 日
演題：「がんの分子イメージング」
講師：独立行政法人放射線医学総合研究所 理事長　米倉義晴　先生

４．社会貢献活動

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	1.日本放射線影響学会 2.日本医学放射線学会生物部会	評議委員 幹事
中川公一	The 1st Awaji International Workshop on Electron Spin Science and Technology: Biological and Material Science oriented Application (1st AWEST 2013) 日本分析化学会　東北支部	実行委員 幹事
細川洋一郎	日本放射線影響学会第 56 回大会プログラム委員長	委員長
真里谷　靖	日本放射線腫瘍学会 日本臨床検査医学会 日本放射線看護学会 日本放射線腫瘍学会教育委員会 同がん放射線治療推進委員会 日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会プログラム委員長 日本放射線腫瘍学会第 23 回医学生研修医セミナー・チューター 日本放射線影響学会第 56 回大会プログラム委員	代議員 評議員 評議員 委員 委員 委員長 講師 委員
齋藤陽子	日本磁気共鳴医学会 日本心臓血管放射線研究会 日本放射線看護学会	代議員 幹事 評議員
細田正洋	第 9 回自然放射線環境に関する国際シンポジウム実行委員会	委員
門前　暁	日本放射線影響学会第 56 回大会準備委員会 （web サーバー、ホームページ運営担当）	委員
吉野浩教	若手放射線生物学研究会	副運営委員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	日本放射線影響学会第 56 回大会	大会長
中川公一	日本油化学会 関東支部 第 2 回油化学セミナー	実行委員

細川洋一郎	日本放射線影響学会第 56 回大会プログラム委員会	委員
真里谷靖	津軽地区高齢者の地域医療を考える会第 1～4 回情報交換会	会長
工藤幸清	第 51 回 東北循環器撮影研究会 開催(平成 25 年 6 月 29 日)	講師
細田正洋	日本放射線影響学会第 56 回大会実行委員会	委員
寺島真悟	日本放射線影響学会第 56 回大会実行委員会	委員
吉野浩教	日本放射線影響学会第 56 回大会プログラム委員会	委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	1.Radiation Emergency Medicine 2.放射線生物研究会 3.PLoS ONE 4.Radiation Research 5.Radiation Oncology 6.Journal of Radiation Research	編集 委員長 編集委員 査読 査読 査読 査読
中川公一	Experimental Dermatology Dental Materials Journal Spectroscopy, An International Journal Analytical Chemistry Insights WebmedCentral	論文審査 論文審査 Editorial Board Specialty Advisory Board
細川洋一郎	Radiation Emergency Medicine 誌 Radiation Emergency Medicine 誌（2 編）	編集委員 査読
真里谷靖	Radiation Emergency Medicine 誌	編集委員 査読

細田正洋	日本原子力学会 Radiation Emergency Medicine 誌 Journal of Radiation Research 誌（1 編） Radiation Protection Dosimetry 誌（3 編） Journal of Environmental Radioactivity 誌（1 編） Journal of Nuclear Science and Technology 誌（2 編） Progress in Nuclear Energy 誌（1 編）	査読委員 編集委員 査読 査読 査読 査読 査読
門前　暁	国際学術誌：査読 4 回	査読
吉野浩教	放射線生物研究誌（1 篇） Journal of Radiation Research 誌（1 編） Cancer Medicine 誌（1 編）	査読 査読 査読

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
細川洋一郎	日本放射線影響学会第 56 回大会プログラム委員会	委員長
真里谷　靖	日本放射線腫瘍学会第 26 回学術集会プログラム委員会	委員長
吉野浩教	日本放射線影響学会第 56 回大会	プログラム委員

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	平成 25 年度国民保護研修会 in 青森 パネルディスカッション「災害そしてテロに備える」 ～地域で取り組む危機管理～ 日時：平成 25 年 10 月 21 日 場所：弘前文化センター	パネリスト
細川洋一郎	日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会市民講演会 弘前市歯科医師会教育講演会	講師 講師
真里谷靖	日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会市民講演会 りんご王国紅玉カレッジ「緩和医療としての放射線治療の重要性について」 弘前大学総合文化祭知の創造事業保健学研究科市民公開講座「がんの放射線治療」（平成 25 年 10 月 25 日）	講師 講師 講師

工藤幸清	弘前大学総合文化祭知の創造事業保健学研究科市民公開講座主催(平成 25 年 10 月 25 日)	主催者

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
細田正洋	独）放射線医学総合研究所放射線防護研究センター 規制科学研究プログラム自然放射線防護研究チーム 青森県原子力センター環境放射線調査研究検討会 青森県原子力施設環境放射線調査結果検討会	客員研究員 委員 委員

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職
真里谷　靖	マルマンコンピュータサービスとの「多職種連携地域医療・ケア支援システムの共同開発」 （現在共同開発計画継続中）	教授

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
柏倉幾郎	1.富山大学発　放射線に関する情報発信シンポジウム テーマ：「震災から３年を迎えて　環境と放射線―福島は今―」 日時：平成 25 年 12 月 12 日 場所：富山大学五福キャンパス 演題：大学初の被ばく医療への対応―震災前と後― 2.文部科学省復興対策特別人材育成事業 テーマ：「被ばくの瞬間から生涯」を見渡す放射線生物・医学の学際教育 日時：平成 26 年 1 月 25 日 場所：大分県立看護科学大学 演題：幹細胞の生物学 3.第 11 回地域再生プログラム実施機関連絡会議 in 仙台 日時：平成 26 年 1 月 11 日 場所：東北大学 演題：「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」成果発表	講師
真里谷　靖	1.　放射線治療専門放射線技師認定機構統一講習会放射線治療セミナー基礎コース（東北Ｉ地区）「臨床放射線生物学」 2.　日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会市民講演会「高齢者がん治療における放射線治療の有用性と地域医療からみた新たな展開」 3.　弘前大学総合文化祭「知の創造」事業市民公開講座「地域医療としてみた高齢者がん放射線治療」	講師 講師 講師
細田正洋	弘前大学ドリーム講座「君たちの身近にある放射線～空と大地と放射線～」＠青森県立五所川原高等学校	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
齋藤陽子	画像診断業務 ・財団法人　医療と育成のための清明会研究所 　鳴海病院 ・財団法人　医療と育成のための清明会研究所 　青森 PET 画像診断センター	 非常勤医師 非常勤医師
真里谷　靖	青森市民病院・放射線科（放射線治療） むつ総合病院・放射線科（放射線治療） 弘前中央病院・放射線科（放射線治療） 青森県総合健診センター	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 肺がん検診 読影委員
久保田　護	社団法人慈育会福士病院 八戸准看護学院	画像検査技術 教員 非常勤講師
對馬　惠	青森県立黒石高等学校看護科	非常勤講師

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職
細川洋一郎	平成 25 年度教員免許状更新講習会	講師
真里谷　靖	放射線治療専門放射線技師認定機構統一講習会放射線治療セミナー基礎コース（東北Ⅰ地区）「臨床放射線生物学」	講師

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
真里谷　靖	1.　ストックホルム大学（SU）CRPR：部局間協定締結校である SU・CRPR の A. Wojcik センター長との共同研究計画（医療被ばくにおけるバイオドシメトリー） 2.　タイ・コンケン大学：コンケン大学との学術交流および弘前大学コンケン事務所訪問 3.　タイ・チュラロンコン大学訪問および学術交流	教授

細田正洋	タイ王国・チュラロンコン大学工学部原子力工学科において「環境放射線の走行サーベイ技術」に関する講演と調査を行った。	講師

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
中川公一	日本油化学会 関東支部 第2回油化学セミナー	実行委員
真里谷　靖	浪江町復興支援プロジェクトWG事業 尿中ストレスマーカー測定および結果報告 1.　NHK取材およびアップルワイドにての報道 2.　東奥日報記事：平成26年3月9日付記事 緊急被ばく医療　現職者講習	教授 実行委員・演習指導
齋藤陽子	緊急被ばく医療　現職者講習 青森県総合防災訓練・国民保護訓練 福島県立医科大学災害医療学習センター「よろず相談事業」	実行委員長・演習指導 訓練計画策定および参加（ｻｰﾍﾞｲ） 相談員
工藤 幸清	進学相談会，青森東高校(平成25年7月4日) 出張講義：「大学を体験しよう」（模擬講義を通じて） 福岡高校，（平成25年10月22日）	講師 講師
中原岳久	進路説明会（8/5八戸北高校）	講師
細田正洋	緊急被ばく医療現職者研修	講師
對馬　惠	東北の著名大学進学説明会 青森県国民保護共同実動訓練	助教
吉野浩教	緊急被ばく医療現職者研修	演習担当

平成25年8月21日（水）陸奥新報（17面）

抗酸化食品機能を紹介

21日、弘大で無料セミナー

第2回油化学セミナー「サビにくい体にする抗酸化食品の健康調節機能」が23日午後1時から、コラボ弘大8階八甲田ホールで開かれる。食品と健康を考えるセミナーで、一般の参加も募集している。参加は無料。

主催は日本油化学会関東支部。弘前大学で育種した赤いリンゴ「紅の夢」についての「次世代のトレンド『赤い果肉のリンゴ』の可能性と研究・育種の現状」のほか、「魚油ばかりじゃないDHAとEPA―水産リン脂質の有用性―」「食品に含まれる抗酸化成分とその作用性―抗酸化作用とは？」など、健康な生活を送るヒントとなる食について講演が行われる。

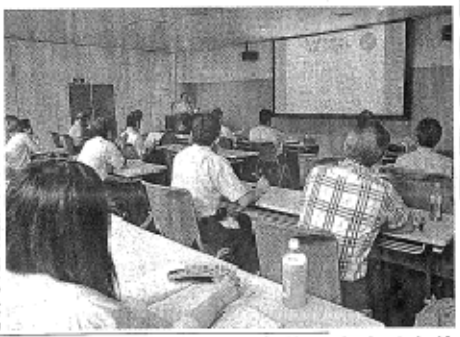
参加申し込みは弘前大学大学院保健学研究科（☎ファクス017-85-9921、中川さん）へ。当日の参加も可。

（今井珠江）

平成25年8月25日（日）陸奥新報（17面）

抗酸化食品の効果学ぶ

弘大で油化学セミナー



日本油化学会関東支部主催の「第2回油化学セミナー・サビにくい体にする抗酸化食品の健康調節機能」が23日、弘大創立60周年記念会館コラボ弘大で開かれ、約50人の出席者が講演を通し、食品に含まれる抗酸化物質の効果について学んだ。

抗酸化物質を含む食品と健康との関わりについて理解を深めたセミナー

今回のセミナーは、抗酸化機能を持つ食品とアンチエイジングとの関係などをテーマに4人の講師が講演。

北海道大学大学院水産科学研究院の高橋是太郎氏が「魚油ばかりじゃないDHAとEPA―水産リン脂質の有用性」の演題で講演。

水産リン脂質の供給源としてオキアミやホタテ貝の中腸腺、ヒトデを例に挙げ、魚油にはない健康機能性や脱がんに貢献する細胞分化誘導促進の作用、末期がん患者の衰弱をもたらす悪液質の抑制などの有用性について説明し、水産リン脂質の可能性を示した。

弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場の松本和吉助教は「次世代のトレンド『赤い果肉のリンゴ』の可能性と研究・育種の現状」と題し講演。リンゴ産業を取り巻く現状を踏まえ、同農場で生まれた新品種「紅の夢」の優れた機能性成分を紹介した。

（山本恵子）

H25年度 第2回油化学セミナー　**参加費 無料**

サビにくい体にする抗酸化食品の健康調節機能

抗酸化機能をもつ食品とアンチエイジングとの関係、健康な生活を送るためのヒントとなる食についてわかりやすく解説します！

日　時：2013年8月23日（金）13:00～17:00、受付開始は12:30から

会　場：弘前大学 文京町キャンパス・コラボ弘大8階 八甲田ホール
（青森県弘前市文京町3）
［交通］JR弘前駅から歩20分・弘南バス15分、弘南鉄道弘高下駅から歩5分

主　催：（公社）日本油化学会関東支部
共　催：（財）油脂工業会館
協　賛：電子スピンサイエンス学会、日本酸化ストレス学会、日本分析化学会東北支部、日本化学会、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会

プログラム

1.「**魚油ばかりじゃないDHAとEPA－水産リン脂質の有用性－**」
高橋是太郎（北海道大学大学院水産科学研究院）

2.「**食品に含まれる抗酸化成分とその作用性－抗酸化作用とは？－**」
庭野吉己（東北大学大学院歯学研究科）

3.「**上杉鷹山公が奨励した植物「ウコギ」の健康食品としての魅力**」
尾形健明（山形大学名誉教授）

4.「**次世代のトレンド「赤い果肉のリンゴ」の可能性と研究・育種の現状**」
松本和浩（弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター）

申込方法：氏名と連絡先を明記の上、8月19日（月）までにE-mail または Faxでお申し込みください。

申込先：〒036-8564　青森県弘前市本町66－1
弘前大学大学院保健学研究科　中川 公一
E-mail: nakagawa@cc.hirosaki-u.ac.jp
Tel & Fax: 0172-39-5921

生体機能科学分野

Department of Biomedical Sciences

１．教員

生体機能科学分野(人)

教　授	准教授	講　師	助　教	助　手
4	1	4	1	0

２．教育活動

1) 21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
13 年度	中村敏也	教授	化学の基礎 I(B) 基礎ゼミナール	14 30
	伊藤巧一	教授	放射線防護の基礎 生物学の基礎 I (A) ① 生物の科学・技術(A) ①－生物の環境適応と進化－	2 10 10
	丹藤雄介	教授	生活習慣と健康 (M)	6
	武尾照子	准教授	生物学の基礎 I(A)	10
	石川　孝	講師	化学の基礎 II(D)① 化学の基礎 II(D)②	30 30
	野坂大喜	講師	情報 I ⑰ 情報 I ⑱	32 32
	七島直樹	講師	生物の基礎 II(A)	10
	中野　学	助教	化学の基礎 IB	14

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
13 年度				

2）学部教育

(1) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	中村敏也	教授	栄養・代謝学（検査技術科学専攻）	1	32
			栄養・代謝学（放射線技術科学専攻）	2	16
			代謝機能検査化学演習	2	14
			健康食品学	3	10
			臨床検査総合演習Ⅰ	4	4
	伊藤巧一	教授	臨床免疫学	1	32
			臨床免疫学演習	2	32
			感染制御学	3	6
			臨床検査総合演習 Ⅰ	4	6
	丹藤雄介	教授	内科学（理学療法・作業療法学専攻）	2	32
			内科学Ⅰ	3	32
			内科学 II	3	32
			臨床ウイルス学	2	16
			内科学演習	4	32
			検査科学英語演習	3	8
	武尾照子	准教授	臨床生理学	2	32
			臨床生理学演習	2	32
			臨床検査総合演習 II	4	8
			健康食品学	3	2
			健康食品法規	3	2
	石川　孝	講師	分子生物検査学	2	6
	野坂大喜	講師	医用情報機器工学	2	32
			検査管理総論	2	32
			検査機器総論	2	32
			臨床栄養学	2	12
			医療リスクマネジメント	3	4
			臨床検査総合演習Ⅰ	4	2
			臨床検査総合演習Ⅱ	4	6

13 年度	七島直樹	講師	臨床化学検査学	2	30
			代謝機能検査化学演習	2	16
			臨床栄養学	2	14
			健康食品学	3	2
			健康食品関係法規	3	2
			臨床検査総合演習 I	4	6
	千葉　満	講師	尿検査学	2	30
			体液検査学	2	15
			臨床検査総合演習 II	4	2
			保健学概論	1	2
			理学療法特殊講義	3	2
			健康食品学	3	4
	中野　学	助教	健康食品管理	3	2

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	中村敏也	教授	栄養・代謝学実習	2	45
	伊藤巧一	教授	臨床免疫学実習	2	48
	武尾照子	准教授	臨床生理学実習	3	45
	石川　孝	講師	医用化学実験（検査）	1	45
			医用化学実験（放射線）	1	45
	野坂大喜	講師	医用情報機器工学実習	3	45
	七島直樹	講師	臨床化学検査学実習	2	45
	千葉　満	講師	尿検査学実習	2	45
			寄生虫学実習	2	45
	中野　学	助教	臨床免疫学実習	2	36
			臨床血液学形態学実習	2	30
			臨床化学実習	2	30
			臨床血液検査学実習	3	45
			寄生虫学実習	3	27

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担　当　者　名	職名	対象学年	年間担当時間数
13 年度	伊藤巧一	教授	3	20

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科　目　名	年間担当時間数
	丹藤雄介	教授	3	内分泌・代謝学Ⅰ（医学科） 感染症学（医学科）	6 2
	七島直樹	講師	2	生化学実習（医学科）	32

3）卒業研究指導人数、指導者名

	指　導　人　数	指　導　者　名
13 年度	2 名	中村敏也
	2 名	伊藤巧一
	1 名	武尾照子
	1 名	石川　孝
	1 名	野坂大喜
	1 名	七島直樹
	2 名	千葉　満
	1 名	中野　学

4）大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	中村敏也	教授	細胞生物化学（M） 生体機能科学特別研究（D）	1 3	30 180
	伊藤巧一	教授	分子生化学（M） 国際医療保健学（M） 細胞分子生物科学特別研究（M） 生体機能科学特別研究（D） 生体機能科学特別研究（D）	1 1 2 1 2	10 8 10 10 10
	丹藤雄介	教授	生体代謝機能科学（M） 病態医科学（M） 基礎代謝機能科学特論（M） 代謝機能科学特別研究（M） 生体機能科学特講（D） 生体機能科学特別研究（D）	1 1 1 2 1 2・3	4
	七島直樹	講師	分子生化学（M）	1	10

13 年度	千葉　満	講師	保健学研究セミナー(M)	1-2	4
	野坂大喜	講師	細胞生物化学 (M) 医療マネジメント (M) 医用検査機器特論(理工学研究科) (M)	1 1 1	30 12 30

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	中村敏也	教授	被ばく医療演習 (M)	1	45
	伊藤巧一	教授	細胞分子生物科学特別演習 (M) 生体機能科学特講演習 (D)	2 1	8 8
	野坂大喜	講師	健康科学総合研究 B(理工学研究科) (M)	1	36

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名
13 年度	中村敏也	教授	非がん細胞とがん細胞の鑑別における紫外・可視顕微分光法の有用性 (D) Effect of ascorbic acid and X-irradiation on HL-60 human leukemia cells: kinetics of reactive oxygen species (D)
	伊藤巧一	教授	「わが国で初めて土壌から分離した Astronyxid group の病原性 Acanthameba spp.」(M)

5) その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　　称　　等
13 年度	中村敏也	教授	ＦＤ講演会　「血小板による新しい肝疾患治療法の開発　－基礎から臨床へ－」(H26.1.8)
	丹藤雄介	教授	平成 25 年度弘前大学医学部保健学科公開授業「内科学演習」(H25.7.9) ＦＤミニフォーラム「臨床実習の FD」(H26.1.24)
	武尾照子	准教授	平成25年度弘前大学ＦＤワークショップ(第15回)テーマ「科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化」(H25.6.8)

13 年度	武尾照子	准教授	平成 25 年度弘前大学ＦＤワークショップ(第 15 回) テーマ「科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化」(H25.6.8)
	野坂大喜	講師	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24)
	七島直樹	講師	平成 25 年度ＦＤミニフォーラム「臨床実習のあり方と今後の展望」(H26.1.24) ＦＤ講演会　「血小板のよる新しい肝疾患治療法の開発　－基礎から臨床へ－」(H26.1.8)
	千葉　満	講師	平成 25 年度弘前大学ＦＤワークショップ(第 15 回) テーマ「科目ナンバリングの作成とカリキュラムの体系化」(H25.6.8)

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
13 年度	中村敏也	教授	平成 25 年度面接授業　専門科目：自然と環境　「プロテオグリカン学」	放送大学	16
	伊藤巧一	教授	免疫学	北里大学医学部	2
	丹藤雄介	教授	臨床栄養学各論Ⅰ	青森県立保健大学	8
	武尾照子	准教授	人体の構造と機能Ⅰ	秋田看護福祉大学	32
	七島直樹	講師	生化学 生化学	弘前市医師会看護専門学校 弘前病院附属看護学校	20 30

３．研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Ishikawa T, Kudo S, Sato Y, Nakano K, Nakamura T. (2013) Effect of whole body X-irradiation on the rat glutathione-related antioxidant system. Radiat Emerg Med, 2(2), 49-55.
2. Kuroda Y, Kasai K, Nanashima N, Nozaka H, Nakano M, Chiba M, Yoneda M, Nakamura T. (2013) 4-Methylumbelliferone inhibits the phosphorylation of hyaluronan synthase 2 by 12-*O*-tetradecanoyl-phorbol-13-acetate. Biomed Res, 34, 97-103.
3. Tanaka K, Suto S, Kuroda Y, Ishikawa T, Nakano K, Chiba M, Nanashima N, Nakano M, Ito K, Nakamura T. (2013) Effect of X-ray irradiation on extracellular matrix components of rat osteoblasts and femurs. Radiat Emerg Med, 2(1), 43-49.
4. Chiba M, Yasue H, Ohkohchi N. Gene expression profiling of sense and antisense transcripts in liver regeneration by microarray analysis. Biomed Rep., 1. 383-388, 2013.
5. Chiba M, Asari S, Kimura M, Nakamura T. An efficient method for high-fidelity messenger RNA amplification from a small amount of total RNA. Biomed Rep., 1. 105-110, 2013.
6. Nozaka H, Miura T, Zheng Z. Multi-Layer Virtual Slide Scanning System with Multi-Focus Image Fusion for Cytopathology and Image Diagnosis. IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems Vol.E96-D No.4 pp.856-863. 2013.

Ｂ．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Terashima S, Hosokawa Y, Yoshino H, Yamaguchi M, Nakamura, T. Effect of ascorbic acid and X-irradiation on HL-60 human leukemia cells: The kinetics of reactive oxygen species. Oncology Rep., 30, 2653-2658, 2013.
2. Yamaguchi M, Hirouchi T, Nakano M, Monzen S, Yoshino H, Chiba M, Ishikawa J, Nishiyama A, Murakami S, Ito K, and Kashiwakura I. Long-lasting Radioprotective Effects of a Combination of Pharmaceutical Drugs on the Survival of Mice Exposed to Lethal Ionizing Radiation. *Radiation emergency medicine* 3(1), 50-55, 2014.
3. Yamada T, Nanashima N, Akita M, Shimizu T, Miura T, Yamana D, Sawano T, Sakurai T, Tsuchida S. Lectin-like Receptor Ly49s3 on Dendritic Cells Contributes to

the Differentiation of Regulatory T Cells in the Rat Thymus. J Immunol. 191, 3799-807, 2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Suto S, Kakizaki I, Nakamura T, and Endo M. (2013) One set system for the synthesis and purification of glycosaminoglycan oligosaccharides reconstructed using a hyaluronidase-immobilized column. Biopolymers, 101(3), 189-196.
2. Mitome H, Tokumasu N, Tando Y, Nakamura T, Akira K. An efficient laboratory-scale preparative method for [1-(13)C]glycocholic acid. J Labelled Comp Radiopharm 56:587-8, 2013.
3. Mistry BV, Zhao Y, Chang TC, Yasue H, Chiba M, Oatley J, Diaz F, Liu WS. Differential expression of PRAMEL1, a cancer/testis antigen, during spermatogenesis in the mouse. PLoS ONE, 8. e60611, 2013.
4. Nishizawa K, Hiraga S, Yasue H, Chiba M, Tougou M, Nanjo Y, Komatsu S. The synthesis of cytosolic ascorbate peroxidases in germinating seeds and seedlings of soybean and their behavior under flooding stress. Biosci Biotechnol Biochem., 77. 2205-2209, 2013.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 野坂大喜,三浦富智,葛西宏介,中野 学,藤岡美幸,中村敏也,木田和幸,高見秀樹,臨床検査技師学生教育におけるジグソー学習法とテスト=テイキング=チーム法を用いた協同学習の導入と効果. 臨床検査学教育. 5(2):90-98. 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 柳町 幸, 丹藤 雄介, 三上恵理, 松橋有紀, 佐藤江里, 今 昭人, 近澤真司, 松本敦史, 田中 光, 大門 眞, 中村光男.高齢糖尿病患者におけるDEXA法を用いた体組成評価の有用性. 栄養-評価と治療 31：29-33, 2014.
2. 石岡拓得, 三上恵理, 柳町悟司, 佐藤史枝, 松本敦史, 田中 光, 佐藤江里, 柳町幸, 長谷川範幸, 丹藤雄介, 中村光男. 食事摂取量からみた高齢精神疾患患者の低栄養と肺炎の関連について. 消化と吸収 35：324-331, 2013.
3. 阿部洸大, 松本 敦史, 三上絢子, 長谷川 範幸, 田中 光, 松橋 有紀, 三上恵理, 佐藤史枝, 柳町悟司, 柳町 幸, 丹藤雄介, 中村光男. Bacterial overgrowth syndrome 診断における糞便中水酸化脂肪酸と呼気中水素測定の検討. 消化と吸収 35：300-304, 2013.

4. 柳町悟司，松本敦史，佐藤史枝，三上恵理，長谷川範幸，柳町 幸，田中 光，佐藤江里，丹藤雄介，中村光男．13C-グリココール酸呼気試験による高齢者と非高齢者の大腸内細菌数の比較に関する研究．消化と吸収 35：296-299，2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 丹藤雄介，松本敦史，松橋有紀，田中 光，柳町 幸，中村光男．【慢性膵炎-新しい概念と診断・治療の展開】 膵外分泌機能障害．臨床消化器内科 29:557-563,2014.
2. 丹藤 雄介.【膵がんの予防について考える】 糖尿病との関わり．The GI Forefront 9：16-17，2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 松橋有紀，丹藤雄介，中村光男.新しい視点にたった膵内外分泌相関 膵性糖尿病の病態と膵酵素補充療法の意義.胆と膵 35：349-353，2014.
2. 長谷川範幸，丹藤雄介，柳町 幸，柳町悟司，松本敦史，中村光男.【小腸疾患の臨床-最近の進歩】 小腸の検査法　小腸消化吸収機能検査．臨床消化器内科 28：841-848，2013.
3. 田中 光，長谷川範幸，柳町 幸，丹藤雄介，中村光男 【血液症候群(第 2 版)-その他の血液疾患を含めて-】 血漿タンパクの異常　その他の血漿タンパクの異常　アルブミン異常　後天性低アルブミン血症．日本臨床　別冊血液症候群第 2 版 III，702-706，2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

3）著書
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

和文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

4）その他
英文
A．当該分野の教員が筆頭著者の場合
なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合
なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの
なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

A.特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

なし

C.一般演題（ポスター発表を含む）

1. Chiba M, Miura T, Kasai K, Monzen S, Nanashima N, Ishikawa T, Takeo T, Kashiwakura I, Nakamura T. Gene expression analyses of messenger RNA and non-coding RNA in human B lymphoblastic cells exposed to X-ray. The 5th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, October 19, 2013, Aomori, Japan.
2. Ishikawa T, Kudo S, Sato Y, Nakano K, Nanashima N, Nakamura T. Effect of X-ray dose level on activities of glutathione-related antioxidant enzymes and glutathione content in rats The 5th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, October 19, 2013, Aomori, Japan.
3. Saga R, Hosokawa Y, Yoshino H, Terashima S, Nakamura T. Effect of concomitant 4-methylumbelliferone and radiation on human fibrosarcoma cells. The 5th International Symposium on Radiation Emergency Medicine in Hirosaki University, October 19, 2013, Aomori, Japan.
4. Nakano M, Kudo F, Nakamura T, Kasai K, Ito K, Takami H, and Ito K. Uracil nucleotides enhance the degranulation of human basophils induced by anti-IgE antibody via a purinergic receptor. AAI Annual Meeting, May 3-7, 2013, Honolulu, Hawaii. P6016.

5. Ishikawa T, Kudo S, Sato Y, Nakano K, Nanashima N and Nakamura T. Effect of X-ray dose level on activities of glutathione-related antioxidant enzymes and glutathione content in rats. 第 5 回緊急被ばく医療国際シンポジウム, 青森市, 2013 年 10 月 19 日.
6. Nozaka H, Osanai Y, Mayama A, Watanabe J, Takami H, Kurose A, Takahashi K, Konishi Y, Mue Y, Suzuki M, Uesugi N, Ishida K, Sugai T. ANALYSIS OF MRNA AND MICRORNA EXPRESSION RELATED TO CELL PROLIFERATION GENES BETWEEN CRYPTS AND STROMA IN HUMAN COLORECTAL CANCER. The 8th Asia Pacific IAP Congress September 5-8, 2013, Busan, Korea.
7. Nozaka H, Mayama A, Miura T, Takami H, Takahashi T, Konishi Y, Mue Y, Suzuki M, Uesugi N, Ishida K, Sugai T. CDKN1A, 1B, TP53 mRNA and miR-34a, 192, 215, 221 expression of crypts and stroma in human colorectal cancer. 2013 United States & Canadian Academy of Pathology Annual Meeting March, 2013, Baltimore, USA.

2) 全国学術集会

A. 特別（招待）講演

なし

B. シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. 千葉 満. 肝臓癌細胞から放出される細胞外 RNA の解析. 第 20 回日本肝臓医生物学研究会, 2014 年 2 月 15 日, 東京八重洲ホール, 東京都.

C. 一般演題（ポスター発表を含む） 16 件

Ⅲ. 学術賞

野坂 大喜：弘前大学表彰受賞　医用システム開発マイスター養成塾

Ⅳ. 共同研究

なし

Ｖ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1. 伊藤 巧一

研究種目：基盤Ｃ一般

研究課題名：大量放射線被ばくに対する混合臍帯血移植治療の確立と作用機序解明

配分額： 4,950（千円）

2. 七島 直樹

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：乳がんを制御する遺伝子 Pla2g4c の機能解析と治療への応用

配分額：2,860（千円）

3. 野坂 大喜

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：コメディカル学生における協同学習とｅ－ラーニング併用型医学教育プログラムの開発

配分額：1,300（千円）

4. 野坂 大喜

研究種目：基盤研究(B)

研究課題名：乳がんセンチネルナビゲーション手術支援のための術中迅速画像診断技術の開発

配分額：5,460（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 伊藤 巧一

研究種目：基盤Ｂ

研究課題名：トロンホポエチン受容体作動薬による放射線暴露個体の救命効果と作用機序解明

研究代表者名：柏倉 幾郎

配分額： 800（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

1. 千葉 満

助成名：日本学術振興会　科学研究費助成事業　挑戦的萌芽研究

研究課題名:「体液中エキソソーム内在性 RNA による新たな迅速内部被ばく線量評価法の開発」

配分額：2,000（千円）（直接経費）

2. 野坂 大喜

助成名: 科学技術振興機構　研究成果最適展開支援プログラム　A-STEP
フィージビリティスタディ【FS】ステージ探索タイプ

研究課題名：光学センサー方式によるカテーテル不要な非侵襲 24 時間自動連続血圧測定･監視システム(ABPM)の開発

配分額：1,700（千円）

3. 野坂 大喜

助成名: 青森県　あおもり農商工連携助成事業助成金

研究課題名：「津軽の桃」ブランド化に向けた医薬部外品開発支援事業

配分額：1,000（千円）

他研究単位との研究分担者として

1. 丹藤 雄介

助成名：平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）

研究課題名：難治性膵疾患に関する調査研究

研究代表者名：下瀬川 徹

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 丹藤 雄介

助成名：保健学研究科研究発表会への取り組みに対する奨励研究費

研究課題名：新規 GLP-1 レセプター作動薬の作用メカニズムと効果に関する研究

配分額：40（千円）

2. 丹藤 雄介

助成名：平成 25 年度保健学研究科 科研費採択奨励事業

研究課題名：消化管内膵酵素活性が寄与する栄養代謝恒常性維持のモニタリング法の研究

配分額：30（千円）

3. 千葉 満

助成名：平成 25 年度 弘前大学若手機関研究

研究課題名:疾患エキソソームエンサイクロペディア ―新規疾患マーカー探索戦略と総合的機能解析―

配分額：3,000（千円）

4. 野坂 大喜

助成名: 平成 25 年度弘前大学総合情報処理センター研究開発

研究課題名：Active Learning と協同学習(Collaborative Learning)のための
電子ラーニングポートフォリオシステムの構築
配分額：150（千円）

他研究単位との研究分担者として
1. 中村 敏也，伊藤 巧一，七島 直樹，千葉 満，中野 学
助成名：平成 25 年度弘前大学機関研究
研究課題名：「東日本大震災対応放射線科学研究プログラム」
研究代表者名：柏倉 幾郎
配分額：7,000（千円）

4）民間の研究助成
研究代表者として
1. 丹藤 雄介
助成名：ＭＳＤ株式会社研究助成
研究課題名：糖尿病治療が患者の予後、栄養状態に与える影響と新規代謝マーカーの開発
配分額：200（千円）

他研究単位との研究分担者として
なし

Ⅵ. 研究に関する社会活動
1）国際交流、国際的活動
a）国際学術集会の主催
なし

b）外国人研究者の招聘、受け入れ状況
なし

c）外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況
なし

d）外国研究機関の視察、研究参加（3 ヵ月未満）状況
1. 中村 敏也，野坂 大喜：韓国原子力医学院（KIRAMS），Lee Seung-Sook 国立緊急

被ばく医療センター(NREM)長

2. 野坂 大喜：REACT/TS, 米国　テネシー

e) 外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f) その他

2) 国内、地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

1. 野坂 大喜, 田向 常城: 特願 2013-206638 骨塩量増加剤, 骨強度増進剤, 骨形成促進剤及び骨質改善剤
2. 加藤 陽治, 野坂 大喜：特願 2014-058251 骨密度増加剤, 破骨細胞活性抑制剤及びリモデリング改善剤

４．社会貢献活動

1) 学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	日本生化学会 日本結合組織学会	評議員 評議員

丹藤雄介	日本膵臓学会	評議員
	日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会	委員
	公益財団法人日本膵臓病研究財団助成金選考委員会	委員
	日本消化器病学会ガイドライン委員会（慢性膵炎）	委員
	日本消化吸収学会	幹事
	日本消化吸収学会倫理委員会	委員
	日本消化吸収学会利益相反委員会	委員
	日本安定同位体・生体ガス医学応用学会	監事
	日本高齢消化器病学会	理事
	日本病態栄養学会	評議員
	日本胆膵病態・生理研究会	世話人
	東北膵臓研究会	世話人
	青森 21 世紀の栄養療法を考える会	幹事
	青森県 SGLT2 研究会	世話人
	糖尿病病態代謝懇話会	幹事
	糖尿病トランスレーショナルリサーチ研究会	世話人
七島直樹	健康食品管理士会東北支部	役員
千葉　満	日本放射線影響学会　第 56 回大会（青森市）	委員

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	第５回緊急被ばく医療国際シンポジウム	実行委員長
	日本放射線影響学会第 56 回大会	実行委員

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	Radiation Emergency Medicine	編集委員
	Radiation Emergency Medicine	査読
丹藤雄介	日本膵臓学会誌　膵臓	編集委員
	PLOS ONE	査読
	日本臨床内科医会ニュース	編集委員

千葉　満	International Journal of Hematology (IJH), 1件 BMC Cancer, 1件 International Journal of Biological Sciences (IJBS), 1件 International Journal of Molecular Sciences (IJMS), 1件 放射線生物研究, 1件	査読 査読 査読 査読
石川　孝	Analytical Sciences, 1件 Molecules, 1件	査読 査読

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	平成 25 年度放送大学面接授業　専門科目：自然と環境「プロテオグリカン学」	講師
丹藤雄介	青森県臨床内科医会第 4 回市民公開講座～みんなで学ぼう！糖尿病「知って安心、実行して健康 -生活習慣病のリスクと対処方法-」	講師

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職
野坂大喜	特願 2013-206638 骨塩量増加剤、骨強度増進剤、骨形成促進剤及び骨質改善剤の出願	
野坂大喜	特願 2014-058251 骨密度増加剤、破骨細胞活性抑制剤及びリモデリング改善剤の出願	

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職
中村敏也	文部科学省地域イノベーションクラスタープログラム（都市エリア）「プロテオグリカンをコアとした津軽ヘルス＆ビューティー産業クラスターの創生」	グループリーダー
野坂大喜	田向商店との特許ライセンス契約の締結	
石川　孝	株式会社クラーロ	医学技術指導顧問

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
伊藤巧一	特別講演 マウス臍帯血移植モデルを用いた免疫系再構築に関する研究．第24回東北動物実験研究会，2013年12月6日，弘前文化センター，弘前市	講師
丹藤雄介	弘前市糖尿病学術講演会　「DPP-4阻害薬の導入ポイントと使用中の注意」	講師
	Diabetes Forum in 八戸　「GLP-1受容体作動薬を以下に使うか？－週1回型エキセナチドの投与経験から」	講師
	むつ下北医師会学術講演会　「肥満を伴う 2 型糖尿病の総合的治療戦略」	講師
	Aomori Diabetes Symposium 「週 1 回投与型エキセナチドの投与経験」	講師
	インスリン治療セミナー in 弘前　「栄養学的観点からインスリン療法を考える」	講師
	膵疾患学術講演会（福岡）　「膵性糖尿病の病態と栄養管理」	講師
	第20回岩手の消化器臨床栄養懇話会　「病態栄養における膵リパーゼ作用のコントロール」	講師
	糖尿病トランスレーショナルリサーチ研究会　教育講演「ＣＳＩＩ　＆　ＣＧＭによる１型糖尿病治療の現状」	講師
	青森胃腸同好会　「内分泌代謝学が関与する肝・胆・膵疾患のトピックス」	講師
	Aomori Diabetes Expert Forum インターネット講演会「身体組成と糖尿病の関係－栄養学的観点から－」	講師

丹藤雄介	第 3 回八戸地区糖尿病療養指導士学術講演会「病期進行を見据えた糖尿病腎症療養指導のポイント」	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
丹藤雄介	国民健康保険板柳中央病院	非常勤医師
武尾照子	秋田看護福祉大学	非常勤講師

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
野坂　大喜	『青森県産アブラツノザメ軟骨粉末』 ～共同特許出願及び関連製品の販売～ 弘前大学・(有)田向商店・(株)サティス製薬 合同記者会見	

病態解析科学分野

Department of Pathologic Analysis

１．教員

病態解析科学分野(人)

教　授	准教授	特命准教授	助　教	助　手
3	2	1	5	0

２．教育活動

1) 21 世紀教育

(1)講義の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授業科目名	年間担当時間数
13 年度	高見秀樹	教授	最新医学の現状	6
	三浦富智	准教授	生物学の基礎ⅡD（R）	20
	三浦富智	准教授	生物学の基礎ⅡD（T）	20
	阿部由紀子	助教	生物学の基礎Ⅰ(B)	6
	葛西宏介	助教	生物学の基礎ⅡＤ（検査）	10
			生物学の基礎ⅡＤ（放射線）	10

(2)実習の担当者名、職名、授業科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	授 業 科 目 名	年間担当時間数
13 年度				

2) 学部教育

(2) 講義の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	高見秀樹	教授	臨床血液学	2	32
			臨床血液検査学	2	32
			臨床検査総合演習Ⅰ	4	6

13 年度	渡邉　純	教授	人体病理学	1(他専攻)	32
			病理組織細胞検査学	2	32
			臨床検査総合演習 I	4	6
			細胞診断学講義 I	1	32
			細胞診断学講義 II	2	32
			細胞診断学講義 III	2	32
			細胞診断学演習 I	2	32
			細胞診断学演習 II	3	32
			細胞診断学演習 III	3	32
	三浦富智	准教授	分子生物検査学	3	12
	藤岡美幸	助教	微生物学	1	20
			臨床微生物検査学	2	20
			臨床検査総合演習Ⅱ	4	6
	吉岡治彦	助教	病理組織細胞検査学講義	3	14
			細胞診断学演習Ⅱ	3	14
			細胞診断学演習Ⅲ	3	16
			検査科学英語演習	3	8
			臨床検査総論演習Ⅱ	3	2
	葛西宏介	助教	分子生物検査学	3	6

(2)実習の担当者名、職名、授業科目、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	高見秀樹	教授	臨床血液学形態学実習	2	45
			臨床血液検査学実習	3	45
	渡邉　純	教授	人体病理学実習	2	48
			病理組織細胞検査学実習	3	48
			細胞診断学実習	4	160
			細胞診断学臨床実習	4	200
	三浦富智	准教授	医用生物学実験（R）	1	45
			医用生物学実験（T）	1	45
			分子生物学実験	3	45
	藤岡美幸	助教	微生物学実習	2	45
			臨床微生物検査学実習	2	45
			臨床生理学実習	3	45
			臨床血液学実習	3	45
			医用情報機器工学実習	3	45

13 年度	吉岡治彦	助教	細胞診断学実習	3	54
			細胞診断学臨床実習	4	288
			人体病理学実習	2	48
			病理組織細胞検査学実習	3	42
	阿部由紀子	助教	衛生学・公衆衛生学実習	3	45
			尿検査学実習	2	45
			医用化学実験	1	90
	葛西宏介	助教	医用生物学実習（検査）	1	45
			医用生物学実習（放射線）	1	45
			栄養・代謝学実習	2	45
			分子生物学実習	3	45

(3)臨地・臨床実習の担当者名、職名、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	年間担当時間数
13 年度				

(4)本学他学部と医学部医学科の教育の担当者名、職名、対象学年、科目名、年間担当時間数

	担当者名	職名	対象学年	科目名	年間担当時間数
13 年度	高見秀樹	教授	4	血液学	12

3) 卒業研究指導人数、指導者名

	指導人数	指導者名
13 年度	2 名	高見秀樹
	2 名	渡邉　純
	3 名	三浦富智
	1 名	藤岡美幸
	1 名	吉岡治彦
	1 名	阿部由紀子
	2 名	葛西宏介

4) 大学院

(1)講義の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	高見秀樹	教授	臨床血液学特論 (M) 教育・研究者育成コースワーク (D)	1,2 1,2	30 6
	渡邉　純	教授	腫瘍細胞学特論 (M) 教育・研究者育成コース (D)	1 1	30 4
	三浦富智	准教授	細胞生物化学(M) 基礎細胞分子生物科学特論(M)	1 1	22 30
	藤岡美幸	助教 助教 助教	保健学連携セミナー (M) 医用検査機器特論 (M) 検体分析コース (M)	1 1 1	10 4 8

(2)演習の担当者名、職名、授業科目(M または D)、対象学年、年間担当時間数

	担当者名	職名	授　業　科　目	対象学年	年間担当時間数
13 年度	高見秀樹	教授	病態解析学特別演習 (M)	2	6
	三浦富智	准教授	細胞分子生物科学特別演習(M)	1	30

(3)学位論文の作成指導者名、職名、指導論文名(M または D)

	作成指導者名	職名	指　導　論　文　名

5) その他

(1)ファカルティ・ディベロップメントへの参加者名、職名、名称等

	参　加　者　名	職名	名　称　等
13 年度	藤岡美幸	助教	公開授業 FD ミニフォーラム

(2)他大学・他施設における講義

	担当者名	職名	科　目　名	大学・施設等	年間担当時間数
13 年度	三浦富智	准教授	染色体線量評価学	被ばくプロフェッショナル	4

13 年度	三浦富智	准教授	染色体線量評価学演習	被ばくプロフェッショナル	9
	藤岡美幸	助教	微生物学/補講	医師会看護専門学校	4

３．研究活動

Ⅰ．発表論文

1）原著

英文

Ａ．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Washiya, K., Mizuki, Y., Nakamura, M., Kakinuma, H., Saegusa, M., Satoh, Y., Yoshioka, H., Watanabe, J. *Discriminant analysis between malignant mesothelioma and reactive mesothelium using nuclear three-dimensional analysis is useful for morphologically suspicious cases. Acta Cytol., 57:509-515, 2013.
2. Washiya, K., Motoi, M., Kobayashi, T., Yoshioka, H., Watanabe, J. Significance of Binucleated Cells with Compression in Atypical Squamous Cell of Undetermined Significance. Acta Cytol., 57:599-603, 2013.
3. Washiya,K., Furutate, S., Sakurai, M., Sasaki, E., Yoshioka H., Ito, K., Watanabe, J. *Differentiation between Papillary Carcinoma and Adenomatous Nodule using Three-Dimensional Nuclear Analysis is Useful for Morphologically Indeterminate Cases of Thyroid Tumor. J. Cytol. Histol., 4:194, 2013.
4. Miura T, Nakata A, Kasai K, Abe Y, Jin Y, Yoshida MA: Healthcare of 18 workers who supported the regulation of radiological contamination at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. Radiat Emerg Med, 2(2):63-67, 2013
5. Miyuki Fujioka, Yoshimitsu Otomo, and Chowdhury Rafiqul Ahsan: Rapid detection method for enteroaggregative *Escherichia coli* using simple clump formation and aggregative assay. Advances in Microbiology, 3:552-556, 2013.
6. Yoshioka, H., Hoshiai, K., Nakamura, T., Sato, T., Washiya, K., Watanabe, J.: Usefulness of Ultraviolet - Microscopic Spectroscopy on Unstained cells by Liquid-based Cytology for Objective Differentiation between Non-cancer from Cancer cells. Hirosaki Medical J, 65:82-94, 2014.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. Nozaka H, Miura T, Zheng Z: Multi-layer virtual slide scanning system with multi-focus image fusion for cytopathology and image diagnosis. IEICE Trans Inf Syst, E96-D(4):856-863, 2013.

2. Kuroda Y, Kasai K, Nanashima N, Nozaka H, Nakano M, Chiba M, Yoneda M, Nakamura T. 4-Methylumbelliferone inhibits the phosphorylation of hyaluronan synthase 2 induced by 12-O-tetradecanoyl-phorbol-13-acetate. Biomed Res. 34:97-103, 2013

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Kimura, F., Okayasu, I., Kakinuma, H., Satoh, Y., Kuwao, S., Saegusa, M., Watanabe, J. Differential diagnosis of reactive mesothelial cells and malignant mesothelial cells using the cell proliferative markers minichromosome maintenance protein 7, geminin, topoisomerase II alpha and Ki-67. Acta Cytol., 57:384-390, 2013.

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 藤岡美幸，大友良光：*Campylobacter jejuni* と *C. coli* を同定する馬尿酸塩加水分解試験に用いる指摘菌濃度．医学検査，63(2):168-172,2014.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 野坂大喜，葛西宏介，中野　学，藤岡美幸，七島直樹，三浦富智，中村敏也，木田和幸，高見秀樹．臨床検査技師学生教育におけるジグソー学習法とテスト＝テイキング＝チーム法を用いた協同学習の導入と効果．日本臨床検査学教育学会，5(2):90-98,2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. 林（長濱）ちひろ，足立吉數，武田久美子，阿部由紀子，安江健，金澤卓弥，田附明夫：ミトコンドリア DNA の D-loop 領域の塩基配列上の *Hinf* I サイトを利用した PCR-RFLP 法によるリュウキュウイノシシ(*Sus scrofa riukiuanus*)としての簡易鑑別．日本畜産学会報，84(2)：163-168，2013.

2. 石関沙代子，足立吉數，鈴木優香，小針大助，安江健，金澤卓弥，青柳陽介，阿部由紀子，秋葉正人，楠本正博：茨城大学農学部フィルドサイエンスセンターで発生した黒毛和種哺乳子牛の消化器疾患に関する調査．家畜衛生学会誌，38：2-9，2013.

3. 鈴木優香，足立吉數，中島弘美，徳山幸夫，阿部由紀子：茨城県内飼育ブラキスピラ感染ニワトリの細菌学的調査．ブラキスピラ，4：3-11，2013.

2）総説

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

1. 玉井佳子，高見秀樹：イマチニブ．臨床腫瘍プラクティス，9：232-234，2013
2. 玉井佳子，高見秀樹：ニロチニブ．臨床腫瘍プラクティス，9：238-239，2013.
3. 玉井佳子，高見秀樹：ダサニチブ．臨床腫瘍プラクティス，9：235-237，2013
4. 方山揚誠、渡邉純、松榮恒一、齊藤俊夫：（１）細胞診材料の採取と採取直後の処理、第一部細胞診の基本　病理と臨床臨時増刊号、31：2-8、2013.

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

3）著書

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

1. Shoji T, Miura T: Apple polyphenols in cancer prevention. In: Polyphenols in Human Health and Disease, 1st ed, pp1373-1383, Academic Press, Elsevier, 2013

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

なし

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

4）その他

英文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. Miura T. The cytokinesis-block micronucleus (CBMN) assay. In: Biodosimetry in the 21st Century, IAEA, Human Health Campus (http://nucleus.iaea.org/HHW/RadiationOncology/RadiationBiology/Biological_Dosimetry/Biodose-21/08.pdf), 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

和文

A．当該分野の教員が筆頭著者の場合

1. 三浦富智 編:リンゴ機能性ハンドブックーりんごの機能性とその活用法ー. リンゴ機能性ハンドブック編集委員会, 川口印刷工業, 2013.

B．当該分野の教員が筆頭著者でない場合

なし

C．当該分野の研究者が他研究機関で行ったもの

なし

Ⅱ．学会、研究会等の発表

1）国際学術集会

A.特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

なし

C.一般演題（ポスター発表を含む）

なし

2）全国学術集会

A．特別（招待）講演

なし

B．シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演

1. 町田大輔、西村由香里、柿沼廣邦、服部　学、山下和也、渡辺　純、上坊敏子、三上哲夫、三枝　信：子宮内膜LBCにおける形態学的特性と応用　第54回日本臨床細胞学会春期大会ワークショップ「内膜のLBC」、東京、2013　（日本臨床細胞学会雑誌、52(suppl.1):137,2013）
2. 篠田　寿、木野康志、中田章史、葛西宏介、高橋　温、清水良央、鈴木敏彦、千葉美麗、小坂　健、福田智一、磯貝恵美子、関根　勉、福本　学、三浦富智．福島第一原発事故被災地域に生息する野生赤ネズミの歯の線量解析．日本放射線影響学会第56回大会，青森市，2013.
3. 藤岡美幸，学会特別企画：教育現場と臨床現場の連携，第2回日臨技北日本支部医学検査学会，仙台市，2013.

C．一般演題（ポスター発表を含む）　7件

Ⅲ．学術賞

藤岡美幸　弘前大学表彰：「医用システム開発マイスター養成塾」実行委員会

Ⅳ．共同研究

葛西宏介　東北大学加齢医学研究所共同利用・共同研究

吉岡治彦　共同研究相手研究機関名：株式会社クラーロ

Ⅴ．研究助成

1）文部科学省科学研究費

研究代表者として

1.高見秀樹

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究課題名：新規抗 GPIb 抗体（HU-12）の活性化血小板マーカーとしての有用性に関する研究

配分額：1,050　　（千円）

2.三浦富智、葛西宏介

研究種目：挑戦的萌芽研究（継続）

研究課題名：採血時間に依存しない高速性・安定性を備えた被ばく線量評価バイオマーカー

配分額：800（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.三浦富智、葛西宏介

研究種目：基盤研究（C）（一般）（新規）

研究課題名：PCC と PNA-FISH による二動原体染色体の被ばく線量評価への適用性の検証

研究代表者名：吉田光明

配分額：50（千円）

2）その他の省庁からの研究費

研究代表者として

なし

他研究単位との研究分担者として

1.三浦富智

助成名：平成 25 年度「機能性を持つ農林水産物・食品の開発プロジェクト」

研究課題名：高分子プロシアニジン類の腸管ホメオダイナミクスによる生活習慣病予防作用の解明に関する研究（農林水産省）

研究代表者名：庄司俊彦

配分額：4,000（千円）

2. 三浦富智

助成名：平成 25 年度農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発(タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発)

研究課題名：プロシアニジン類の動脈硬化予防効果の検証、安全性の評価

研究代表者名：前田（山本）真理

配分額：2,100（千円）

3. 三浦富智

助成名：農林水産資源を活用した新需要創出プロジェクト
（食習慣によるリンゴ摂取の生活習慣病予防効果解明のためのコホート研究）

研究課題名：リンゴやプロシアニジン摂取によるヒト代謝物の解析

研究代表者名：庄司俊彦

配分額：1,695（千円）

4. 三浦富智

助成名：農林水産資源を活用した新需要創出プロジェクト
（食習慣によるリンゴ摂取の生活習慣病予防効果解明のためのコホート研究）

研究課題名：リンゴ健康機能性の普及のための体制作りと食育活動

研究代表者名：庄司俊彦

配分額：2,405（千円）

5. 吉岡治彦

助成名：科学技術振興機構　復興促進プログラム（マッチング促進）

研究課題名：「病理画像のがん検出ソフトウェアの開発」

研究代表者名：高松輝賢

配分額：2,574　（千円）

3）学内の研究助成

研究代表者として

1. 葛西宏介

助成名：平成 25 年度弘前大学科研費獲得支援事業

研究課題名:新規Ｌ－アミノ酸オキシダーゼの選択的菌体結合性と膜破壊メカニズムの解明

配分額：500（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.藤岡美幸

助成名：弘前大学 GOGO ファンド

研究課題名：ソバモヤシに付着するパンテア菌を利用した健康食品の研究開発

研究代表者名：大友良光

配分額： 490（千円）

２．葛西宏介

助成名：機関研究

研究課題名：東日本大震災対応放射線科学研究プログラム

研究代表者名：柏倉　幾郎

配分額：　5950（千円）

4）民間の研究助成

研究代表者として

1.藤岡美幸

助成名： 臨床検査医学研究振興基金

研究課題名：PCR およびリアルタイム PCR を用いたヒト食中毒早期診断のための下痢性大腸菌迅速分類技術の開発

配分額： 700（千円）

他研究単位との研究分担者として

1.葛西宏介

助成名：東北大学加齢医学研究所　共同利用・共同研究

研究課題名：福島県内の野生生物における遺伝学的変化を指標とした放射線の生物影響評価

研究代表者名：中田　章史

配分額：100（千円）

Ⅵ. 研究に関する社会活動

1）国際交流、国際的活動

a）国際学術集会の主催

なし

b）外国人研究者の招聘、受け入れ状況

なし

c）外国人からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d）外国研究機関の視察、研究参加（3ヵ月未満）状況

なし

e）外国研究機関への留学（3ヵ月以上）状況

なし

f）その他

2）国内、地域活動

a）全国レベルの学会の主催

なし

b）地方レベルの学会の主催

なし

c）国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d）国内他研究機関への研究参加（内地留学）状況

なし

Ⅶ. その他

なし

４．社会貢献活動

1）学会（研究会）などにおける委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
高見秀樹	日本血液学会 日本血栓止血学会 日本血液学会東北地方会 東北止血・血栓研究会 弘前大学医師会	代議員 評議員 世話人 世話人 理事
渡邉　純	日本病理学会 日本臨床細胞学会 日本婦人科腫瘍学会 日本臨床細胞学会青森県支部 日本臨床細胞学会東北連合会	評議員 評議員 評議員 幹事 幹事
三浦富智	日本放射線影響学会第 56 回大会実行委員会	事務局長
吉岡治彦	日本臨床細胞学会青森県支部 日本臨床細胞学会東北連合会	幹事 幹事

2）学会（研究会）などの開催

氏　名	件　　名	役職
渡邉　純	第 50 回日本臨床細胞学会東北支部連合会学術集会 第 31 回日本臨床細胞学会青森県支部学術集会	幹事 幹事
吉岡治彦	第 50 回日本臨床細胞学会東北支部連合会学術集会 第 31 回日本臨床細胞学会青森県支部学術集会	幹事 幹事

3）学術雑誌の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職
高見秀樹	International Journal of Hematology	査読委員
渡邉　純	日本臨床細胞学会雑誌 日本婦人科腫瘍学会雑誌	査読委員 編集委員
三浦富智	Radiation Emergency Medicine International Journal of Biology	編集委員 査読者

4）学術集会一般演題の編集員及び審査員としての活動（査読も含む）

氏　名	件　　名	役職

5）一般市民などの生涯学習等への寄与

氏　名	件　　名	役職

6）国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動

氏　名	件　　名	役職
高見秀樹	厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業評価小委員会 青森県エイズ対策推進会議 青森県診療報酬審査委員会	委員 委員 委員
葛西　宏介	環境省　「放射線の健康影響に係る解析手法合同委員会」	委員

7）新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与（特許取得も含む）

氏　名	件　　名	役職

8）産学共同事業への参加、技術移転・相談

氏　名	件　　名	役職

9）講演（大学での授業，研究発表を除く）

氏　名	件　　名	役職
藤岡美幸	第 2 回北日本臨床検査医学会　特別企画「教育現場と臨床現場の連携」	講師

10）保健医療福祉機関等における活動（弘前大学職員兼業規程及び大学院保健学研究科における兼業基準による活動など）

氏　名	件　　名	役職
高見秀樹	弘前大学医学部附属病院 大鰐町立病院	非常勤医師 非常勤医師

渡邉　純	弘前大学医学部附属病院 弘前市立病院 五所川原市立西北中央病院 青森厚生病院	非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師 非常勤医師
吉岡治彦	弘前市立病院　臨床検査科	非常勤技師

11）職能団体における専門職性を高める活動等

氏　名	件　　名	役職

12）国際交流への貢献（姉妹校での活動、国際協力事業団の活動など）

氏　名	件　　名	役職
三浦富智	Training Meeting “Biodosimetry in the 21st Century”, HICARE in collaboration with the International Atomic Energy Agency(IAEA)	講師

13）その他（ボランティア、マスコミによる公表など）

氏　名	件　　名	役職
三浦富智	浪江町初期被ばく検査	調査員

管理運営活動

【全学関係委員会】

委員会名	委員名
教育研究評議会	對馬　均、木田和幸
運営会議	對馬　均
企画委員会	渡邊　純
総務委員会	石川　玲
教育委員会	石川　玲
研究委員会	柏倉幾郎
社会連携委員会	千葉正司
総合情報処理ｾﾝﾀｰ運営委員会	野坂大喜
ネットワーク技術専門委員会委員	對馬栄輝
生涯学習教育研究センター運営委員会	樽澤孝悦
地域共同研究センター運営委員会	則包和也
国際教育センター運営委員会	小山内　隆生
保健管理センター運営委員会	鈴木光子
21世紀教育センター運営委員会	對馬栄輝
ｱｲｿﾄｰﾌﾟ総合実験室運営委員会	樽澤孝悦
機器分析センター運営委員会	伊藤功一
附属図書館運営委員会	野戸結花
情報公開・個人情報保護委員会	武尾照子
ハラスメント防止等対策委員会	木田和幸
ハラスメント相談員	佐藤真由美、祐川幸一
入学試験委員会	對馬　均、木田和幸
動物実験委員会（動物実験）	伊藤巧一
動物実験委員会(実験動物)	三浦富智
組換えDNA実験安全委員会	伊藤巧一
組換えDNA実験安全主任者	伊藤功一
バイオセーフティ委員会	大友良光
放射線安全管理委員会	對馬　均
エネルギー教育推進委員会	工藤　幸清
サテライト運営委員会	上谷英史
知的財産審議会	加藤拓彦
総合文化祭実施委員会	加藤拓彦

化学物質等管理委員会	石川　孝
出版会運営委員会	北嶋　結
出版会編集員	尾田　敦、大友良光
情報セキュリティ委員会	對馬　均
セキュリティ対策専門委員会	廣田淳一
評価室	北宮千秋、三浦富智
学生総合相談室	工藤せい子、和田一丸
被ばく医療総合研究所兼任教員	柏倉幾郎
就職支援センター兼任教員	加藤拓彦
地域共同研究センター兼任教員	則包和也、三浦富智、野坂大喜
ボランティアセンター兼任教員	則包和也
環境報告書作成委員会	渡邉　純
全学教員養成担当実施委員会	小倉能理子
附属図書館図書選定委員会	西村美八
附属図書館広報委員会	野戸結花
教員免許状更新講習支援室運営委員会	一　戸とも子
教員免許状更新講習支援室教科グループ代表	西沢義子
教科ワーキンググループ	西沢義子
教科ワーキンググループ	小倉能理子
男女共同参画推進室	三崎直子
弘前大学後援会	則包和也
附属病院医薬品等臨床研究審査委員会	川崎くみ子
GPの採択獲得のための方策を検討するWG	若山佐一
秋季入学に関するワーキンググループ	木田和幸
資料館運営委員会	五十嵐世津子
研究戦略企画会議	中川公一
つがルネッサンス！地域でつなぐ女性人材タスクチーム	大津美香
食料科学研究所企画運営委員会委員	三浦富智
弘前大学の未来を担う若手教員との懇談会	冨澤登志子
「医工連携による健康科学教育プログラムの開発」事業健康科学教育プログラム策定委員会	若山佐一、野坂大喜

【本町地区共通委員会】

委員会名	委員名
学科間連絡会	對馬　均、木田和幸
医学研究科附属動物実験施設運営委員会	中村敏也、伊藤功一
附属図書館医学部分館運営委員会	野戸結花、阿部由紀子、成田大一
本町地区環境整備委員会	古川照美、大津美香、長谷川直正
医学研究科倫理委員会	伊藤功一、木立るり子
医学研究科動物実験倫理委員会	伊藤巧一
医学部情報公開検討委員会	米坂　勧、山辺英彰
医学研究科等放射線安全管理委員会	齋藤陽子、中川公一
本町地区安全衛生委員会	山辺英彰
臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会	山辺英彰、野田美保子

【保健学研究科管理運営】

研究科長		對馬　均
副研究科長		木田　和幸
領域代表者	健康支援科学領域	西沢　義子
	医療生命科学領域	細川　洋一郎
副領域代表者	健康支援科学領域	若山　佐一
	健康支援科学領域	和田　一丸
	医療生命科学領域	伊藤　功一
	医療生命科学領域	渡邉　純

委員会名	委員名（◎委員長、〇副委員長）
領域代表者等連絡会議	◎對馬　均、〇木田和幸、西沢義子、若山佐一、和田一丸、細川洋一郎、伊藤功一、渡邉　純、中村敏也、長谷川直正
博士前期課程学事委員会	◎中村敏也、〇工藤せい子、木立るり子、細川洋一郎、中川公一、丹藤雄介、尾田　敦、野田美保子
博士後期課程学事委員会	◎中村敏也、〇工藤せい子、西沢義子、尾田　敦、細川洋一郎、松本光比古、三浦富智
将来計画委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、西沢義子、若山佐一、和田一丸、細川洋一郎、伊藤功一、渡邉　純、山辺英彰、野田美保子、加藤拓彦、樽澤孝悦、武尾照子、高見秀樹

自己評価委員会	◎木田和幸、〇木立るり子、中村敏也、石川　玲、山辺英彰、小倉能理子、小枝周平、樋口　毅、高見彰淑、中川公一、細田正洋、石川　孝、渡邉　純、大友良光、長谷川直正
予算委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、西沢義子、若山佐一、和田一丸、細川洋一郎、伊藤功一、渡邉　純、冨澤登志子、大津美香、五十嵐世津子、祐川幸一、武尾照子
建築委員会	◎木田和幸、西沢義子、細川洋一郎、中村敏也、佐藤真由美、赤池あらた、若山佐一、上谷英史、川崎くみ子、田中真、中原岳久、門前　暁、野坂大喜、鷲谷清忠、吉岡治彦
情報処理委員会	◎對馬栄輝、平川裕一、川添郁夫、小山内　暢、七島直樹、鷲谷清忠、吉岡治彦、中村敏也
広報委員会	◎吉岡治彦、西村美八、小枝周平、牧野美里、寺島真悟、中野　学
保健科学研究編集委員会	◎古川照美、上谷英史、藤田俊文、對馬　惠、松本光比古、葛西宏介
国際交流委員会	◎小山内隆生、漆坂真弓、成田大一、中川公一、千葉　満、阿部由紀子、中村敏也
放射線管理委員会	◎中川公一、北宮千秋、井瀧千恵子、中原岳久、細田正洋、中川公一、門前　暁、小山内　暢、長谷川直正
図書委員会	◎野戸結花、西村美八、成田大一、對馬　惠、松本光比古、阿部由紀子
情報セキュリティ委員会	◎對馬　均、廣田淳一、對馬栄輝
FD 委員会	◎三崎直子、成田大一、田中　真、中川公一、七島直樹、藤岡美幸、工藤幸清、木立るり子、高見彰淑
機器管理委員会	◎伊藤功一、北島麻衣子、小枝周平、藤田俊文、門前　暁、千葉　満、葛西宏介、中村敏也
博士前期課程入学試験委員会	◎對馬　均、中村敏也、工藤せい子、木立るり子、細川洋一郎、中川公一、丹藤雄介、尾田　敦、野田美保子
博士後期課程入学試験委員会	◎對馬　均、中村敏也、西沢義子、尾田　敦、工藤せい子、細川洋一郎、松本光比古、三浦富智
研究発表会幹事	工藤幸清、細田正洋
学園便り企画･編集協力教員	米内山千賀子

組換え DNA 実験安全主任者	伊藤巧一
高度実践被ばく医療検討委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、齋藤陽子、漆坂真弓、西沢義子、野戸結花、井瀧千恵子、細川洋一郎、木立るり子、若山佐一、北宮千秋、中村敏也、冨澤登志子、柏倉幾郎
プロジェクト推進本部	◎對馬　均、〇木田和幸、齋藤陽子、西沢義子、木立るり子、中村敏也、柏倉幾郎
（継続事業強化・推進部門）	◎齋藤陽子、〇漆坂真弓、北島麻衣子、北嶋　結、井瀧千恵子、扇野綾子、高間木静香、横田ひろみ、細川洋一郎、真里谷　靖、細田正洋、小山内　暢、門前　暁、寺島真悟、吉野浩教、中村敏也
（高度実践看護教育部門）	◎西沢義子、〇野戸結花、山辺英彰、小倉能理子、冨澤登志子、井瀧千恵子、扇野綾子、細川洋一郎
（放射線リスクコミュニケーション部門）	◎木立るり子、〇若山佐一、北宮千秋、赤池あらた、川添郁夫、則包和也、田中　真、對馬　惠、武尾照子
（グローバル人材育成部門）	◎中村敏也、〇冨澤登志子、會津桂子、北島麻衣子、大津美香、成田大一、高間木静香、横田ひろみ、柏倉幾郎、真里谷　靖、細田正洋、千葉　満
高度実践被ばく医療専門家委員会	◎角　美奈子、井上智子、洪　愛子、立崎英夫、甲斐倫明

【保健学科関係管理運営】

学科長		對馬　　均
副学科長		木田　和幸
専攻主任	看護	齋藤久美子
	放射線	齋藤　陽子
	検査	高見　秀樹
	理学	石川　玲
	作業	野田美保子

委員会名	委員名（◎委員長、〇副委員長）
学務委員会	◎石川　玲、〇工藤幸清、井瀧千恵子、古川照美、祐川幸一、武尾照子、石川　孝、高見彰淑、對馬栄輝、加藤拓彦、小山内隆生
入学試験委員会	◎對馬　均、〇木田和幸、齋藤久美子、米坂　勧、齋藤陽子、真里谷　靖、高見秀樹、石川　玲、若山佐一、野田美保子、和田一丸
就職支援委員会	◎加藤拓彦、西村美八、三崎直子、細川洋一郎、中原岳久、千葉　満、葛西宏介、成田大一、藤田俊文、小池祐士
臨地・臨床実習に関する合同検討会議	◎木田和幸、工藤幸清、鈴木光子、齋藤陽子、中野　学、吉田英樹、平川裕一

Ⅲ. 平成 25 年度医学部保健学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士（　看護学　）：　８６名（　看護学専攻　）

氏　名	論　文　題　目
安倍　早紀	震災を経験した被災者が生活支援相談員になる過程と思い
飯田　哲子	アクティブビデオゲームを用いた運動におけるリラクセーション効果：性別による検討
五十嵐　温美 八幡　里穂	大学生が抱く死後の世界観の比較
石田　真衣 及川　慶典 成田　瑞穂	大学生の死生観について～デス・エデュケーションの必要性～
石田　美聡	看護学生の発達障害に関する理解度
伊藤　舞	ジェネリック医薬品に対する看護学生と患者の認識の違い
岩本　梨沙	喫煙後の抗酸化食品摂取による末梢血流変化：年齢による違い
因　直也	服薬行動と性格特性の関連
及川　理奈	看護学生の保健行動と Health Locus of Control の関連
大川　由夏 大坂　真未	妊婦と看護学生の NIPT に対する関心・知識・選択について
大沢　美紗姫	自助グループに所属するオストメイトのメンタルヘルス
太田　ゆきの 川村　まりあ	三世代間の離乳の移り変わり―昭和から平成―
太田　竜馬	中学生の生活習慣と健診結果の地域差
尾﨑　桃子 下山　佳菜絵 藤田　佳澄	妊婦体験ジャケット、沐浴人形が男子学生の子育てしたい気持ちに与える影響
尾崎　瑠奈 田中　優貴	テーブルクロスの色の違いによる塩味の感じ方への影響
長内　和奏	看護学生のキャリアアップ志向の実態
小野寺穂菜美 藤井　古都	介護施設の職員が認識する対応困難な認知症高齢者の徘徊の特徴と対応
欠端　礼 笹　恵津子	後頸部温罨法が生理的・心理的・主観的に及ぼす影響
鹿糠　幸菜 成田　秀貴	高齢者の口腔内の乾燥状態と栄養状態との相関について
鎌田　千尋	アクティブビデオゲームを用いた運動によるリラクセーション効果の検証：ストレスレベル及び自律神経機能

神成　真友子	看護学生の医療従事者への色のイメージとユニフォームの色彩が及ぼす影響
木村　彩乃	看護学生が臨地実習で経験する、患者が表出した思いと学生のその後の対処について
工藤　早紀	4 年制大学における看護学生の助産師教育に関するニーズ調査
高坂　真希	幼児の父親・母親の地域愛着と育児環境
古川　美沙希	乳がん患者の苦痛を軽減する看護師の関わり
小山　貴之	男子大学生の親準備性と小児虐待の認識
齋藤　偲乃	アロママッサージが不安、ストレスに及ぼす影響
坂井　未来	看護学生の性格傾向とストレスコーピングとの関連
佐々木奈津美	看護学生の食生活の実態について - 食習慣と生活習慣や健康観との関連 -
佐藤　茜	母親が抱く育児ストレスの要因に関する研究 - 子どもの年齢別に比較して -
佐藤　江理	中堅看護師の離職意図に影響する要因
佐藤　未菜弥	主介護者における高齢者在宅療養の継続要因
佐藤　友里恵	自己隠蔽・コミュニケーションスキルが感情表出の制御に与える影響
佐藤　吏子	看護者による入院中のがん患者と家族への心理的援助
佐藤　諒	一般社会人の脳死に対する考え方・臓器提供意思の実態
澤辺　千夏	医療処置を受ける幼児の痛みの程度と行動に表れる反応
島田　美優	がん患者の入院中に生じる困難と支えになったもの
清水　絵美梨	健康成人の趣味・嗜好品の有無における、QOL の主観的評価の特徴
進藤　初希	臓器提供経験施設における看護師の役割認識と価値観
神部　さつき	低用量経口避妊薬の服用者と非服用者の知識、認識の比較
菅原　秋穂	アロママッサージが腹部症状や感情に及ぼす影響
高橋　史帆	水中運動の運動強度の違いが感情に及ぼす影響
高山　遼 丹野　佑香	大学生が抱く死へのイメージの比較
田澤　彩香	アクティブビデオゲームを用いた運動によるリラクセーション効果の違い：感情及び生体反応
田中　小鉄	水中運動の運動強度の違いが夜間睡眠に及ぼす影響
田中　沙織	大学生の単独行動と孤独感・抑うつ状態の関連について
玉澤　明美	リンパ浮腫発症リスクを持つ患者の予防的セルフケア行動の知識と実施状況
中里　和樹	乳幼児期の子どもをもつ父親の育児不安について
中村　綾乃	看護学生の生活体験と社会的スキルとの関連
中村　和希	大学生の禁煙行動の実態について
西村　健大	看護学生における性格傾向が精神障害者への偏見に及ぼす影響
福士　由夏	“ほめる”ことで自分の印象はどう変わるのか？-ほめ方の違いによる比較-

藤村　歩	女子看護学生の子宮頸がんワクチン接種に対する認識
蒔苗　友理	独居高齢者における生活上の困難と支援方法
牧野　悠里子	教育場面において教員や指導者への印象が学業への意欲に及ぼす影響
松澤　亜里香 品田　奈津美	大学生の親性準備性に影響を与える要因
松田　侑理瑛	大学生の家族イメージと自尊心、親準備性との関連
三上　笑奈	育児休暇を取得した看護職者の職場復帰への不安と支援に対するニーズ
安里　真博	臨地実習における看護学生の看護観形成とそれに影響を与える経験
谷地向　益実	双子の授乳に関する文献検討
柳澤　みなみ	看護学生の孤独感と友人関係形成
柳谷　咲希	高齢者の視点からみた生活に必要な知識と技能

○学士（　保健学　）：　39 名（放射線技術科学専攻）

氏　名	論　文　題　目
中道　啓志	ディジタルマンモグラフィにおけるMTF－ノイズ，外挿，折り返しによる変化－
鎌田　郁哉	ディジタルマンモグラフィの物理特性 －MTF，WS，NEQ－
船島　健太朗	ディジタルマンモグラフィにおける最適線量の評価および W/Rh を用いた被ばくの低減化
阿部　沙紀	ディジタルマンモグラフィにおける拡大撮影のエッジ強調－FPDとCRによる比較－
井上　智香子	放射線電池の特性
木村　亜里沙	放射線発電の実証試験
伊藤　悠亮	パッシブ型ラドン・トロン弁別測定器の性能評価
奈良　彩乃	東北自動車道における空間線量率の継時変化
谷地　優紀	青森県における空間線量率の調査
高玉　慎吾	緊急時作業に係る被ばく線量の制限値設定に関する試み― 将来分の損害指標値を用いて ―
對馬　弘明	心臓の位置と冠状動静脈の走行・分布について
山下　智司	鎖骨下動脈の分枝、ことに椎骨動脈・上行頸動脈の変異について
佐藤　彰太	放射線照射によるマウス全身器官への組織学的影響
久保　大輔	腹腔動脈の分枝と肝内の動脈走行について
有賀　弘貴	２Ｄでみた一次運動野と利き手の関係

中島　登子	ＭＲＩを利用した脳の形態的特質に関する計測的研究－脳梁峡部の性差について－
柳本　一貴	ＭＲＩを利用した脳の形態的特質に関する計測的研究－脳梁後部の形態的特徴について－
高橋　拓人	X線照射で生ずるスクロースラジカルの研究
佐藤　譲	ネールへのX線照射において生じるラジカルのESR法による解析
柏崎　一宇	放射線の距離の逆２乗則について
山形　峰裕	放射線の距離の逆２乗則について
嵯峨　涼	ヒト線維肉腫細胞に対する4-メチルウンベリフェロン投与及び放射線照射併用による影響
山口　朋子	土壌の放射能比分析による福島第一原発事故由来のプルトニウムの飛散状況の評価
山本　誠也	Acute Promyelocytic LeukemiaにおけるCD38抗原発現と放射線抵抗性との関係
千葉　貴仁	線量計算Convolution法に用いる空中出力係数の算出方法の開発
井上　結衣	超放射線感受性領域を利用した低線量の分割照射による細胞致死効果
滝代　航也	CTにおける逐次近似法併用時の基礎的検討
秋庭　悠希	逐次近似法を併用した低管電圧撮影CTにおける被曝線量および造影剤の低減効果に関する基礎的検討
三浦　祐平	造影MRIにおける容積測定精度に濃度および形状が及ぼす影響の基礎的検討
清宮　健史	1.5Tと3.0T MRI 装置のMRAにおける飽和効果の違い
小倉　巧也	甲状腺の年齢による変化　～超音波エラストグラフィーによる検討～
高橋　みどり	CT検査における小児の被ばく線量
中島　英恵	白血病治療患者における造血幹細胞移植後GVHD発症と血中造血前駆細胞との関係性評価
古川　真帆	ウィルス核酸認識受容体に着目した抗腫瘍作用と放射線増感作用の検討
横山　昂生	マイタケ抽出成分の放射線防護効果の可能性について
石田　昌慶	甲状腺の年齢による変化　～超音波エラストグラフィーによる検討～
小向　隼人	放射線治療による肺有害事象に対する評価法としての肺血流シンチグラフィの有用性
中野渡　優志	Near Infrared Spectroscopy (NIRS) を用いた言語優位半球の判定
中村　歩美	Biodosimetry法におけるMicronucleus assay技術の最適化～二核細胞分画を増加させるための至適条件の検討～

○学士（保健学）：　３６名（検査技術科学専攻）

氏　名	論　文　題　目
相坂　　瑞穂	グルコサミンは糖尿病性神経障害類似の末梢神経障害を惹起する
秋田谷　美佑	ヒト末梢血部分被ばくシミュレーションモデルにおける Cell-cycle progression index の有用性評価
石田　　裕美	X 線照射がラット顎下腺細胞に及ぼす影響
氏家　里紗	未成熟（早期）染色体凝縮法（PCC）を用いた被ばく線量推定法の検討
大井　　惇矢	朝食摂取の有無が相撲稽古前後の好中球機能の変動に及ぼす影響
海鋒　亜梨紗	ヒアルロン酸合成酵素 HAS2 の Thr^{328} のリン酸化はヒアルロン酸合成に必須か？
金浜　　朱希	炭素線誘発マウス胸腺リンパ腫の発がん過程の年齢依存性について
川浪　　志保	幹細胞マーカー発現からみた腫瘍の悪性度
木村　　俊太	凍結保存による *Campylobacter* の菌数変動
工藤　　祐真	無機塩類と胆汁酸添加による腸炎ビブリオの発育性および TDH 産生量の変化
久米田　麻衣	Ⅰ型アレルギーにおける好塩基球の脱顆粒抑制に関与する免疫細胞の確認
斉藤　　史頼	福島県内に生息する野ネズミの低線量放射線被ばくによるミトコンドリア DNA への影響
櫻井　　真琴	退色細胞診標本における再染色の新たな試みー透明化試薬を用いてー
佐藤　　秋香	細胞外小胞エキソソームは MAP キナーゼ経路を介してターゲット細胞の細胞遊走を亢進させる
佐藤　　彩子	化学誘導早期（未成熟）染色体凝縮（PCC）法における fuzzy chromosome 形成メカニズムの解明
佐藤　あゆみ	乳がん細胞における *Phospholipase* A_2 *groupⅣc* のノックダウンによる *Lipocalin 2* の遺伝子発現誘導の機構解明
志田　　充	子宮内膜癌における β-catenin および p53 発現の意義
柴山　恵理佳	一般住民におけるメタボリックシンドロームと残存歯数の関係
菅原　　隆譲	子宮内膜癌における CD44 と E-cadherin 発現と臨床病理学的因子との相関
武内　　将大	アロフェン質土壌(黒ボク土)からの原虫類 DNA 抽出方法の構築
武田　　貞徳	L-amino acid oxidase の抗菌活性メカニズムの解明
武田　せりな	残存歯数と肺機能の関係
千葉　　彩香	プロテオグリカンによる骨粗鬆症予防効果の検討
千葉　　亮	ヒト末梢血 *ex vivo* 被ばくモデルにおけるメタボロミクスによる被ばくバイオマーカーの検索
寺島　　広一	Sca-1 発現を指標とした臍帯血由来造血幹細胞の免疫系再構築に関する検討
永岡　　華絵	SarA による毒素性ショック症候群毒素-1 産生の調節
難波　　泉	混合臍帯血移植による免疫系再構築の機序解明

橋本　　未来	後期高齢者での膵島病理組織学的特徴
藤崎　　瑞紀	細胞外小胞エキソソームのターゲット細胞への取り込み機構と遺伝子発現への影響
藤嶋　　洋平	野生動物（アカネズミ）の染色体異常を指標とした放射性物質の環境影響評価
古舘　　沙記	甲状腺癌鑑別困難例の立体的輝度解析による判別分析
前川　　千穂	AGEs（終末糖化産物）が好中球機能に及ぼす影響
三上　　悠輔	ウェスタンブロットによるラット血清タンパク質のカルボニル化へのX線の影響評価
山田　有伽理	子宮内膜類内膜腺癌における核異型評価法の確立とその意義についての検討
横山　　洸大	分子サイズの異なるサケ軟骨プロテオグリカンのマウス小腸での低分子化
佐藤　　秀信	ヒト食道癌細胞のアポトーシス機構に関与するbHLH型転写因子DECの機能解析

○学士（保健学）：２４名（理学療法学専攻）

氏　名	論　文　題　目
伊藤　達之	運動中の休憩時間の違いが心拍数および自律神経系活動に及ぼす影響
阿部　雄介	若年男性における胸郭拡張差と呼吸機能および姿勢との関連
石田　豊明	足関節底屈筋群に対する負荷特性の異なった筋力トレーニングが片側垂直跳び跳躍高に及ぼす影響
一戸のどか	ホットパックとストレッチングの同時施行によりホットパック施行時間の短縮は可能か？
大村　恒太	Split Squatの臨床での有効性について　～一般的なSquatとの比較～
尾上　奈穂	Navicular Dropと足部アライメントの関連性について−開始肢位の違いによる比較−
葛西　麻子	椅子座面高の違いが脳卒中患者のTimed Up and Go Testに与える影響
葛西　貴徹	姿勢間における腰部多裂筋筋厚と筋活動の違い
木村麻里子	健常若年成人における足底振動覚と立位バランス能力の関係
黒瀧　彩子	二重課題条件下での歩行速度は距離により変化するのか
佐藤　加奈	スパイク動作に対する即時フィードバックの効果～スパイク練習方法の違いによる変化～
奈良　毬那	青森県内のクラシックバレエダンサーの損傷・痛みの特徴とその関連因子について
成田　和生	神経筋電気刺激とストレッチングの同時施行の有効性に関する検討
成田　早紀	運動−呼吸同調が誘発されやすい条件下における,呼気延長呼吸の生理的効果に関する検討―呼吸循環応答,自律神経活動に着目して―

原　幹周	生理学的指標を用いた経皮的電気神経刺激(TENS)の疼痛軽減効果に関する検証
比留木由季	キネシオテーピングの馴化時間及び筋持久力に及ぼす影響について
福士　郁乃	感覚リズムと感覚－運動協調の関連性
福士　千尋	片脚立位姿勢の違いが重心動揺パラメータに与える影響について
安田　透	脳卒中患者の立ち上がり動作における座位前方リーチと下肢荷重力との関連
横野　良知	垂直跳びの跳躍高に対する大殿筋筋力増強運動の効果について－開放運動連鎖と閉鎖運動連鎖の比較－
辻　弥伸莉	児童の足趾把持力と運動能力の変化について
小山内太郎	両側および片側の星状神経節近傍へのキセノン光照射が自律神経活動動態および上肢循環動態に及ぼす影響
外舘　洸平	一側上肢PNFパターン方向の等尺性収縮が対側ヒラメ筋H波に及ぼす影響～上肢PNF伸展-外転-内旋パターンでの検討～
加賀　公広	健常人の歩行において歩行速度を変化させたときの歩幅と歩隔の関係について
菊池　浩平	頸椎牽引が自律神経活動動態に与える影響

○学士（保健学）：　20 名（作業療法学専攻）

氏　名	論　文　題　目
高橋　尚子	普通箸を使用した際の操作方法について
阿部　佑己	普通箸の操作訓練に用いる物品の重さの違いが操作方法に及ぼす影響
小志戸前　奈那	普通箸の操作獲得を目指して実施されている各種訓練は有効か？
常川　早紀	普通箸の操作獲得を目指した自助具と訓練方法の考案
東　弘幸	体幹の活動が脳卒中片麻痺者の下衣操作に及ぼす影響
上野　敦史	青森県鶴田町在住高齢者の歩数は降雪によって減るか？
高杉　早紀	青森県鶴田町在住高齢者の非積雪期の歩数と気象条件の関係
前川　美紀	青森県鶴田町在住高齢者の早歩きでの歩行時間は少ないか？
佐藤　里沙	色の記憶に与える対象物の典型色の影響
高橋　夏姫	統合失調症患者の塗り絵課題における色の適合性に与える影響
佐々木 雪乃	塗り絵課題における見本提示が感情に及ぼす影響
鶴ヶ崎 直己	折り紙課題における目標設定値の違いが感情に及ぼす影響
嶋田　咲	作業活動における自己による目標設定が感情に及ぼす影響
小笠原　牧	折り紙課題における自己による目標設定が作業成果に及ぼす影響
土肥　健	単語の表記の親近性が文字の認知に与える影響
鳴海　直希	日本語の表記方向の違いによる単語の認知 －縦書き・横書き－
三上　純	記憶形式の違いと探索課題の反応時間・正答率との関係 ～ひらがなとハング

	ルを用いて～
秋濱　裕貴	作業の進め方の違いが自己効力感に与える影響 - ペーパーブロックでの検討 -
古舘　真美	作業前音楽聴取は注意機能に影響を及ぼすか
武藤　祐子	脳卒中患者の睡眠障害と主観的回復感との関連

Ⅳ. 平成 25 年度保健学研究科博士（前期・後期）課程

学位論文題目一覧表

○修士（看護学）：　７名　　修士（保健学）：２３名

氏　名	論　文　題　目
加藤　亜衣子	看護専門学校における看護教員の職業的アイデンティティ形成過程とその支援
木村　　素子	ベッドからポータブルトイレへの移乗介助動作の分析
土屋　　涼子	意識障害のある患者に対する看護師の観察に関する実態調査
鎌田　　洋輔	仲間とともに参加するウォーキング・プログラムが高齢者の介護予防行動の継続にもたらす影響
笹竹　ひかる	放射線を用いた検査を受ける患者の思い
成田　　玲子	原子力災害時における訪問系サービス事業所職員の経験
山内　　瑶子	妊婦の飲酒実態と飲酒行動要因の分析
齊藤　　仁	アルツハイマー型認知症における局所脳血流低下とMini-Mental State Examination Scoreの関連性
辻口　　貴清	Expression profile of radiation responsive genes in human hematopoietic stem/progenitor cells －ヒト造血幹/前駆細胞における放射線感受性遺伝子の発現解析－
成田　　優輝	IMRT臨床プランにおけるTongue & Groove効果誘発誤差の事前評価法の開発
石田　　純一	頭部CT撮影における放射線防護材の水晶体被曝低減 -放射線治療計画装置を用いた被曝線量分布シミュレーション法による評価-
飯田　　岳陽	我が国で初めて土壌から分離したAstronyxid groupの病原性Acanthamoeba spp.
佐久間　勇太	腸炎ビブリオの発育に関する無機塩およびその濃度の影響
筒井　　理華	培養細胞を使用した病原性腸炎ビブリオの形態的検討
田中　　稔泰	高齢女性の転倒骨折予防のためのエプロン式ヒッププロテクターの開発とその受入 効果に関する研究
藤沼　　弘幸	頚肩腕症候群に対するスリング・サスペンション療法の有効性
丸山　　翔	注意の向け方の違いによる運動学習への影響
佐藤　ちひろ	脳卒中患者における運動麻痺の重症度と抑うつ状態の発生率との関係
小俣　　純一	静的ストレッチングと筋収縮後ストレッチングの臨床治療効果
小玉　　裕治	大腿四頭筋における電気力学的遅延と荷重動作時の反応の関連について
奈川　　英美	脳卒中患者に対する歩行観察の有効性

○博士（保健学）：　１３名

氏　名	論　文　題　目
工藤　藤美	Regulation of innate immunity by nucleotides －核酸による自然免疫調節機構の解明－
北嶋　結	MEASUREMENT OF ESTIMATED GLOMERULAR FILTRATION RATE IS USEFUL IN STROKE PATIENTS （脳卒中患者において推定糸球体濾過値の有用性について）
高間木　静香	Relationship between body mass index and course of pregnancy in women （妊婦のBody Mass Indexと妊娠経過との関連）
黒澤　繭子	臨床における看護職者の勤務状況と慢性疲労の現状に関する研究
出頭　佳子	Inadequate Awareness among Chronic Kidney Disease Patients Regarding Food and Drinks Containing Artificially Added Phosphate （慢性腎疾患患者における添加物としてリン酸が含まれた食品の不適切な知識について）
髙橋　純平	脳卒中片麻痺者の歩行自立判定に関する研究
松嶋　美正	高齢者における示指と足部の3分間セルフペース・タッピング運動の特性
中江　秀幸	在宅パーキンソン病患者における活動量および姿勢動態への効果的理学療法介入の検討
原田　智美	Study on the factors relating to the low walking ability among the healthy elderly living in a farming area with heavy snowfalls （豪雪地帯農村部に暮らす健常高齢者の歩行能力低下の要因に関する研究）
家入　章	人工股関節全置換術後の身体機能と健康関連QOLの関係
松嶋　弥生	妊産婦ケアに生起する“庇護性”に関する研究
蝦名　智子	臍帯血中に検出されるDNA酸化損傷マーカー 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine と母子因子との関連性
寺島　真悟	Effect of ascorbic acid and X-irradiation on HL-60 human leukemia cells: The kinetics of reactive oxygen species （ヒト由来白血病細胞株HL-60 に対するアスコルビン酸とX線の効果と活性酸素種の動態に関する研究）
吉岡　治彦	非がん細胞とがん細胞の鑑別における紫外・可視顕微分光法の有用性

平成 26 年度保健学研究科自己評価委員会

委員長	中村　敏也	（副研究科長・生体機能科学分野）
副委員長	木立るり子	（老年保健学分野）
委　員	細川洋一郎	（学事委員長・放射線生命科学分野）
委　員	石川　玲	（学務委員長・障害保健学分野）
委　員	山辺　英彰	（健康増進科学分野）
委　員	小倉能理子	（健康増進科学分野）
委　員	小枝　周平	（老年保健学分野）
委　員	樋口　毅	（障害保健学分野）
委　員	高見　彰淑	（障害保健学分野）
委　員	中川　公一	（放射線生命科学分野）
委　員	細田　正洋	（放射線生命科学分野）
委　員	石川　孝	（生体機能科学分野）
委　員	渡邊　純	（病態解析科学分野）
委　員	堀江　香代	（病態解析科学分野）
委　員	中村　勝之	（事務長）